

平成26年第1回与論町議会定例会会議録

目 次

会期日程	(4)
第1日(3月11日)	
開 会	6
開 議	6
会議録署名議員の指名	6
会期の決定	6
諸般の報告	6
町長の施政方針説明	7
議案第1号 与論町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 ..	19
議案第2号 茶花地区公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条 例	20
議案第3号 与論町総合運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例の一部 を改正する条例	21
議案第4号 与論町学校施設屋外運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条 例を廃止する条例	24
議案第5号 結団公園運動広場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する 条例	25
議案第6号 与論町社会教育委員条例の一部を改正する条例	26
議案第7号 与論町多目的屋内運動場の設置及び管理に関する条例の一部を改 正する条例	27
議案第8号 与論町砂美地来館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する 条例	28
議案第9号 与論町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	29
議案第10号 与論町一般廃棄物最終処分場の設置及び管理に関する条例	30
議案第11号 与論町水道事業給水条例の一部を改正する条例	34
議案第12号 与論町農業集落排水処理施設設置条例の一部を改正する条例	35
議案第13号 与論町使用料条例の一部を改正する条例	35
議案第14号 与論町行政財産の使用料徴収条例の一部を改正する条例	36
議案第15号 与論町死亡獣畜処理センターの設置及び管理に関する条例の一 部を改正する条例	37

議案第 16 号	与論町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例	40
議案第 17 号	職員の高齢者部分休業に関する条例の一部を改正する条例	41
議案第 18 号	与論町百合ヶ浜野営場設置条例を廃止する条例	42
議案第 19 号	与論町百合ヶ浜野営場管理に関する条例を廃止する条例	45
議案第 20 号	バースハウス設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	46
議案第 21 号	与論町百合ヶ浜キャンプ場・コテージ村の設置及び管理に関する条例	51
議案第 22 号	与論町観光開発拠点施設「サザンクロスセンター」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	52
議案第 23 号	ゆんぬ体験館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	56
議案第 24 号	平成 25 年度与論町一般会計補正予算（第 7 号）	57
議案第 25 号	平成 25 年度与論町国民健康保険特別会計補正予算（第 4 号）	58
議案第 26 号	平成 25 年度与論町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号）	63
議案第 27 号	平成 25 年度与論町農業集落排水事業特別会計補正予算（第 1 号）	64
議案第 28 号	平成 26 年度与論町一般会計予算	68
議案第 29 号	平成 26 年度与論町国民健康保険特別会計予算	76
議案第 30 号	平成 26 年度与論町後期高齢者医療特別会計予算	76
議案第 31 号	平成 26 年度与論町介護保険特別会計予算	77
議案第 32 号	平成 26 年度与論町と畜場特別会計予算	78
議案第 33 号	平成 26 年度与論町農業集落排水事業特別会計予算	78
議案第 34 号	平成 26 年度与論町水道事業会計予算	79
特別委員会設置及び委員の選任について		79
平成 25 年陳情第 17 号「立長コミュニティセンター（妙花館）の台風 24 号被災に係る改修工事費の一部負担に関する陳情」撤回の件		80
散 会		81

第 2 日（3 月 18 日）

一般質問	86
町 俊策君	86
林 敏治君	92
野口靖夫君	101

麓 才良君	114
喜山康三君	119
福地元一郎君	135
高田豊繁君	144
散 会	157

第3日（3月20日）

議案第35号 与論町漁港管理条例の一部を改正する条例	163
議案第36号 与論町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例	164
議案第37号 報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	165
議案第28号 平成26年度与論町一般会計予算	165
議案第29号 平成26年度与論町国民健康保険特別会計予算	166
議案第30号 平成26年度与論町後期高齢者医療特別会計予算	166
議案第31号 平成26年度与論町介護保険特別会計予算	166
議案第32号 平成26年度与論町と畜場特別会計予算	166
議案第33号 平成26年度与論町農業集落排水事業特別会計予算	166
議案第34号 平成26年度与論町水道事業会計予算	166
陳情第22号 多目的屋内運動場におけるバリアフリー対応施設の整備について（総務厚生文教常任委員長報告）	168
陳情第 3号 停電時に通信手段がない世帯に対する防災対策に関する陳情	169
陳情第 4号 与論町の広報体制の改善に関する陳情	169
陳情第20号 ハキビナ海岸東岸部における越波被害防止対策工事の実施についての陳情（環境経済建設常任委員長報告）	171
陳情第21号 ハキビナ長崎線海岸における越波被害防止対策工事の実施についての陳情	171
陳情第 1号 北智野里地区（仮称）農道の舗装整備について	171
陳情第 6号 TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情	171
発議第 1号 TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書の提出について（供利泰伸議員ほか3人提出）	174
議員派遣の件	175
閉会中の継続審査・調査について	175
閉 会	176

平成26年第1回与論町議会定例会会期日程

月	日	曜日	議 会 日 程
3	11	火	常任委員会 全員協議会 本会議(開会、施政方針、議案審議) 予算審査特別委員会(事業予定箇所調査)
	12	水	予算審査特別委員会
	13	木	予算審査特別委員会
	14	金	常任委員会
	15	土	休日
	16	日	休日
	17	月	議事整理日
	18	火	議会運営委員会 全員協議会 本会議(一般質問) 常任委員会
	19	水	議事整理日
	20	木	常任委員会 議会運営委員会 全員協議会 本会議(閉会)

平成 2 6 年第 1 回与論町議会定例会

第 1 日

平成 2 6 年 3 月 1 1 日

平成 26 年第 1 回与論町議会定例会会議録
平成 26 年 3 月 11 日（火曜日）午前 9 時 21 分開会

1 議事日程（第 1 号）

開会の宣告

- | | |
|-----|---|
| 第 1 | 会議録署名議員の指名 |
| 第 2 | 会期の決定 |
| 第 3 | 諸般の報告 |
| 第 4 | 町長の施政方針説明 |
| 第 5 | 議案第 1 号 与論町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 |
| 第 6 | 議案第 2 号 茶花地区公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 |
| 第 7 | 議案第 3 号 与論町総合運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 |
| 第 8 | 議案第 4 号 与論町学校施設屋外運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例を廃止する条例 |
| 第 9 | 議案第 5 号 結田公園運動広場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 |
| 第10 | 議案第 6 号 与論町社会教育委員条例の一部を改正する条例 |
| 第11 | 議案第 7 号 与論町多目的屋内運動場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 |
| 第12 | 議案第 8 号 与論町砂美地来館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 |
| 第13 | 議案第 9 号 与論町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 |
| 第14 | 議案第 10 号 与論町一般廃棄物最終処分場の設置及び管理に関する条例 |
| 第15 | 議案第 11 号 与論町水道事業給水条例の一部を改正する条例 |
| 第16 | 議案第 12 号 与論町農業集落排水処理施設設置条例の一部を改正する条例 |
| 第17 | 議案第 13 号 与論町使用料条例の一部を改正する条例 |
| 第18 | 議案第 14 号 与論町行政財産の使用料徴収条例の一部を改正する条例 |
| 第19 | 議案第 15 号 与論町死亡獣畜処理センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 |
| 第20 | 議案第 16 号 与論町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例 |

例

- 第21 議案第17号 職員の高齢者部分休業に関する条例の一部を改正する条例
- 第22 議案第18号 与論町百合ヶ浜野営場設置条例を廃止する条例
- 第23 議案第19号 与論町百合ヶ浜野営場管理に関する条例を廃止する条例
- 第24 議案第20号 バースハウス設置及び管理に関する条例の一部を改正する
条例
- 第25 議案第21号 与論町百合ヶ浜キャンプ場・コテージ村の設置及び管理に
関する条例
- 第26 議案第22号 与論町観光開発拠点施設「サザンクロスセンター」の設置
及び管理に関する条例の一部を改正する条例
- 第27 議案第23号 ゆんぬ体験館の設置及び管理に関する条例の一部を改正す
る条例
- 第28 議案第24号 平成25年度与論町一般会計補正予算（第7号）
- 第29 議案第25号 平成25年度与論町国民健康保険特別会計補正予算（第4
号）
- 第30 議案第26号 平成25年度与論町後期高齢者医療特別会計補正予算（第
3号）
- 第31 議案第27号 平成25年度与論町農業集落排水事業特別会計補正予算
（第1号）
- 第32 議案第28号 平成26年度与論町一般会計予算
- 第33 議案第29号 平成26年度与論町国民健康保険特別会計予算
- 第34 議案第30号 平成26年度与論町後期高齢者医療特別会計予算
- 第35 議案第31号 平成26年度与論町介護保険特別会計予算
- 第36 議案第32号 平成26年度与論町と畜場特別会計予算
- 第37 議案第33号 平成26年度与論町農業集落排水事業特別会計予算
- 第38 議案第34号 平成26年度与論町水道事業会計予算
- 第39 特別委員会設置及び委員の選任について
- 第40 平成25年陳情第17号「立長コミュニティセンター（妙花館）の台風2
4号被災に係る改修工事費の一部負担に関する陳情」撤回の件

2 出席議員（10人）

- | | |
|--------------|--------------|
| 1番 林 敏 治 君 | 2番 高 田 豊 繁 君 |
| 3番 町 俊 策 君 | 4番 林 隆 壽 君 |
| 5番 喜 山 康 三 君 | 6番 供 利 泰 伸 君 |

7番 野口靖夫君
9番 福地元一郎君

8番 麓才良君
10番 大田英勝君

3 欠席議員（0人）

欠員（0人）

4 地方自治法第121条による出席者（16人）

町長	南政吾君	副町長	川上政雄君
教育長	町岡光弘君	総務企画課長	沖野一雄君
会計管理者兼会計課長	佐多悦郎君	税務課長	久留満博君
町民福祉課長	南秀哲君	環境課長	福地範正君
産業振興課長	鬼塚寿文君	商工観光課長	富士川浩康君
建設課長	山下哲博君	教委事務局長	池田直也君
水道課長	末原丈忠君	与論こども園長	岩山秀子君
茶花こども園長	酒勺徳雄君	那間こども園長	高田りえ子君

5 議会事務局職員出席者（2人）

事務局長 川畑義谷君 係長 朝岡芳正君

開会 午前9時21分

-----○-----

○議長（大田英勝君） ただいまから、平成26年第1回与論町議会定例会を開会します。

これから、本日の会議を開きます。

-----○-----

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（大田英勝君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、4番林 隆壽君、6番供利泰伸君を指名します。

-----○-----

日程第2 会期の決定

○議長（大田英勝君） 日程第2、会期決定の件を議題にします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日から3月20日までの10日間にしたいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、会期は、本日から3月20日までの10日間に決定しました。

-----○-----

日程第3 諸般の報告

○議長（大田英勝君） 日程第3、諸般の報告を行います。

報告事項につきましては、印刷して配付してありますが、その概要につきましては、事務局長に朗読させます。

なお、本会議に提出されました請願・陳情につきましては、請願・陳情文書表のとおり、関係常任委員会で審査をお願いします。

事務局長。

○議会事務局長（川畑義谷君） 諸般の報告をいたします。

教育長から教育委員会活動の点検・評価報告書について、監査委員から平成26年2月分の例月現金出納検査結果報告書が提出されていますが、その写し（出納検査結果報告書については一部の写し）を配付してありますので、お目通しください。

なお、閉会中における町外での会議活動等については、次のとおりであります。

また、議会だよりについては、12月の定例会の内容を特集した与論町議会だより第110号を全世帯及び関係機関等に印刷配布してありますが、編集作業にあたった広報委員をはじめ御協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

以上で報告を終わります。

○議長（大田英勝君） これで諸般の報告を終わります。

—————○—————

日程第４ 町長の施政方針説明

○議長（大田英勝君） 日程第４、町長の施政方針の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） おはようございます。よろしくお願いします。

平成２６年第１回与論町議会定例会の開会にあたり、新年度における町政運営の基本的方針及び当初予算の概要等について申し上げ、町議会議員並びに町民の皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

まず、町制施行５０周年、奄美群島日本復帰６０周年など、歴史的節目を迎えた昨年は、町内外から多くの皆様が関連行事に御参画いただき、それぞれ盛会裏にイベントやお祝いができましたことに対し、改めて関係各位の皆様に衷心より感謝を申し上げます。

一方、昨年１０月７日に襲来した台風２４号は、家屋等の全半壊をはじめ、農業・商工観光業等の地域産業や公共施設等々、町内全域において甚大な被害をもたらしました。

近年の大型台風等の自然災害の脅威を再認識するとともに、町民の皆様が安心・安全に生活できるまちづくりの重要性を改めて通感いたしました。

相次ぐ台風被災からの復興支援、生活基盤等の復旧等が当面の最重要課題であり、２年続きの災害救助法の下で、国や県の支援を受けながら、現在全力で取り組んでいるところであります。

また、この復興支援に際しましては、御案内のように、全国の多くの方々から心温まる多額の義援金をいただきました。

我が町を物心両面で支えていただいているこれら全ての皆様方に対し、改めて大きな敬意と心からの感謝を申し上げる次第であります。

町の現状を案じつつ、未来に期待をかけていただいている皆様方の御厚意や善意にお応えするためにも、新年度は、更に強い決意と覚悟をもって、復興・発展に向けた町政運営や施策・事業の展開に取り組んでいく所存でございます。

さて、国においては、安倍政権の下で、長く続いたデフレ脱却と経済再生、財政の健全化を目指した取り組みをはじめ、地方分権の更なる推進、社会保障制度の改革、来る４月からの消費税の引き上げなど、大きな変革期を迎えております。

一方、懸案の奄振法の改正・延長に伴って、群島民はもとより県などの関係機関等が丸丸となって要請してきた交付金制度の新設が、お陰様でいよいよ実現の運びとなりました。

航路・航空路運賃の低減や農産物等の輸送コスト支援等により、島外との交流人口の増加や農産物等の物流コストの軽減が見込まれるところであり、地域経済の好循環が期待されるところです。

次に、平成26年度の予算編成の概要について申し上げます。

まず、国における政府の新年度一般会計予算は、社会保障関係費などの義務的経費を含めて聖域なく見直しを行った上で、経済成長にウエイトを置いた編成が行われ、対前年度比3.5%増の約95兆9000億円となっております。

一方、県における新年度の一般会計当初予算は、県政を支える行財政基盤の立て直しと経済や雇用の回復等に軸足を置いた、前年度比0.5%増の約7900億円となっております。

こうした中、本町の平成26年度一般会計予算の編成に際しましては、安心・安全のまちづくりの構築等を重点に、対前年度比0.54%増の37億8200万円の規模となりました。

また、特別会計については、国民健康保険（事業勘定）事業、と畜場、介護保険事業、農業集落排水事業、後期高齢者医療などの合計で、前年度比1.4%減の15億6800万円となっております。

加えて、企業会計の水道事業会計（事業費用ベース）については、前年度比19.5%増の1億9500万円となっています。

これらの一般会計、特別会計、水道事業会計を合わせた予算総額は、55億4500万円で前年度に比べて0.53%の増となっております。

次に、一般会計を中心に、歳入歳出予算の概要について御説明を申し上げます。

1 主な歳入予算について

まず、一般会計歳入予算のうち、基幹的収入である町税は3億966万7000円で前年度比で約882万5000円、2.9%の増であります。

地方交付税につきましては、19億4869万1000円と前年度より969万1000円の増額で計上しております。

国庫支出金につきましては、前年度より3631万円の減額、2億9708万7000円となっております。

県支出金は、前年度比1458万3000円の増額、3億188万4000円となっております。

町債の総額は5億8811万5000円となり、うち臨時財政対策債が1億4231万5000円、辺地債が1億8750万円、過疎債が9100万円、一般単独事業債が6020万円などとなっております。

また、消費税率の改定等に係る使用料及び手数料につきましては、2.5%増の

３５５８万７０００円となっております。

なお、予算編成の過程で生じた財源不足については、財政調整基金から１億１７４４万７０００円を繰入して対応することとしております。

２歳出予算における主な事業等について

次に、一般会計歳出予算のうち、主要な施策・事業について説明を申し上げます。

まず、衛生費では火葬炉設備増設工事費５５００万円、ごみ焼却炉施設整備事業費４０２９万円、農林水産業費においては耕地費の農道整備等の農村環境整備事業費２２４０万円、商工費でコテージ村及びマリン倉庫整備事業などの観光施設整備事業費７１３９万円、土木費で町道改良事業費８８３９万円、消防費で常備消防の消防救急無線デジタル及び通信指令設備整備事業負担金１億６６３万円、教育費では小学校及び中学校耐震補強工事費１億円などを計上しております。

なお、町債の元利償還に係る公債費につきましては、対前年度比で３％、１７５４万円増の６億２１３万円となっております。

次に、新年度の具体的な施策・事業等について、各分野ごとに御説明を申し上げます。

第Ⅰ 保健・福祉・医療

１ 保健衛生について

(１) 健康づくりの推進

- ① 町民の健康づくりに関する長期ビジョン「健康よろん２１」に基づき、これまで実施してきた実績を踏まえた健康づくり事業・施策の継続実施
- ② 各種がん検診・結核検診の実施及び受診率向上による、がん及び結核の早期発見と予防対策
- ③ 百寿のまちづくり５０人委員会及び各種団体との連携による「健康福祉フェスタ」を開催し、町民の健康と福祉の向上に向けた啓発活動の展開
- ④ 「８０２０運動」の推進による妊娠期から高齢者までの歯科口腔保健対策事業の継続実施

(２) 母子保健の推進

- ① 島外における妊婦検診・出産の際の宿泊費及び交通費に対する公費助成制度の継続実施
- ② 妊婦検診に対する公費助成の継続実施
- ③ 母親学級の開催、乳幼児健診及び健診後の各種相談や教室の継続実施
- ④ 地域ＩＣＴ利活用事業により、導入したモバイル胎児心拍伝送システム（子宝プラス）の活用

- ⑤ 医療支援を必要とする未熟児に対する養育医療費の給付継続
- ⑥ 島外での特定不妊治療を受診する際の宿泊費及び交通費に対し、離島地域不妊治療支援事業による公費助成を継続実施
- (3) 感染症対策の充実
 - ① 定期予防接種費用に係る町費助成の継続実施
 - ② 今年度10月から、「水痘」と「成人用肺炎球菌」のワクチンが定期接種に追加されることから、尚一層の定期予防接種事業の充実
 - ③ 与論町新型インフルエンザ行動計画の見直しと新計画策定
- (4) 火葬場に係る業務管理及び運営の円滑化
 - ① 管理・運営に係る委託業務体制の安定的・継続的な充実
 - ② 火葬炉の増設による安定した業務運営

2 医療・介護・福祉について

- (1) 国民健康保険事業（事業勘定）及び後期高齢者（長寿）医療制度の推進
 - ① 医療費及び保険給付費の適正化を図るため、ストレッチ、水中運動、エアロビクス教室等の健康づくり活動、精神障害者の社会復帰に向けた訪問指導、心の健康づくりなどに力点を置いた保健事業の継続実施
 - ② 40歳以上の加入者を対象にした特定健康診査（糖尿病等の生活習慣病に関する健康診査）及び特定保健指導（健診結果に基づく保健指導）の充実
 - ③ 「特定健康診査等実施計画」に基づき実施した実績の検証と更なる充実
 - ④ 県後期高齢者医療広域連合と連携した後期高齢者医療（長寿）医療制度の円滑な運営及び事業推進
- (2) 高齢者福祉の増進
 - ① 老人クラブ等の運営活動の継続支援
 - ② 敬老者に係る施策事業の継続支援
 - ③ 独居老人及び災害時要援護者等に対する支援の充実
 - ④ 介護給付費の適正化及び介護保険事業の健全運営
 - ⑤ 地域包括支援センター及び介護予防拠点センターにおける高齢者等支援活動の強化（総合相談や介護予防事業、権利擁護事業等への取り組みなど）
 - ⑥ 第6期介護保険事業計画及び高齢者保健福祉計画の策定と介護保険事業・施策の充実
- (3) 障害者福祉の推進
 - ① 与論町障害者福祉計画に掲げるノーマライゼーション（障害者や高齢者

などと健常者を区別することなく、誰もが「普通に暮らせる社会」を目指す考え方)の具現化に向けた施策・事業の継続推進

(4) 児童福祉の充実

- ① 就学前の子供たちを対象に、幼児教育及び保育を一体的に行う「認定こども園」の継続実施
- ② 町次世代育成支援行動計画（平成26年度まで）に代わる町子ども・子育て支援事業計画の策定
- ③ 「町子育て支援金条例」に基づく、少子化対策及び出産奨励のための施策事業の継続実施
- ④ 児童手当法による児童手当の支給（6月・10月・2月）

第Ⅱ 産業の振興

1 農業生産基盤の整備について

豊かで住みよい農村づくりを推進するために平成26年度も引き続き町民の御理解と御協力を得ながら効率的な農業生産を確保するため、次の農業農村整備事業を実施してまいります。

- (1) 県営農地整備（畑地帯担い手育成型）
岸元地区の継続整備
- (2) 県営農地整備（畑地帯担い手支援型）
第二真正地区の継続整備
- (3) 水質保全対策（耕土流出防止型）
古里地区の継続整備
- (4) 県営農地整備（畑地帯担い手支援型）
叶地区の新規整備
- (5) 農地・水・環境保全対策事業の継続実施

2 農業の振興について

日本の農業を取り巻く環境は原油高による生産資材や輸送費の高騰、農畜産物の輸入攻勢、産地間競争の激化、農業従事者の高齢化に伴う担い手農家の減少及び消費者の食の安全安心への関心の高まりなどや、国のTPP交渉等の国際化の動きなどますます厳しい環境になってきています。

このような中であって本町の農業振興については、台風災害からの早期の生産回復を目標に、さとうきび、畜産・輸送野菜、花き・果樹を重点品目とする複合経営の一層の推進を図ってまいります。

(1) さとうきびの振興

- ① 早期の生産回復・増産を図るため「さとうきび増産基金」などを活用

し、薬剤防除や堆肥等の投入による土づくりなどの推進

- ② 農家の経営安定対策を図るため、関係機関・団体との連携強化による農業共済制度の活用促進

(2) 園芸の振興

- ① 輸送野菜の生産拡大・品質向上のための種子代、トンネル施設及びパイプハウス等の資材代の一部助成
- ② 生産技術及び生産体系確立のための各種講習会や研修会等の実施
- ③ 農林水産物輸送コスト支援事業の活用による農家経営の安定

(3) 畜産の振興

畜産については、消費者の購買意欲の低下や外国産肉の輸入による価格低迷が続いていましたが、前年度後半より上昇傾向にあり、引き続き次のことに取り組んでまいります。

- ① 優良繁殖牛の保留及び導入、優良種牛の精液確保
- ② 飼料作物種子導入による低コスト飼料の確保
- ③ 敷料供給による畜舎環境の改善及び防疫対策の徹底

(4) 環境保全型農業の推進

- ① 堆肥センターの良質堆肥を活用した環境保全型農業の推進
- ② 有機認証農家やエコファーマーの育成及びかごしま農林水産物認証の推進

(5) 耕地防風林の造成推進として防風林用苗木代の一部助成の実施

3 水産業の振興について

水産業については、原油高による燃料費の高騰や漁価の低迷等、依然と厳しい状況にありますが、今年度も引き続き離島漁業再生支援交付金を活用した諸事業を実施するとともに、農林水産物輸送コスト支援事業の活用による漁家の経営安定を図ってまいります。

4 漁港の整備について

漁業従事者の漁船の安全確保と施設整備の充実を図り、漁港としての機能強化を図ってまいります。

- (1) 茶花漁港機能保全計画の策定
- (2) 南海岸防災基本計画における漁港区域の事業化推進

5 治山・海岸保全事業の推進について

南海岸防災基本計画策定後の各地区における治山事業や海岸保全事業等の推進

6 商工観光業の振興について

町内の商工観光施設等については、近年まれにみる2年連続の猛烈な台風の襲

来により、甚大な被害を被り、島内経済が大きな打撃を受けました。

その結果、観光面の風評被害が懸念されるところであり、復興に向け積極的な取り組みが求められております。

新年度は奄振交付金の農林水産物輸送コスト支援事業、航空・航路運賃低減事業により群島民や観光客の交流、物流の活性化が期待されることから、航空会社や船舶会社との連携強化を図りながら、情報収集、地の利をいかした沖縄エリアを基点とした誘客システム造成のため努力してまいる所存です。

そこで、次のことを重点施策として商工観光業の振興発展に努めてまいります。

(1) 商工業の振興

近年、本町でも少子化や高齢化等により商店街を取り巻く環境は大きく変わり、商店街の衰退傾向が顕著なことから、商店街の活性化が急務であり、地域住民の安心・安全に配慮した施設・設備整備等の商店街づくり事業や恒常的な集客力・販売力を高めるにぎわい補助金事業等の公募事業を導入することにより、快適でにぎわいのある商店づくりを目指します。また、これまで開発してきた「与論特産品」を全国販売できるような体制づくりに努めてまいります。

(2) 観光産業の振興

① 誘客対策

- (ア) 航空・船舶会社及び各旅行業者・観光連盟等関係機関への積極的なアプローチ及び緊密な連携の強化
- (イ) 各種イベント等の内容充実【ヨロンマラソン2015（第24回）】
- (ウ) 各種メディアの活用、取材・撮影協力及び高速インターネットを活用するとともにホームページ等内容の一層の充実によるPR活動の推進
- (エ) 観光協会主催各種イベント（ヨロン島ファン感謝祭、月酔祭・音楽芸能祭）を活用した島内外への情報発信
- (オ) 「ゆんぬ体験館」を拠点に、島全体を体験フィールドとした体験型観光（修学旅行等）の推進
- (カ) 九州新幹線の全線開通に伴う県観光連盟や奄美群島観光物産協会及び沖縄県コンベンションビューロー主催事業の中でキャンペーンの共催やPR活動を一層推進する等、各島々と連携しスケールメリットを活かした誘客活動の展開
- (キ) 魅力ある観光地づくり事業等の県単独整備事業や奄振国庫補助等の

導入による観光地としての景観整備

(ク) 夏場の入り込み増を図るため個人旅行客やファミリーをターゲットにした商品の企画造成

② 受入態勢の充実

(ア) 貴重な自然や文化資源を観光資源として活用できるよう景観美化を進めながら、体験メニューの充実や新たな旅行商品の企画造成

(イ) 老朽化した観光施設の整理及びリニューアル化の推進

(ウ) 民泊受入等着地型観光推進のための態勢づくり推進

③ 推進体制の充実

(ア) 観光を担う人材の育成やガイドの養成

(イ) 関係機関及び各種団体等の役割分担の明確化による連携体制を確立し、文化交流やスポーツ活動等積極的な地域間交流の促進

(ウ) 観光ルネッサンス事業の内容を十分に反映させるため、原点に戻ったPR方法や観光地としての受入態勢を全町民の問題として捕らえ、より実践的な組織づくりに向けたアクションへの移行

第Ⅲ 生活基盤の整備

1 道路・交通について

交通基盤の整備につきましては、町民生活の利便性の向上や各種産業振興を図る上で必要不可欠であることから、次の事業を行ってまいります。

(1) 町道

- ① 白石線・立長5号線支線・牛道線・窪舎前岸線の改良舗装整備
- ② 宇勝叶線の舗装整備
- ③ 社会資本整備総合交付金事業上田線及び那間茶花線の改良舗装整備
- ④ 町道の部分改修や路肩法面・路面補修等の維持管理と点検、整備
- ⑤ 町道等の改良整備に伴う適切な登記嘱託事務の促進

(2) 県道

茶花小学校前交差点の事業化推進と、東区十字路や茶花中央通り空港線等の未改良区間について、早期着工整備が図られるよう強く要請してまいります。

(3) 港湾・空港

県と連携し、与論港における運行船舶や旅行者及び荷役作業等の安全性と利便性や円滑化が図られるよう港湾施設の整備を推進してまいります。

また、与論空港については、空港施設のより一層の安全性が図られるよう努めてまいります。

- ① 与論港の岸壁面の補修、防舷材の取り替え
- ② 与論空港における、要改善箇所の改修や空港の安全利用の推進
- ③ 防災基本計画における与論港供利地区海岸線の事業化推進

2 住宅の整備について

町内の公営住宅の需要や町営住宅の老朽化に対応するため、民間賃貸住宅の需給状況等を考慮しつつ、町営住宅の建設とともに、県と連携し県営住宅の建設を推進してまいります。

- (1) 既存町営住宅の耐震診断、公営住宅ストック総合改善事業の実施
- (2) 県営住宅3号棟の建設（25年度～26年度）及び指定管理業務の執行
- (3) 家賃収納事務の更なる合理化の推進

3 水道事業について

水道事業につきましては、公営企業としての使命と責任を十分認めるとともに、経営コストの削減に努めつつ、台風・地震等の災害防止に備えて「安全でおいしい水の安定供給」を目指し、次のことに取り組んでまいります。

- (1) 水質の安定
 - ① 浄水場の機能充実
 - ② 水質の常時監視体制の強化
- (2) 経営の安定
 - ① プラントの運転コストの削減
 - ② 高い有収率の維持継続
 - ・配水管流量監視システムによる流量監視
 - ・漏水多発路線の布設替工事
- (3) 施設の危機管理体制の整備
 - ① 自家発電設備の整備充実
 - ② 大型台風、耐震補修、補強方法の費用等の検討
 - ③ 配水地の新設、増設の検討

4 農業集落排水事業について

集落排水事業については、次のことに取り組んでまいります。

- (1) 適正な管理運営
 - ① 機器類の点検整備及び環境汚染の防止
 - ② 加入率の向上及び生活環境の保全並びに収入の確保

5 環境保全について

環境保全については、町環境総合計画に沿って次のことを推進してまいります。

(1) ごみ処理

- ① 適正なごみの分別意識や不法投棄防止等の啓発
- ② リデュース（排出抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再利用）の「3 R 運動」の推進による循環型社会の構築
- ③ 昨年に引き続き、木造家屋関係の台風災害廃棄物受入処理による復興支援
- ④ 町内で排出される可燃ゴミ排出量抑制及び廃棄物処理施設の延命化、廃棄物処理費用関連の財源確保等のため、一般廃棄物処理手数料の改正準備
- ⑤ 清掃センターの老朽化に伴う建替えのための準備業務

(2) し尿処理

合併処理浄化槽の年次的整備（国庫補助事業）を継続実施し、住環境整備及び地下水の水質保全を図ります。

(3) 美ら島づくり（緑化推進）

パナウル王国にふさわしく、花と緑豊かな島づくりのため、町全体の取組となるような花の苗の提供や島のイメージにふさわしい花木の植栽を推進し、自然と環境に対する意識が高まるような島づくりを進めてまいります。

6 消防防災・防犯・交通安全について

消防防災・防犯・交通安全については、次のことに取り組んでまいります。

(1) 消防防災

- ① 広報活動等、町民の防災意識の高揚の推進
- ② 消防団員の補充や訓練の実施、消防資機材の整備等による消防防災体制の強化
- ③ 各自治公民館の自主防災組織と連携した防災訓練の実施
- ④ 常備消防の無線デジタル化による消防・緊急搬送態勢の強化

(2) 防犯

- ① 防犯灯の維持管理等
- ② 与論町防犯協会・警察・ユンヌ安心パトロール隊との連携活動の強化

(3) 交通安全の推進

- ① 警察及び交通安全協会等の関係機関と協力した各種啓発活動の展開
- ② ガードレールやカーブミラー設置等による交通安全環境の整備

第Ⅳ 教育・文化

本町の教育は、日本国憲法並びに教育基本法の理念、県の教育方針、地区教育行政の教育目標に基づき、第5次与論町総合振興計画を踏まえ、国際化・少子高齢化・高度情報化など変化の激しい社会に即応できる能力の伸長を図り、心身と

もに調和のとれた人間の育成に努めます。

学校・家庭・地域社会等との一層の連携を図り、「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」を目指し、「与論町の教育的な伝統や風土を生かした誠の教育・生涯学習を推進」します。

そのために、「豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」「社会で自立できる生きる力を育む教育」「開かれた学校・信頼される学校づくりの推進」「地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進」「生涯にわたって学べる環境作りとスポーツ・文化の振興」を重点施策として掲げ、教育委員会の活性化を推進し教育行政の充実を図ります。

1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

基本的な生活習慣を身に付け、法やきまりを遵守し、規律ある適切な行動ができる主体的・積極的な人間を育てることが重要です。

本町は、「誠の島」と謳われ、「東洋の海に浮かび輝く一個の真珠である」と讃えられている美しい自然と風土があります。この環境を生かし社会でたくましく生き抜くために、他人を思いやる心や夢や理想を持ち、粘り強く学び努力する礎となる体力・気力を醸成する教育を推進します。

2 社会で自立できる生きる力を育む教育

子供たちがグローバル化し変化の激しいこれからの社会で適切に対応して生きるために、基礎・基本を確実に身に付けるとともに、自ら学び、考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力をはぐくむ教育を推進します。

また、本町で継承されている伝統文化を尊重し、それらをはぐくんできたふるさと・郷土や国を愛し誇りにする態度を養うことや望ましい勤労観・職業観を身に付けさせます。

さらに、情報教育や環境教育などの社会の変化に対応した教育や特別支援教育など、子供の状況に応じた教育の推進にも努めます。

3 開かれた学校・信頼される学校づくりの推進

学校の教育活動を適正にするため、保護者・地域住民から学校教育に対して幅広く意見を聴くことができる、双方に意見交流が行える、開かれた学校・教育委員会づくりを推進します。

また、学校運営を充実させ、教職員資質の向上や保護者・地域との連携を深め、安心・安全な環境づくりなどを通して、信頼される学校づくりを推進します。

更に、幼児（園）・小学校・中学校・高等学校との連携を充実させ、より一貫した教育の推進が図れるようにします。

4 地域全体で子供を守り育てる学校づくりの推進

教育の振興は、地域・保護者の担う役割が大きいものです。本町は、PTA活動が活発であり、伝統、体育・スポーツ・文化的な地域行事も受け継がれており、子供を「島の宝」として地域で育てる風土が残っています。

今後も、種々のグループ、コミュニティ、関係機関等の活性化、さらに相互の連携の充実を図り、地域全体で子供を守り育てるための取組を推進します。

5 生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興

町民が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたって、あらゆる機会にあらゆる場所で学べる環境づくりを目指します。

スポーツ活動は、心身両面にわたる健康の保持増進に必要なものであり、郷土の伝統文化や文化財を守り育て、様々な芸術に親しむことは、ふるさとの理解や豊かな感性の涵養に必要なものであることから、スポーツや文化の一層の振興を図ります。

第Ⅴ 町政運営の推進体制

行財政改革等を柱にした町政運営の推進体制については、主な事項として次のことに取り組んでまいります。

1 行政改革等について

- (1) 平成24年度から導入中の指定管理者制度について、対象施設の拡大を検討
- (2) 定年退職者等に係る再任用制度の実施
- (3) 正職員、臨時職員を問わず業務に対するモチベーションの向上及び町民サービスの向上に努力
- (4) 老朽化が著しい庁舎移転に係る外部検討会の実施

2 財政改革について

- (1) 町税等の基幹的な歳入確保及び徴収率の向上を図るため、収納対策室の人的拡充

3 住民参加の体制強化について

週報やホームページ等の情報公開による外部意見の収集及び提言等の反映に努めるとともに、各種委員会や懇談会等による広聴機会の拡大

以上、平成26年度の町政運営に係る基本的方針と当初予算の概要等について御説明を申し上げます。

これらの施策・事業等の推進に際しましては、新年度が「第5次町総合振興計画」の「第1期実施計画」の最終年度に当たることから、同実施計画の進行管理及び見直し作業を行うとともに、新年度中に「第2期実施計画」を新たに策定

し、より効率的な行財政の運営に努めてまいる所存であります。

町議会をはじめ、町民の皆様方の一層の御理解と御指導・御鞭撻を衷心より重ねてお願い申し上げまして、平成26年度の施政方針とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

○議長（大田英勝君） 町長の施政方針の説明を終わります。

暫時休憩します。10時25分から始めたいと思います。

-----○-----

休憩 午前10時13分

再開 午前10時25分

-----○-----

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

-----○-----

日程第5 議案第1号 与論町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する 条例

○議長（大田英勝君） 日程第5、議案第1号、与論町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第1号、与論町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

平成26年4月1日より消費税が5%から8%に変更されることによるものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げます、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。5番。

○5番（喜山康三君） 直接これに関わることはありません。これは消費税の値上げに伴ういわゆる改正だということでお聞きしているんですが、今度消費税がさらにまた近いうちというか、何年おきかにまたあるということで、そのたびにこういう条例改正をするのではなくて、必ずこの0.08という数字を載せなくちゃいけないかということと、消費税の値上げに準じてこういう形でやるという形で改正しておけば、のちの改正はいらないんじゃないかなという感じがするんですけど、その辺は技術的に可能かどうか、それでちょっとお答えいただければと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 私ども行政もですけど、一般の方々も非常にこの消費税の改正

については、非常に大きなあれがあると思うんですが、今度は数字が出るものですかから全部やらなければいけないんじゃないかというふうに考えているんですが、一応また監査と相談したり、確認をする必要があるんじゃないかと思います。今まで私自身それを聞いたことがないものですから、だから自分の考えとしては、数字になると、それを交互にやらなければならないんじゃないかという思いをしているわけですが、また調べてみたいと思います。（「はい、結構です」と呼ぶ者あり）

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第１号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第１号については、委員会付託を省略することに決定しました。これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第１号、与論町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第１号、与論町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第６ 議案第２号 茶花地区公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第６、議案第２号、茶花地区公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第２号、茶花地区公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

平成２６年４月１日より消費税が５％から８％に変更されることによるものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げます。提案理由の説明といた

します。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第２号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第２号については、委員会付託を省略することに決定しました。これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第２号、茶花地区公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第２号、茶花地区公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第７ 議案第３号 与論町総合運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第７、議案第３号、与論町総合運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第３号、与論町総合運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

平成２６年４月１日より消費税が５％から８％に変更されることによるものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。7番。

○7番（野口靖夫君） 重要なことを2点お聞きしたいと思います。今この喜山さんが消費税に関するそれを質問されましたが、私がお聞きしたいのは、本当にその消費税が転化されて、その利用者に転化されて、請求されて、それが徴収されているのかということが、まず第1点。

もう1点は、次の審議予定になっておりますが、防犯灯とかいろんな照明施設があります。その施設に関する消費税もあると思うんですよ。ただし、あると思うんですけども、結局は台風で吹っ飛んでしまって、その場所にその防犯灯がないというようなのも多数見受けられます。だからそういうのを逐次点検する必要があると私は思うんです。だから、執行においては、本当に利用者に転化されて、それが確実に徴収されるものなのかということの確認。

そして、設置はしたんですけども、それが台風とかいろんな諸事情でなくなってしまってる。それも多いから再確認する必要があるんじゃないかということを疑問に思うから質問するわけなんです。それに対して、執行部のほうはどう思っておられますか。

○議長（大田英勝君） 総務企画課長。

○総務企画課長（沖野一雄君） ただいまの御質問は、総合運動場の夜間照明施設だけではなくて、全般に関わることだと思いますので、私のほうでお答えさせていただきます。

消費税の5%から8%の国の改定に伴って、各全国の自治体も使用料、手数料すべて改定をしろという国の指導があります。当然のことでございますので、私どももそのような国の意を受けまして、全部5%から8%に引き上げを行うという作業を行っております。ですから、今御指摘の転化という部分につきましては、漏れなく転化を行っていく。もし例えば管理委託とか、そういったところの出先関係、民間に委託しているところであろうともすべて転化をしていただくような形で今お願いをしているところでございます。

もう1点は、その施設の必要に応じてその改修を行うべきところ、あるいはその壊れているところ、そういったところがあれば当然補修をしなくちゃいけませんし、補修をしないままその料金をいただくというのは、またいかがなものかという点もあろうかと思っておりますけども、そこはしっかり整備を進めながら、合わせて必要な補修が行なわれて、適正な運用がなされているところについては、しっかり転化をした形で徴収していくという形にしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） 執行部がこの5%から8%にその条例を書き換えることは必要だと私は言っているんです。それがだめだと言ってるんじゃないくて、それはそれ当然のこと。当然のことだけでも、今申し上げましたように、消費税が変わった以上は利用者に対して確実に転化されて、徴収されなければならないということがまず第1点です。

もう1点は、この前から議論になっておりますが、心配されるのは、例えば、与論町全体には、防犯灯とかああいうのはいっぱいありますね。なので九電からは請求書が来るわけですよ。それも8%の消費税がつくわけですよ。そうした場合は、行政としてはそれは払わないといけないわけですよ。そうなった場合に問題があるから、私が聞いたのは、そこら辺のその転化される割には、確実にその物があるかということを確認しなければいけないわけですよ、物があるかということ。いわゆる消費税、税がかかるわけですから。そういうことの確認も必要じゃないですかということでもって、これから今まで議論してきたことの中で、これからそういう確認も必要じゃないでしょうかということの質問なんです。それに今総務課長がやるということですので、それでいいんですけども、ぜひ一つそういうところを見落とさないように、ぜひ頑張ってくださいということをお願いしておきます。

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第3号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第3号については、委員会付託を省略することに決定しました。これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第3号、与論町総合運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第3号、与論町総合運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第 8 議案第 4 号 与論町学校施設屋外運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例を廃止する条例

○議長（大田英勝君） 日程第 8、議案第 4 号、与論町学校施設屋外運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例を廃止する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第 4 号、与論町学校施設屋外運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例を廃止する条例について、提案理由を申し上げます。

学校施設屋外運動場夜間照明施設老朽化に伴い、撤去済みであるためであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。6 番。

○6 番（供利泰伸君） 夜間照明を撤去したとのことですが、これは全校全部撤去したわけですか。

○議長（大田英勝君） 教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（池田直也君） 国の一部補助金でもう既に 30 年もっと前から使っていたのですが、台風とか、あるいは錆で全く使えない状態であるということで、今回、条例の廃止をしたところですよ。全く使えない状態です。（「撤去はしてないんですよ」と呼ぶ者あり）一部電柱だけ残っているところもあります。

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第 4 号は、会議規則第 39 条第 2 項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 4 号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第 4 号、与論町学校施設屋外運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例を廃止する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第４号、与論町学校施設屋外運動場夜間照明施設設置及び管理に関する条例を廃止する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第９ 議案第５号 結囲公園運動広場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第９、議案第５号、結囲公園運動広場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第５号、結囲公園運動広場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

平成２６年４月１日より消費税が５％から８％に変更されることによるものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第５号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第５号については、委員会付託を省略することに決定しました。これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第５号、結囲公園運動広場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第５号、結囲公園運動広場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第10 議案第6号 与論町社会教育委員条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第10、議案第6号、与論町社会教育委員条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第6号、与論町社会教育委員条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

この改正は、第3次一括法の条例委任事項に係る政省令の整備に伴う社会教育委員の委嘱基準を条例で定めるものです。

御審議の上、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。7番。

○7番（野口靖夫君） 教育長、ちょっとお聞きしたいんですが、この条例改正によって、中身がどれだけ違うものなのか。もちろん、今町長の提案理由の説明の中で話されたわけなんですけど、この中身をもうちょっと詳しく御説明いただけませんか。

○議長（大田英勝君） 教育長。

○教育長（町岡光弘君） ここに比較表を持ってきてないので、また後ほどいたします。一部分だけ、確か今の記憶の中で、学識経験という文言のところが追加されてたというふうに記憶しております。比較表をまた後ほど提示したいと思います。すみません、提出物が欠けておりました。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） 教育長、それが悪いというわけではないですが、その学識経験というのが、本当にその中身がちょっとわかりづらいから質問しているわけでありますから、その中身の学識経験とはいかなるものかというものをちょっと定義的に、ちょっと内容が理解し難いということから質問しているわけですので、それも一緒にあとで御答弁いただきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 暫時休憩します。

-----○-----

休憩 午前10時45分

再開 午前10時47分

-----○-----

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第6号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第6号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第6号、与論町社会教育委員条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第6号、与論町社会教育委員条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第11 議案第7号 与論町多目的屋内運動場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第11、議案第7号、与論町多目的屋内運動場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第7号、与論町多目的屋内運動場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

平成26年4月1日より消費税が5%から8%に変更されることによるものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第7号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第7号については、委員会付託を省略することに決定しました。
これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第7号、与論町多目的屋内運動場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第7号、与論町多目的屋内運動場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第12 議案第8号 与論町砂美地来館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第12、議案第8号、与論町砂美地来館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第8号、与論町砂美地来館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

平成26年4月1日より消費税が5%から8%に変更されることによるものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第8号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第8号については、委員会付託を省略することに決定しました。
これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第8号、与論町砂美地来館の設置及び管理に関する条例の一部を
改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第8号、与論町砂美地来館の設置及び管理に関する条例の一部
を改正する条例は原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第13 議案第9号 与論町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第13、議案第9号、与論町職員の給与に関する条例の一
部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第9号、与論町職員の給与に関する条例の一部を改正する
条例について、提案理由を申し上げます。

この改正は、本町一般職員の期末手当及び勤勉手当の支給率を、国家公務員等の
支給率に準じ改定するため、与論町職員の給与に関する条例の一部を改正しようと
するものです。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といた
します。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第9号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会
付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第9号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第9号、与論町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第9号、与論町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第14 議案第10号 与論町一般廃棄物最終処分場の設置及び管理に関する条例

○議長（大田英勝君） 日程第14、議案第10号、与論町一般廃棄物最終処分場の設置及び管理に関する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第10号、与論町一般廃棄物最終処分場の設置及び管理に関する条例について、提案理由を申し上げます。

与論町一般廃棄物最終処分場の完成に伴い、平成26年4月1日から施設の供用開始となることから、本条例を制定するものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。7番。

○7番（野口靖夫君） 条例のことについてではありませんが、町長、これは4月1日から施行するとありますが、今の工事の推移の中で、4月1日にこの最終処分場はオープンできそうですか、どうですか。この見通しをちょっと何かあったらお聞かせいただけますか。

○議長（大田英勝君） 環境課長。

○環境課長（福地範正君） ただいまの御質問にお答えいたします。

ただいま最終処分場の現場におきましては、外構工事関係が若干残っております。それで今業者に特例をお願いしながら進めているところでありますが、3月いっぱいまでにはちゃんと完成いたしまして、4月1日からの供用開始は大丈夫という、そう予定しております。（「予定じゃなくて、大丈夫でしょう」と呼ぶ者あ

り) 大丈夫です。

○議長(大田英勝君) 5番。

○5番(喜山康三君) 今回、一般質問の中にもごみ問題についてするつもりですが、この処分場のいわゆる延命というものはある意味将来に対して負の資産を残さないために、この設備をできるだけその延命措置のためにどういう運営するかということにつきると思うんですが、この辺についてのこの内容については特別に考慮とか、何かつくられていますかね。この条例に伴って。

○議長(大田英勝君) 町長。

○町長(南 政吾君) そのことについては、焼却の量をいかに減らすかという努力とやっぱりある程度その量を減らすことによって延命する。一応海のそばですので、施設についてはそれを考慮した施設になっているわけですので、あとそれを長く長期に渡って使用するという事になれば、その焼却灰をできるだけ少なくすることによって延命を図っていくということで、その対策を今いろいろと検討しているところです。

○議長(大田英勝君) 8番。

○8番(麓 才良君) その延命に関することなんですが、ごみ焼却所が今台風被害等もあり、非常に老朽化しているのはおわかりのとおりですが、このごみ焼却所の建設方策はどうなっているんですか。ここから排出される焼却灰がこの最終処分場で処理されるわけですが、そうするとごみ焼却場の設置というのもこの延命化に非常に連携してくることなんですが、その焼却所の方向付けはどうなっているんですか。

○議長(大田英勝君) 町長。

○町長(南 政吾君) ごみ焼却所については、確かにおっしゃるとおり、焼却灰の量についてもそのごみ焼却所の能力も関係してくるわけでありましてけれども、今のところ私どもとしては予算的な問題と位置の問題、場所の問題ということで順序を決めて、完全に最終処分場ができあがってからまたやりたいという考え方でやっているわけです。今使っているごみ焼却所は既に耐用年数を過ぎているわけで、非常に無理をしている状況であります。直し直しもう少し頑張ってもらいたいということで、今あの手この手を使っているわけです。しかしながら、これが完全にもう操業ができなくなったら大変な問題になりますので、今年の台風でもやられまして、相当堆肥センターにそのごみを収集して、二重の経費をかけた状況であるわけがあります。それも考慮しながらできるだけ早く作り直したいと。きのうもその担当の業者の方をお招きして、今できている焼却場をどうしたら少しでも長くきちっと使えるようにできるかというその相談もしたわけでありまして、既にその手は今度の予算の中にもあるわけですが、補修の点、電気系統をしっかりと守ればまだま

だ大丈夫だというお答えいただいていますので、その点の補修を今度予算にも組み込んでお願いをしている段取りにしております。

○議長（大田英勝君） 8番。

○8番（麓 才良君） 最終処分場が動くということは、そのいろんな町民の啓発の面でも一つのポイントになってくると思います。今ありましたように、ごみ焼却場の設置についても今後いろんな面で検討を進めていかなければなりませんし、東北のほうでも既にそういう方向で担当課を中心にした形で検討されているというのはお伺いもしているんですが、ごみ焼却所の件については、その施設の概要をどういう方式でとっていくのかということも大きなポイントになってくると思います。それに伴って、町民のごみに対する意識の改革、要するに、どういう形でこの島を環境にいい島にしていくかということの根底にかかわってくるもので、大きなサイトの中で検討すべき問題だと思います。そういうことで、この最終処分場の供用開始にあたっては、そういうことも念頭に置かれて、町民への啓発も十分検討していただきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その件についても全くおっしゃるとおりでありまして、きのう業者の方と相談したのは、いろんなどういう施設が必要かという件についてもいろいろ御相談したり、指導を受けたりしたわけではありますが、まずおっしゃるとおり、その場所だけが問題ではなくて、施設まで全部総合的に町民を網羅した形の意見を収集するのが必要になりますので、例えば、今の焼却場と同じ規模をつくったときに、例えば15年度までの経費はどうなるか。また、あれをピットだけ大きくしてから、今は半日しか動いてないもんですから、やっぱり機械自体が、設備自体がずっと火を通したほうがある程度長持ちするという設計になっているものですから、その場合はもう半分でやっている、そういう点のまたマイナス面も検討して総合的な資料をつくってから、4月1日にはこの最終処分場は稼働しますので、早速その検討を広く町民にもお願いをして、委員も組織してやりたいというふうに考えております。

○議長（大田英勝君） 5番。

○5番（喜山康三君） この中に設置及び管理に関する条例となっていますが、私がさっき申し上げたのは、運用においていかに長期運用を図るかということが大事ではないですかということです。だから、その長期運用を図るための努力をしなくてはいけないという形で、この条項に入れて、その長期運用をするための様々な手立てとか、そのことが今後もっと様々な形で必要だと思うんですよ。だからこれに設置、管理及び運用に関する条例という形にして、運用上のいわゆる延命策についての条

項も必要ではないかということで申し上げているつもりなんです、要綱等です。いただければいいのではないかと思いますがいかがでしょうか。

○議長（大田英勝君） 環境課長。

○環境課長（福地範正君） ただいまの御質問の件であります、確かに条例では細かなことが決められておりません。細かいことにつきましては、規則で定められていることになっております。ただ今議員が申し上げられました運用という形ですが、その延命化ということだと思いますけど、この処分場の延命化に関しましては、環境課としては、いかに焼却灰を減らすかということにつきると思います。だからその方面のこのことはまた清掃センターの運用にも関わってくるのだと思いますが、排出ごみの抑制とか、いろんな形でこの条例とは別個に取り組んでいきたいと思えます。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） この運用についてですが、運営委員会が発足されますので、その中でその延命について、今課長が言ったのも含めて、いろんな角度から検討が必要だと思います。それは運営委員会のほうでやってまいりたいというふうに思っております。

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第10号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第10号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第10号、与論町一般廃棄物最終処分場の設置及び管理に関する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第10号、与論町一般廃棄物最終処分場の設置及び管理に関する条例は原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第 15 議案第 11 号 与論町水道事業給水条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第 15、議案第 11 号、与論町水道事業給水条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第 11 号、与論町水道事業給水条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

平成 26 年 4 月 1 日より消費税が 5 % から 8 % に変更されることによるものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第 11 号は、会議規則第 39 条第 2 項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 11 号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第 11 号、与論町水道事業給水条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 11 号、与論町水道事業給水条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第 16 議案第 12 号 与論町農業集落排水処理施設設置条例の一部を改正する

条例

○議長（大田英勝君） 日程第16、議案第12号、与論町農業集落排水処理施設設置条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第12号、与論町農業集落排水処理施設設置条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

平成26年4月1日より消費税が5%から8%に変更されることによるものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第12号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第12号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第12号、与論町農業集落排水処理施設設置条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第12号、与論町農業集落排水処理施設設置条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第17 議案第13号 与論町使用料条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第17、議案第13号、与論町使用料条例の一部を改正す

る条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第 13 号、与論町使用料条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

平成 26 年 4 月 1 日より消費税が 5 % から 8 % に変更されることによるものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第 13 号は、会議規則第 39 条第 2 項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 13 号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第 13 号、与論町使用料条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 13 号、与論町使用料条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第 18 議案第 14 号 与論町行政財産の使用料徴収条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第 18、議案第 14 号、与論町行政財産の使用料徴収条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第 14 号、与論町行政財産の使用料徴収条例の一部を改正

する条例について、提案理由を申し上げます。

平成26年4月1日より消費税が5%から8%に変更されることによるものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第14号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第14号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第14号、与論町行政財産の使用料徴収条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第14号、与論町行政財産の使用料徴収条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第19 議案第15号 与論町死亡獣畜処理センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第19、議案第15号、与論町死亡獣畜処理センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第15号、与論町死亡獣畜処理センター設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について提案理由を申し上げます。

平成26年4月1日より消費税が5%から8%に変更されることによるものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げます、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。7番。

○7番（野口靖夫君） 総務課長にお聞きいたします。今まで消費増税による条例改正の議論をしてまいりました。その中で私が今聞きたいのは、これは予算審査の中で質問してもいいと思うんですが、ここまで消費税増税による条例改正をしてきたわけでありますから、まずその一般会計当初予算を審査する前にお聞きしておきたいと思います。そうなりますと、地方譲与税もかわってくると思います。地方譲与税、消費譲与税の交付金、国から来る交付金もかわってくると思います。また、町民から徴収する消費税による額もかわってくると思います。そこでお聞きしたいのは、そのかわっていくことを念頭に入れて平成26年度予算は計上されたものなのか。上程されたものなのか。ここに提案されたものなのかということをお聞きしてみたいと思います。全くそれも考えないでこの一般会計予算を、いわゆる予算案として計上されたものなのかということをお聞きしてみたいと思います。今わかっている範囲内で、総務課長としてのお考えです。どうも一般会計予算には前年度が4000万円、本年度は4000万円、同じ金額が予算化されております。ですから、私はお聞きするんです。消費税の増税によることももう目に見えているわけです。もちろん今から国が参議院を通過するのですが、もうこれはほぼ決定しているわけですから、その中でこれは難しい質問です。だからそういうことを勘案されてこの予算を計上されているのかどうかということの質問です。

○議長（大田英勝君） 総務企画課長。

○総務企画課長（沖野一雄君） お答えを申し上げます。まずちょっと基本的な話から申し上げてみたいと思います。消費税につきましては、4月1日から御案内のように5%から8%に改定になります。その内訳は、地方に、地方というのは鹿児島県、都道府県及び市町村になりますが、それにあわせて配分されるお金になりますけども、地方消費税率というのがございまして、8%のうちの1.7%、現行は1%ですけれども、1.7%に上がります。（「それはわかっている。わかった上で、上がった分をどう勘案してやられるのかということをお聞きしているんですけど」と呼ぶ者あり）はい、簡単にひとくくりで申し上げますと、一部、例えば歳入においては町税とか、あるいは使用料、手数料というところは転化した数字であげているところもございまして。しかしながら、歳入はどうしても押さえ込みながらで見込まな

くてはいけないところがありまして、完全にその消費税、単純に3%上乗せした形では計上しておりません。歳出のほうでは、当然例えば指定管理委託料であるとか、そういったところは転化をしております。しかしながら、今おっしゃる御質問に対してのお答えとしましては、十分反映されているとはいいい難いんですけれども、一部は反映されておりまして、例えば、歳入ですが、これから税が増えてくるところにつきましては、当然補正という形で対応させていただきたいと思っております。そういう意味で、当初予算につきましては、必要最小限の見込みで計上させていただいております。

以上です。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） 私はそこを聞きたかったんです。というのは、これから毎年来る災害、台風災害等で町民の収入、所得が下がって、住民税が下がることは考えられますね。だけれども消費税は上がるわけだから、そのいわゆるその増税分は与論にも入るし、また国から降りてくる交付金も増えてくるわけです。だからそうなった場合に、総務課長、いわゆる町長がその大型の補正予算を考えておられるのか、ということ念頭に置いておられるのかということをお聞きしたかったんです。そのときに、どういうふうにもその補正予算をどこに持っていくかということも、これからの問題になってくると思います。上がった分ですよ、大きくなった分、膨らんだ部分を。だからそういうことも念頭に置いて考えておられるのかどうか。今の時点、現時点で考えておられるのかどうかということをお聞きしたかったんです。一応その中身は今からどういうことが起きるかわかりませんから、それを述べてください、お聞きしたいということではありません。だから頭の中にそういうこともあり得るということも念頭に入れておられるのかどうかということをお聞きしたかったということだけなんです。

○議長（大田英勝君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第15号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第15号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第１５号、与論町死亡獣畜処理センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第１５号、与論町死亡獣畜処理センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第２０ 議案第１６号 与論町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する
条例

○議長（大田英勝君） 日程第２０、議案第１６号、与論町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第１６号、与論町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例について提案理由を申し上げます。

この改正は、平成２０年４月１日に「老人保健法」が「高齢者の医療の確保に関する法律」に改題されたことに伴い、与論町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正するものです。

御審議の上、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第１６号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第１６号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第１６号、与論町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第１６号、与論町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第２１ 議案第１７号 職員の高齢者部分休業に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第２１、議案第１７号、職員の高齢者部分休業に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第１７号、職員の高齢者部分休業に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

この改正は、地方公務員法第２６条の３第１項の改正により、高齢者部分休業の対象年齢を条例で定めることとなったため、職員の高齢者部分休業に関する条例の一部を改正しようとするものです。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第１７号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第１７号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第17号、職員の高齢者部分休業に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第17号、職員の高齢者部分休業に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第22 議案第18号 与論町百合ヶ浜野営場設置条例を廃止する条例

○議長（大田英勝君） 日程第22、議案第18号、与論町百合ヶ浜野営場設置条例を廃止する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第18号、与論町百合ヶ浜野営場設置条例を廃止する条例について提案理由の説明を申し上げます。

大金久海岸に隣接する百合ヶ浜野営場は昭和62年に整備を行い、来島する観光客や合宿の他、島の小学校の宿泊体験学習の場として活用してきたところであるが、平成24年度より進めてきた観光施設整備事業により、老朽化していたシャワー・トイレ施設のリニューアル整備と今年度新たにコテージ・炊事棟の整備を進めてまいりました。

これまでのキャンプ場施設に加え、新たにコテージ・炊事棟の整備ができたことで、これら施設を一体的に管理・運営するため新たな条例を設置し、上記条例を廃止するものです。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。7番。

○7番（野口靖夫君） 昭和62年に設置されたということを、私も記憶しておりますが、これを廃止する場合には、新しい条例を制定しなければならないと思っております。というのは、施設があるわけですから、その施設を今度は管理運営する、どこかが決まらなければならないと思うんです。そういう場合に、その今持っておられる構想というものを、まずこれを廃止する時点で、新しくできるその新規条例と

いう構想を我々にも聞かせていただかなければ、同時にこれ廃止は難しいと思うんですよ。というのは、それなりにその役割は果たしてきたわけでありますから、新しいその今町長も御答弁がありましたけども、新構想をお持ちのようでありますから、その構想を今わかっている範囲内でお聞かせいただきたいということなんです。

○議長（大田英勝君） 暫時休憩いたします。

-----○-----

休憩 午前 11 時 33 分

再開 午前 11 時 43 分

-----○-----

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

7 番。

○7 番（野口靖夫君） だから、私が申し上げているのは、今課長が答弁されたとおりに言えればいいわけですよ。というのは、議事録にこれは残さないといけないわけです。というのは、与論島は観光離島ということで、いろんな施設をつくってまいりました。だけどそれがうまい具合にその当時は、我々議会で答弁されるときは、議会に向かつては立派に管理運営していきますとか、いろいろと文言つけてやっていきます。ということでしたけれども、今課長が言われた言葉をそのまま議事録に残すことによって、本当に管理運営されているものなのか、しっかり運用されているものなのか。どういう人に指定管理されているのか。その指定管理をされているときにどういう課長のお気持ちで、あるいは町長のお気持ちで指定管理されたのかということを議事録に残さないと、行く行く後々のいわゆる議員の方々でも、一般町民が質問されたときでも答弁ができない。そういうことから私は質問しているわけです。だから、今言われたことを、そのとおりのことを議事録に残したほうがいい。それをさっきから言っているのに、あとでまた議題を出しますから、条例案を出しますから、あとでその議論しましょうと言ったらですよ、そう言われたら、今言ってるこの 1 行文言でもって、我々はい賛成しますと言ったらどうなるんですか。それが議会ですか。それが議論ですか。そうじゃないでしょう。この 1 行の文言を我々は中身を掘り下げて議論しなければならない。そのときによって、ああなるほど町長はこうお考えになっておられる。担当課長もこう考えておられる。だから我々もそうだったら賛同しようということで、議会で議決になるわけでしょう。それを申し上げているんです。さっきからそういうレベルの低い話をしているんです、私は。レベルの高い話をしているんじゃない。今言っていることは簡単なことですよ。レベルの低い話です。私の質問は大体レベルが低いんですから、そう思えばいい。そのとおり答弁されたらかみ合うわけですよ。あとで答弁しますと言って、いったい

いつするんですか。議決してから答弁したって意味がないでしょう。そこを申し上げたいのです。しっかりしないといかんですよ、執行部は。私は声を荒げてここで申し上げるのは久しぶりなんですけども、昔はよくしたけどね。久しぶりなんだけども、議会というのは、お互いに緊張感を持って、お互い思っていることを申し述べる。そして政策論争する。その中で、みんなで責任を持って意見した以上は、議会も執行部も取り組んでいくというのが議会でしょう。そういう意味からして申し上げているんです。町長そうでしょう、町長、どうですか。町長にちょっと今お聞きしてみたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 確かに議員のおっしゃる筋道としておっしゃるとおりだと思うんですけども、ただこれをその皆さんに御審議をお願いするときの順序として、やっぱりおっしゃるとおりだと思うんですけど、提案するほうからすると、まずどういう理由でこれを廃止しますと、そして、またそのかわりにこういう施設になりましたのでこういうふうに条例を決めてやりたいと思います。そして、今度は次にその運用は今までですと町でやっていたわけですけども、それを今度、変更するときには、指定管理でやりたいから条例にしたいと思いますので、御審議をお願いしますという段取りでしかできないわけですが、その前もっての説明が非常に足りなかったという点は、非常に申し訳ないと思うんですけども、ただその書類のこの出し方については、お認めいただきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 7 番。

○7 番（野口靖夫君） あのね、町長、私が思ったのは、その段取り、順番はそれでいいです。条例案ですから。1 号議案、2 号議案順序を追って審議していくのはいいことなんです。それをいってるんじゃないくて、私が言ってるのは、このあなたが提案されたこの 18 号議案の中身は 1 行しかない、1 行。議案を審査するときに 1 行で議論できますか。私はそこを言っているんです。その中身を、1 行だけで判断することはできないでしょう。そこを議論するのが議会なんです。議論を深めようということじゃないですか。1 行だけ出してきて、町長が言うように、資料だけもらえば、それで最後は賛成して、それで皆さんはいいかもしれませんが、町民はそれで納得はしないですよ。そこを言ってるんです。だから今しっかり課長が答弁されましたからね、そういうことを議事録に残すことが大事なんです。ということを申し上げて、一応、この点は終わりにします。

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第 18 号は、会議規則第 39 条第 2 項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第18号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第18号、与論町百合ヶ浜野営場設置条例を廃止する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第18号、与論町百合ヶ浜野営場設置条例を廃止する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第23 議案第19号 与論町百合ヶ浜野営場管理に関する条例を廃止する条例

○議長（大田英勝君） 日程第23、議案第19号、与論町百合ヶ浜野営場管理に関する条例を廃止する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第19号、与論町百合ヶ浜野営場管理に関する条例を廃止する条例について、提案理由を申し上げます。

大金久海岸に隣接する百合ヶ浜野営場は昭和62年に整備を行い、来島する観光客や合宿の他、島の小学校の宿泊体験学習の場として活用してきたところであるが、平成24年度より進めてきた観光施設整備事業により、老朽化していたシャワー・トイレ施設のリニューアル整備と今年度新たにコテージ・炊事棟の整備を進めてまいりました。

これまでのキャンプ場施設に加え、新たにコテージ・炊事棟の整備ができたことで、これら施設を一体的に管理・運営するため新たな条例を設置し、上記条例を廃止するものです。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第１９号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第１９号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第１９号、与論町百合ヶ浜野営場管理に関する条例を廃止する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第１９号、与論町百合ヶ浜野営場管理に関する条例を廃止する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第２４ 議案第２０号 バースハウス設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第２４、議案第２０号、バースハウス設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第２０号、バースハウス設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

昭和５８年度に整備したバースハウスは大金久海岸利用者のトイレ・シャワー施設として活用してきたところであるが、平成２４年度より進めてきた観光施設整備事業により、老朽化していたシャワー・トイレ施設の整備と今年度新たにコテージ・炊事棟の整備を進めてまいりました。

バースハウスのリニューアルに加え、新たにコテージ・炊事棟の整備ができたことで、これら施設を一体的に管理・運営するため上記条例を改正し、百合ヶ浜バースハウスについては、新たに設置する条例で管理・運営についての規定を設けるこ

とします。

また、百合ヶ浜バースハウスを本条例から除外するにあたり、これまで、同じバースハウス施設として一体的に管理していた中金久に設置しているバースハウスを本条例において明記するものです。

御審議の上、議決していただきますようお願い申し上げます、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。7番。

○7番（野口靖夫君） 非常にいいことをされたと思います。前の観光課長の久留課長が頑張ってこられた賜だと思います。本当に感謝いたします。そこで、今町長が提案理由の説明をされた運営規定の中でいろいろとそのルール等運営の方法を定めるとおっしゃられました。恐らくそうなると思います。そこで、予め観光課長、お聞きしておきたいと思うんですが、その運営といいますか、使用料もその中に入っていると思いますが、そのときに、今の現行のままで維持できそうですか。それとも改正するお考えですかということ。

また、今、一生懸命観光課のほうで修学旅行等の誘客に頑張っておられますが、そうした場合、その団体のお客さんがだいぶ増えてくると思うんですよ。ウィンドサーフィン等の競技がある場合には。そういう団体的な客が増えてくるときにその使用料と、普通の一般使用料と一緒にのかどうかということの、その事前の構想だけ考えて、あなたが今持っておられる構想、どのように運営規定の中に盛り込んでいきたいとお考えか。そこだけ聞かせていただけないか。

○議長（大田英勝君） 商工観光課長。

○商工観光課長（富士川浩康君） 今回提案したのは、運営委員会を（「あんたの構想」と呼ぶ者あり）設置しなければいけないということで、金額的にはこれに明記してあるんですけど、その中身を、運営委員会にかけて、それが適した料金なのかということが、一応そこで決定すると思われませんが、この修学旅行とかの使用料の場合は、運営委員会の理事に委託とか、そのウィンドサーフィン等の団体に関しては旅館組合とか、そこが交渉するということでやっているわけです。それで料金については、例えば、修学旅行とかがきた場合には、半額にするとか、またいろいろそういうことは考えられるんじゃないかと思います。ですから、運営委員会で決定するということになると思います。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） なぜ私が、こういう質問をするかといいますと、運営規定を執行部の皆さんが考えられていますが、まず上程されるときには、ここに提案される

ときには、もう既に大体決まっているはずなんです。それを我々が認めるか、認めないかだけです。ほとんどそうなります。それでいいかということで、私は疑問を感じたものでお聞きしているわけなんです。なぜかと言うと、修学旅行の方々は、一括してそのバースハウスを利用します。例えば、運動サークルとか何かと、選手の方々もいわゆる大会をするときは一括して利用しますね。一人一人お金を払って利用しないでしょう。一人一人お金を払った場合には、そのハウス自体が起動しなくなる。それが予想されます。だから、そこで団体の場合は、大体どのように考えているのか。一般個人はどう考えるのかということは、事前に執行部の皆さんが、担当課の皆さんが考えておいたほうがいいんじゃないですかということで、予めお聞きしているんです。その意味はわかりますか。わかりますね。修学旅行のときに一人一人お金を払って利用できないでしょう。団体で利用するから利用できますね。そういうこともあることから、その運営規定の中でその使用料は団体の場合はどう、個人の場合はどう、というところもある程度今のうちに考えて運営規定を提案されたほうがいいということを申し上げたんです。だから、これ町長の答弁じゃなくて、あなたがやるべきことだから、あなたに聞いているんです。それについてもう1回、今の部分だけちょっと答弁していただだけませんか。運営規定の中でのその使用料、団体の場合、個人の場合はどう考えておられますか。それはもちろん運営委員会が決めることなんでしょう、運営委員会というのは、どっちかと言ったらそういうのは決められないと思うんですよ。ある程度原案というのが、いわゆる皆さんが考えた行事でしか議論できないと思いますから、そこの部分を、観光課長が個人的にはどうするのかということをお聞きしているんです。

○議長（大田英勝君） 暫時休憩します。

-----○-----

休憩 午後0時00分

再開 午後0時01分

-----○-----

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

商工観光課長。

○商工観光課長（富士川浩康君） お答えします。団体のときは、その割引ということ考えております。その額がどのくらいというのは、まだ具体的にはないんですけども、今この条例に出しているのは一般的なことで、それよりは安くということ考えるのではないかと考えております。

以上です。

○議長（大田英勝君） 暫時休憩します。

-----○-----

休憩 午後0時02分

再開 午後1時29分

-----○-----

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き、議案第20号についてです。5番。

○5番（喜山康三君） 百合ヶ浜という名称から中金久という名称に変更するわけですが、その行政的な形での名称変更なのか、その場所に表示するときに、その百合ヶ浜という名前をそのまま残して使うのか。その理由は、例えば、船が入港するときに、お客さんが、与論港と言ったらどこですかとか、行政上は茶花港も供利港も与論港ですと。船の中では、与論の供利港に入港しますとか茶花港に入港しますと言います。だけど、その行政上で与論港等、いろんな名称を使ったときに、使い勝手として非常に問題があるんじゃないかと思います。いわゆる周知されていないということです。普通、観光客にも、地元の方にも、中金久といたら、「はて」ということになってしまいませんかということがあるわけです。だからこういう名称をつけるときには、やはり町民にもある程度周知されていて、なおかつ観光客にとって百合ヶ浜といって紹介するのと、中金久ですと紹介するのではちょっと意味合いがまた全然違ってきますので、この辺もきちっと考慮する必要があるのではないかと思います。その辺についても考えられたのかなというのがあるのですが、町長は、この点をどうお考えですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 全くおっしゃるとおりで、その点については早速検討して、きちんとやりたいと思います。（「ぜひお願いします。じゃあ課長」と呼ぶ者あり）

○議長（大田英勝君） 商工観光課長。

○商工観光課長（富士川浩康君） 今回この中金久バースハウスとしたのには理由がありまして、このバースハウスは、現在の百合ヶ浜のところにあるものとシーマンズと赤崎に設置されています。（「シーマンズにバースハウスがあるんですか」と呼ぶ者あり）あります。コイン式でトイレについでシャワーがあります。それで、コテージのところは百合ヶ浜という名称を使っていますから、2つとも同じ百合ヶ浜ですと、ちょっと間違える可能性があるので、シーマンズの方を中金久ということになりました。

○議長（大田英勝君） 5番。

○5番（喜山康三君） 要するに、今の御説明によると百合ヶ浜バースという名称で、2つが包括されているから、混同するということですよ。（「そうです」と呼ぶ

者あり）要するに、県道から百合ヶ浜に降りて行って中金久に降りたときの場所が、やっぱり観光客も、町民も百合ヶ浜といったらだいたいあそこを概念的に捉えているのではないかと。そしたら、もう一つあるんだったら、ほかの町民の周知されているような場所名を出して、別途名称をつけたほうがいいのではないかと。その辺をほかの例えば浜の名前とか、観光地案内するときはその辺の人が勝手に浜の名前をつけたり、いろんなのをやっていますよね。結局、それでそのお客さんに聞かれても困ることが以前もありました。だから、その浜の名称とか、そういうもので一番大事なのは、町民がよく知っているかどうかという名称じゃなくてもいいですよ。観光客に尋ねられたときとか、いわゆる宿の方とか、その辺の通称というものもきちっと大事にして、そのイメージから外れないような名前の形でやっていかないと、やはりその混同したり、混乱したりするのがあると思うので、今後、観光においても、この辺の名称をすとか、案内すとか、ガイドブックも含めて、すべて名称もきちっと統一するような形でやっていただきたいということをお願いしておきます。

以上です。

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第20号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第20号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第20号、バースハウス設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第20号、バースハウス設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第 2 5 議案第 2 1 号 与論町百合ヶ浜キャンプ場・コテージ村の設置及び管理
に関する条例

○議長（大田英勝君） 日程第 2 5、議案第 2 1 号、与論町百合ヶ浜キャンプ場・コテージ村の設置及び管理に関する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第 2 1 号、与論町百合ヶ浜キャンプ場・コテージ村の設置及び管理に関する条例について提案理由を申し上げます。

大金久海岸に隣接する百合ヶ浜野営場や百合ヶ浜バースハウスは昭和の末に整備を行い、これまで多くの観光客・地元住民の利用に供してきましたが、平成 2 4 年度より進めてきた観光施設整備事業により、老朽化していたシャワー・トイレ施設の整備と今年度新たにコテージ・炊事棟の整備を進めてまいりました。

これら施設を一体的に管理・運営するため上記条例を制定するものです。

御審議の上、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第 2 1 号は、会議規則第 3 9 条第 2 項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 2 1 号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第 2 1 号、与論町百合ヶ浜キャンプ場・コテージ村の設置及び管理に関する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 2 1 号、与論町百合ヶ浜キャンプ場・コテージ村の設置及び

管理に関する条例は原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第 2 6 議案第 2 2 号 与論町観光開発拠点施設「サザンクロスセンター」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第 2 6、議案第 2 1 号、与論町観光開発拠点施設「サザンクロスセンター」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第 2 2 号、与論町観光開発拠点施設「サザンクロスセンター」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について提案理由を申し上げます。

平成 4 年に観光拠点施設として整備したサザンクロスセンターは、町の直営で運営し、入館料を 2 0 0 円でスタートしました。平成 1 8 年度よりヨロン島観光協会を指定管理者として運営を委託してきましたが、入館料が他の民間の運営する観光施設と比べて安価なため、民間企業を圧迫することのないよう、同等価格まで引き上げるため条例を改正するものです。

御審議の上、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。5 番。

○5 番（喜山康三君） これはいわゆる指定管理をするための手続きではないかなという感じで見受けているんですが、この前にもスポーツクラブもありましたが、指定管理をするにあたっての一つの指針だとか、要綱みたいなものをどういう形でこれをやるんだという、その方向付けみたいなものがあるのかどうか、伺いたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） サザンクロスセンターができた目的は、奄美の民具関係の展示場ということでできたわけですが、実際は島にお出でになるお客さんにいろんな民具等を中心としてごらんいただくということでやってきたわけですが。もちろん、地域での中核になるようにいろいろ料金等を検討して、実際には運営してきたわけですが、内部の内容充実とか、いろんな点で民間でやっておられるのと比較して、だいぶ差があるということで、そういうこともありまして料金的に安くしてきたわけですが、最近になって、指定管理にしてから大分またいろいろと充実をしてきたという点もありまして、民間と平行した形でやっていかな

いと、行政でやっているサザンクロスセンターの内容と、民間で行う内容ではどうしても、サザンクロスセンターではできない部分を民間のほうで十分に補っていたいているということで、どうしても両立しないといけないという点もございまして、このように決断をしたわけであります。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） 基本的に、指定管理をするというときには、いわゆるサービス向上と、経費削減、財政負担を減らすためというのが大きな目的ではないかと僕は思っていますが、サザンクロスセンターができたときにも、いわゆる民間との競合部分はできるだけ避けてくださいということを述べた記憶があります。両立ではなくて、どういう形で住み分けをするのかと。民間業者がやるものはもう民間業者で頑張ってもらおうと、そういう考え方が私は基本ではないかと思っていますが、特にこの第8条の中のいわゆる2番の（3）、前各号に掲げるもののほか施設の運営に関して町長が必要と認める業務とありますが、ある意味では、その指定管理者がいろんなビジネスをこの中で考えたいというときに、そのときの足かせでやる可能性がないかどうか。できればその指定管理者のいわゆる切磋琢磨で民間と競合しない部分で、いわゆる経費削減のための、収益向上のための努力、それをまたできるだけ阻害しないようなやり方も必要ではないかと。そういう意味で、この指定管理者にする場合のその現行のコストが幾らかかるのかとか、そして、これをするによってどういうメリットが出るかということを引きつとあとでも明示していただければありがたいと思います。一応そういうことでこの条例案に対しては、これも含んでぜひやっていただければと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 指定管理にしたメリットというのはもう十分出ているわけでありまして、実際に私ども行政がやっていたときと、今とはもう大分経費的にも町の負担する分が非常に少なくなっております。それと、あと民間に委託したということで、いろいろと内容充実にはいろんな工夫がなされていて、これはもう事実でありまして、もうその点の利点は非常に効果は発揮されているというふうに理解しております。今後の運営についてでありますけれども、当分は今のような状況で進めていく必要があるのではないかとこのように考えております。

○議長（大田英勝君） 3 番。

○3 番（町 俊策君） この施設は、当初建てられるきは与論島だけのものではなくて、大島群島内の観光の案内所という施設だというふうに理解していたんですが、サザンクロスセンターで提示されるべきものは、与論島も一部含むでしょうけれども、与論島以外のものも大島群全体の観光案内的なものを中心としてやっていくべきで

はないかなと思っています。この点、そのように記憶していますが、どうですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 実はおっしゃるとおりでありまして、奄美パークをやるときに、これは全群的な問題であるから、全群でやりましょうということで、各市町村からも隔年ごとに割当てをして職員を出してもらいたいという問題があったわけですが、確かに、それはもうそのとおり、全部与論は関係ないとはいいませんと、しかし、与論にできているサザンクロスセンターも奄美全体の民具の展示場として、奄美全体でやっているということで、その奄美パークを絶対的に考えるんだったら、まず与論から考えるべきではないかということを申し上げたわけです。しかし、課税無勢といいますか、規模的な問題とか、いろいろありまして、なかなかその理解を得られなかったんですが、そのうちに、そのサザンクロスセンターのほうで民語を紹介するビデオがテープになっていまして、それが全部伸びてしまって、壊れて使い物にならなくなり、結果的には、もう与論だけしか展示できないということになりまして、それをまた修理してやるということは相当莫大な費用がかかるということで、奄美全体でまたいろんな立場からの支援もないですし、そのままそこはなくして、今与論だけの、最初にできたのとちょっと違いますけれども、そういう形になっているわけです。そういうことで、私どもの主張というものがなかなかできない状況になってきまして、今のような状況でやっているわけです。

○議長（大田英勝君） 7 番。

○7 番（野口靖夫君） 今、町さんのほうから質問があつて、町長が今答弁されたとおりなんですが、私が町長にお願いしたいのは、今町長がまさしく答弁されましたけれども、奄美パークの件なんです。奄美パークの件で、町長と私は奄美群島市町村長、議長の方々と大きく議論しました。今のような議論、今町長が答弁されたような議論をしまいいりました。いかんせん、それは奄美群島のほかの市町村長や議長に押し切られて、そのとおりになったわけなんです。今町長がおっしゃられるとおり、これは奄美群島観光拠点施設センターということで、町さんが質問されましたけれども、これは奄美群島全体をテーマにした観光施設テーマパークなんです。だから、もしもこの管理・維持に関しては、ある程度啓蒙を奄振予算の中で考えるのが当然だと私は思っているんです。恐らく今町長もそういうお気持ちで答弁されたと思うんです。だからそういう意味からして、今度広域事務組合の中で、議長におかれましても、町長が郡の広域事務組合の議員ですから、その中でそれは御発言されたほうが良いような気がするんです。というのは、ああいう施設というのはつくるのは簡単です。維持管理が大変なんです。維持管理を徹底して行って、それを本当の奄美群島の観光施設拠点として、あるいはまた与論町の観光施設拠点としてう

まい具合に活用するものであるならば、これからがその金がかかると思うんですが、その金のかかるところはお互いに、先ほど申し上げましたように、奄美パークのことで議論したように、ぜひ一つそれは群島も考えていただきたいということで、奄振予算の中に維持経費をちょっと軽く乗せていただくということも一つの案ではないかと私は思っているんです。ですから、町長一つそこら辺をどうお考えになっておられるのか、御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 確かに私どものサイドでも全くそのとおりで、もうどうしてもやっていかななくてはならないというふうに考えてますが、施設面で老朽化もしています。老朽化が進み、雨漏りも始まって、奄振の中に入れてくれという提案をしたんですが、当然ビデオ等もやらないと困るということでやったんですが、それには地元負担がまたあるわけで、その地元負担までまた出してするというのに、非常に戸惑いまして、結局ただまた運営費だけはずっとかかっていますんで、今後の運営について、奄振でなんとかある程度の援助ができればと思い、一応検討したり、またみんなにお願いしたりしていきたいと思っています。

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第22号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第22号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第22号、与論町観光開発拠点施設「サザンクロスセンター」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第22号、与論町観光開発拠点施設「サザンクロスセンター」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第２７ 議案第２３号 ゆんぬ体験館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第２７、議案第２３号、ゆんぬ体験館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第２３号、ゆんぬ体験館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の提案理由の説明を申し上げます。

平成２２年度に体験観光交流施設として整備したゆんぬ体験館は、平成２３年度よりヨロン島観光協会を指定管理者として運営を委託してきました。運営間もない施設ですが、この度の消費税増税に伴い、施設使用料を消費税増税分を加算して値上げするため条例を改正するものでございます。

御審議の上、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第２３号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第２３号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第２３号、ゆんぬ体験館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第２３号、ゆんぬ体験館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第 28 議案第 24 号 平成 25 年度与論町一般会計補正予算（第 7 号）

○議長（大田英勝君） 日程第 28、議案第 24 号、平成 25 年度与論町一般会計補正予算（第 7 号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第 24 号、平成 25 年度一般会計補正予算（第 7 号）について、提案理由を申し上げます。

歳入の主なものとしたしまして、町たばこ税 900 万円、町債の城団地整備事業債 3390 万円、一般単独災害復旧事業債 3310 万円などを増額している一方、土木費国庫補助金の住宅費補助金 2139 万 1000 円、農林水産業費県補助金 1365 万 5000 円、財政調整基金繰入金 6151 万 3000 円などを減額しております。

次に、歳出の主なものとしたしまして、民生費の国民健康保険特別会計繰出金 3000 万円などを増額している一方、農林水産業費で奄美地域農業災害施設復旧・強化支援事業補助金 1075 万 8000 円、県営事業負担金 1000 万円などを減額しております。

歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ 4454 万円を減額し、歳入歳出予算の総額は 47 億 1064 万 7000 円となっております。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第 24 号は、会議規則第 39 条第 2 項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 24 号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第24号、平成25年度与論町一般会計補正予算（第7号）を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第24号、平成25年度与論町一般会計補正予算（第7号）は、原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第29 議案第25号 平成25年度与論町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）

○議長（大田英勝君） 日程第29、議案第25号、平成25年度与論町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第25号、平成25年度与論町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）について提案理由を申し上げます。

今回の補正は、歳入で国庫支出金2905万2000円、前期高齢者交付金2603万円、共同事業交付金5496万1000円をそれぞれ減額。

県支出金204万6000円、療養給付費等交付金870万8000円、繰入金2870万9000円、諸収入39万5000円をそれぞれ増額計上しております。

歳出では、総務費42万8000円、保険給付費4885万6000円、前期高齢者納付金等1万5000円、老人保健拠出金10万4000円、介護納付金28万6000円、共同事業拠出金1799万5000円、保健事業費205万1000円をそれぞれ減額計上しております。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。7番。

○7番（野口靖夫君） 見積りは大変厳しいものがあると思いますが、お聞きしたいと思います。この予算書を見ますと、国庫支出金が2900万円、そして前期高齢者交付金が2600万円、共同事業交付金が5400万円、そして一般会計からの繰り入れが2800万円、約3000万円です。このようにして一般会計からの繰り入れは非常に大きくなっているわけなんです、その国庫支出金とか、共同事業交付金とか、そういうものは減額になっております。そうしますと、これはどこに原因があったのかということをお聞きをできません。わかりますか、私が質問し

ようとしていることは。国から降りてくる国庫支出金や共同事業交付金とかそういういわゆる交付金関係が大幅にカットされて減額しているわけです。そして一般会計からの持ち出しは非常に大きいわけなんです。町民福祉課長、そういうことなんです。そうした場合、そこには何か大きな要因が生じているわけです。その要因をまず聞きしたいということが一つ。

もう1点は、今先ほど申し上げましたように、おそらく臨時議会か6月定例議会のあたりではもう遅いと思いますから、5月あたりに臨時議会を開いて、最終の国保税の、いわゆる補正が出てくると思うんですよ。大体今の時点で最終的にどれぐらいで最終補正を見込んでおられるのか、わかればその2点をお聞きしたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町民福祉課長。

○町民福祉課長（南 秀哲君） お答えします。平成25年度の当初予算が9億1796万5000円と大幅な予算で国保会計をスタートしておりましたが、段々歳入歳入を現実的に見た場合に、国庫支出金とか、大幅に見込みの額で計上してありましたものですから、現実に近いような数字で減額をしておる状況です。

それから第2点目ですが、どういった状況で国保が進んでいるかということなんですけども、3月5日に国保運営協議会を開催し、そこでも説明したんですが、歳入の状況については、まだしっかりと数字が掴めなかったもので報告をしてないんですけれども、歳出では25年の2月末と26年の2月末の数字を比較した場合、若干支出が抑えられている状況です。数字で示しますと650万円程度は支出が抑えられている状況です。先ほど言われましたように、3月以降、4月にならないと歳入のほうも見込めないものですから、きちっとした歳入歳出の比較は今のところできませんので、数字でお答えすることはできません。

以上です。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） これを私は大幅な見積り誤りということであなを叱っているのではないんです。そういうことではなくて、少々申し上げたいことは、これは大体想定して、大体私が想像するに最終的に見て11億円ぐらいはいくだろうと思うんです。だから、それがあなたの見積り誤りだと指摘しているのではなくて、そこに何か原因があるような気がするんですよ。いわゆる見積りは大きかった、見積り幅が大きかったけれども、なぜそのこれだけ、国庫支出金関係とか、共同事業交付金とか、そういうものが大幅に減になって、一般会計からそれだけぐっとこう持ってこないのかというのがやっぱり理由があると思うんですよ。その理由は掴んでないですかということを質問しているんです。それと、見積りが最終的にはどれぐ

らいになるかということをしかり言うてくれとか言っているのではなくて、恐らく11億、12億弱になると思います。5月あたりの最終的には。医療請求がこないとわかりませんから、そうなると思うんですよ。だからそういうところを思うときに、そのやっぱり執行部も、我々議会もある程度こういうのを知っておかないと、ある程度想像はしておかないといかんでしょう。ただ見積もりが、誤りが大きかったとかいうだけでは済まされない問題ですから。金が大幅に動くわけです。何千万円という金が動くわけだから、分からなければもういいですが、分かっているならば答えていただきたいということなんです。どうですか。

○議長（大田英勝君） 町民福祉課長。

○町民福祉課長（南 秀哲君） ちょっときちんとした回答になるかならないかちょっと自信はありませんけども、多分24年度の歳出に支出状況における数字が大体9億に近かったもので、それに順じて、多分25年度も9億ぐらいはいくだろうというふうな予算を計上したと思うんですけども、実際、24年度の最終的な支出済額というのが8億1400万円になっています。ですから、今年度予算でも大体それぐらいに落ち着くだろうと考え、支出は段々おされている状況にありますので、そういう傾向で減にしている状況です。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） ちょっと噛み合わないですが、課長、予算というのは、当初予算、補正予算一括して合わせたトータル予算が予算なんです。当初予算が9億だったからそうだったというのではだめなんですよ。予算は当初予算、臨時、補正合わせて一括して幾らだったかということが問題なんです。だから今9億だったからといますけども、大体それではおさまっていないのです。現実的におさまっていない。それはわかりますね。だからそれを議論するつもりではないんです。私が言っているのは、そういう数字を議論するのではなくて、我々はその原因というものをしっかり抑えておかなければ町民にも説明できない。また、公民館あたりでいろんな保険証の切り替えとかがありますが、そのときにも町民に説明しなければいけませんね。これだけその医療費がかかっていますよと、だから一つ町民全体で、それを全部で負担しようではないかという、その一つの中身をわかっていなければ説明できないでしょう。そこを私は申し上げているんです。だからできるだけわかるように、私はわかりませんではなくて、わかるように、あなたがですよ、どうしてなんだろうかと、そのいわゆる理由をね、わかろうとする姿勢が大事だということを申し上げているんです。もう一応答弁は要りません。ありがとうございます。

○議長（大田英勝君） 5番。

○5番（喜山康三君） これは収納率がどういう具合になっているかということと、2

24万7000円が計上されているが、どのような使途になっているか。

○議長（大田英勝君） 税務課長。

○税務課長（久留満博君） 御陰様で国保の場合は年々収納率が上がりまして、昨年の実績は95%を超えております。今年度の25年度につきましても似たような推移で今動いております。

○議長（大田英勝君） 5番。

○5番（喜山康三君） 前の収納対策室長から言われたのが、いわゆる収納班というのと、徴収係というのと、課税担当と分けたほうがいいんじゃないかというアドバイスを受けられたわけですが、今その組織の中は今後将来に渡ってどういう徴収体制、収納体制をされるおつもりか。ちょっと私資料を持ってくるの忘れたんですが、先般の週刊ダイヤモンドで本町がかなり税の徴収率が悪いということで、これは平成23年のものでちょっと遅い資料であったんですが、ワースト100からのリストが出てきて、それにちょっと与論町も載っていたので、古い資料だから、もう今よくなってますよということで、私回答したんですけど、問い合わせがあつて。一応ぜひそういうことがないようにしていただけないかなというのがありまして、とりあえず今後の収納対策について、池上さんのアドバイスがあつたように、これについてはどういう対応をされているかなと思って、それをお聞きしたいんですけど。

○議長（大田英勝君） 税務課長。

○税務課長（久留満博君） 徴収事務につきましてが一番職員としてなかなか進まないところでしたが、昨年、専門的な研修を職員が30日間の研修を受けております。ここ4、5年の税に対する意識の改革というのを県から出向していただいた方々とかを含めまして、これまで取り組んでまいりましたが、25年度につきましても既に予算のほうの目標は100%全部クリアをしております。補正のほうで一般会計で1300万円ほど計上させていただきましたが、言い換えますと、軽自動車税分の約1400万円なんですけど、その分の税のほうの徴収は上がったということで、26年度につきましても25年度の実績に基づいて計上してございます。

体制につきましては、今課税担当と収納担当とが同じ業務をやっているというのが現状でございますけれども、専門的な知識を持った職員をもう1人、26年度に派遣をいたしまして、収納のほうの強化を進めながら税の平等性について、もう一度町民の方々への御理解をいただきながら収納率を上げてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（大田英勝君） 5番。

○5番（喜山康三君） 保険税だけではないんですか、ついでに出たらちょっと語弊が

あるかもしれませんが、いわゆる土地利用における課税のあり方について、例えば、与論の場合は地域がらその土地をいろんな形で、物置とかいろんな形で使っていると思いますが、本来は地目は農地であるのに農地の課税をしていますよね。農地に対しては農地の課税をしているわけです。それを例えば、造成して駐車場にしているとか、そういう土地の使い方というのは明らかにその台帳上は農地になっていても、現実にはいわゆるほかの用途で使っているわけで、宅地並み課税が本来ではないか。あるいは、そういう税制があると思うんですよ。いわゆる課税漏れですね、現況に対する課税漏れというのがあるのではないかと。そういう形で税収を上げることももう少し地域絡みでなかなか大変でしょうけど、そういう用途変更によるその土地からの収益を上げていることに対しては、一定の税収を上げるような方策もぜひ考えてやる必要があるのではないかと。それについて、町長、いかがですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その件については、実際把握するというのが以前難しいところがあるかと思いますが、対策室のほうで検討していきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 税務課長。

○税務課長（久留満博君） 今、町長のほうから御答弁があったわけですが、主要道路とか、普段確認がしやすい場所につきましては、それができるわけですが、なかなか奥まったところとかというのは把握しにくい部分もあるんで、その辺をまた気をつけてまいりたいというふうに思っています。実際に、この保険税とは関係ないんですが、その今回の家屋の災害による減免につきましても、未評価の住宅というのが24%ぐらいあるわけなんですよ。自分のうちはその台風の被害を受けているんだけど、評価されてない、つまり税金を課税されてないがために減税を受けられないというのもありましたんで、より公平な立場で、近い将来、その全島調査というのも考えていかなくはいけないんじゃないかというふうに思っています。27年度が評価替えの年に当たりますが、一朝一夕にはこの問題は解決できませんので、次の評価替えの平成30年度とかというのを目標にして年次計画で進めていければというふうに考えております。

以上です。

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第25号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第２５号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第２５号、平成２５年度与論町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第２５号、平成２５年度与論町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）は、原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第３０ 議案第２６号 平成２５年度与論町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）

○議長（大田英勝君） 日程第３０、議案第２６号、平成２５年度与論町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第２６号、平成２５年度与論町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）について、提案理由を申し上げます。

歳入につきましては、後期高齢者医療保険料に１１２万円、一般会計繰入金に７万５０００円、増額計上しております。

歳出につきましては、後期高齢者医療広域連合納付金に１１２万円、保健事業費に７万５０００円、増額計上しております。

御審議の上、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第２６号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第26号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第26号、平成25年度与論町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第26号、平成25年度与論町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）は、原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第31 議案第27号 平成25年度与論町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）

○議長（大田英勝君） 日程第31、議案第27号、平成25年度与論町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第27号、平成25年度与論町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）について、提案理由を申し上げます。

補正予算規模は歳入歳出それぞれ40万円追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2363万円とする。

御審議の上、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。7番。

○7番（野口靖夫君） これが最終補正になると思います。そこで聞きたいのは、一般会計からの繰り入れが幾らかということと、もう1点は、いわゆる使用料、使用者の負担金が、それは幾らなのか。いわゆる事業収入、これは幾らなのか、それをちょっと財源内訳の御説明をお願いします。

○議長（大田英勝君） 水道課長。

○水道課長（末原文忠君） すみません、当初予算の数字を把握してないものですから、ちょっと数字的には答えられないんですけど、排水処理場のポンプ代の修繕費で4

0 万円の一般会計からの繰り入れで計上してあります。

○議長（大田英勝君） 7 番。

○7 番（野口靖夫君） そういうことではなくて、これきょうは補正予算で、これに書いてあるのは私はもうわかっているわけですよ。補正額はもうここに書いてあるでしょう。一般財源から 40 万円の繰り入れね、これは見てわかるんだけど、私が質問しているのは、この予算が、25 年度の最終補正なんですから、その締めくくったときに、この一般会計からの繰入金の総額は幾らか、補正だけのものとしてではなくて、一般会計からの繰り入れ総額は幾らか。いわゆる使用者の負担金及び使用料の額は総額で幾らかということを聞いているんです。

○議長（大田英勝君） 水道課長。

○水道課長（末原文忠君） 一般会計からの繰り入れが当初が 1091 万 5000 円でしたけど、今回 40 万円補正して 1131 万 5000 円です。これが負担金のほうで。

○議長（大田英勝君） 7 番。

○7 番（野口靖夫君） いや、そういうことではないんです。私が言いたいのは、これは総額を言ってるのではなくて、総額の財源内訳を聞いているわけで、その財源内訳には、使用している人の個人負担分、使用料というのがありますね。それをトータル。そして一般会計からの繰入金というのがあるでしょう、それを合わせて全体の総事業費がこの一般会計からの繰り入れが幾らか。使用者の負担であるところの使用料は幾らか。それを合わせて幾らかということを聞いているんです。

○議長（大田英勝君） 暫時休憩します。

-----○-----

休憩 午後 2 時 24 分

再開 午後 2 時 26 分

-----○-----

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

7 番。

○7 番（野口靖夫君） これを聞いたかったんです。わかりましたか、水道課長。これなんです、問題は。というのは、なぜ私がこういうことを質問するかというと、ほとんどこの特別会計は一般会計補正予算でもって、半分の 50% ほどは一般会計予算からの繰り入れでもって運営している事業なんです。だけど特別会計というものは、それではおかしいわけです、本当は。事業を運営するにあたって一般会計、特別会計予算が毎年 50% は一般会計から繰り入れして事業を運営するということは、会計上非常におかしいということなんです。そこまではわかりますね。おかしいか

らこれをどうすればいいかということを私が議論したいのもそこにあるんですね。どうということかという、果たして、使用者は負担金をそれなりにお支払いしているのかということなんです。そこが問題なんです。だから真面目に使用料を払っている人は馬鹿な思いをして、そしていい加減に適当にやっておられる方は得を見ると、それでは公正面からいって公正さを欠くでしょう。いわゆる事業としては成り立たないわけですね。真面目に頑張って納めている人のお陰でほかの方々は恩恵を受けているわけですから、そこを我々は考えなければならないということが言えるわけなんです。だから、私はここを聞いているんです。一般会計から幾らか、そして使用者の負担金は幾らか、それが50%だったら、これはやっぱりおかしい会計だと言わざるを得ないわけで、これは昔からのことで、今にはじまったことではないでしょう。あなたが課長になったからおかしくなったといっているのではなくて、これは前からあるんです。だからこういうことを我々は見過ごさないで、これからいかにすればその受益者の負担を軽減できるかということも考えながら、考慮しながら、いかにすればまたお使いになった使用料、いわゆる負担金を徴収できるかということも考えていかなければならない時期にきているのではないかということをお願いしているんです。町長、どうですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 一般会計から繰り入れるということは、みんなのお金を使わせていただいているということになるんで、特別会計においては、一般会計からの繰り入れというのを極力避けなければならないということも、これは基本でよくわかっているわけですが、こちらの農業集落排水事業をやったときのいろんな契約をして進めたわけでありまして、この経過の中でいろいろございまして、加入率が非常に低かったわけです。それをいかに上げるかということで、相当苦労してやってきたわけでありまして、今入っているのが90%台までやったわけでありまして、その中にはまた新しく家庭をつくったのが継ぎ足されて、実際に入らなければならない、最初にやった人がまだ入っていないという部分も多々あるわけでありまして。そういう点をできるだけ加入をさせていただくということで、最初は2300万円の一般会計繰り入れだったわけですが、今1100万円から200万ということで、これをできるだけ早くなくすには、加入率を上げる努力をする。それともう一つは、少し料金を上げる必要があるのではないかという検討をしなければならないということで今話し合っているところです。

以上です。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） 町長、今のお話は大体理解できましたが、私は、今先ほど町長

が御答弁されましたように、特別会計のあるべき姿を逸脱しているわけです。これはもう町長も今認められました。特別会計というその会計自体を逸脱しているということもはっきり御自身で言われたわけですから、これはいつまでもこういうことをやったらいかんと思うんですよ。また新しく家をつくって、そこに入っていくことも必要なんです。そうした場合、負担金もかかります。そういう人々のことも考えなければならないのです。行政はですよ。同じことではいかんと思います。だから加入率を増やすためにはどういうふうにするかということを、今の時点で、常に考えていかなければならないから申し上げているんです。ただ単に昔からそうだったからそのまま、昔からそうだったから今のとおりでいいんだということではないんです。間違っているということは気付けば、それをわかっている時点から、気付いた時点から、それを改修していく、変えていくという姿勢が我々には課せられているわけなんです。そこを申し上げているんです。だからどういうことを、今やっておられますかということを私は質問しました。今質問したわけだから、恐らく思いつかないと思いますから、それを聞いているのではなくて、間違っただけでおさなければならないということもわかったわけだから、それをいかにしていい方向に持っていくかということを今の時点から考えてくださいよということを指摘しているんです。その件に関しては、副町長、どうですか。

○議長（大田英勝君） 副町長。

○副町長（川上政雄君） 確かに特別会計においては独立採算制というのが基本ですので、この料金の値上げ等についてももうそろそろ検討していかなければいけないような時期にきているのではないかというふうに考えております。

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第27号は、会議規則第39条第2項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第27号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第27号、平成25年度与論町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第27号、平成25年度与論町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）は、原案のとおり可決されました。

○議長（大田英勝君） 暫時休憩いたします。

—————○—————

休憩 午後2時34分

再開 午後2時47分

—————○—————

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは、まずはじめに、先ほど学識経験者についてのちほど回答というのがありましたので、教育長からその説明を最初にさせていただきます。教育長。

○教育長（町岡光弘君） 先ほどの本来の質問はどこが変わったのかというのが趣旨の基でしたので、そのことにつきましては、簡単に述べたような全文が挿入されたということになります。どこから出たかといいますと、今回の地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律、第3次一括法ということによって、社会教育の一部が改正されたと。もっと詳しく言うと、先ほどの文言に教育委員会が選任するという部分が入るところが、その教育委員会のところは除かれたというふうに変わっています。ただし、与論町の規則の中には、委嘱するというのもあるので、そこは入れずに、全文の誰から選ぶというのは載ってなかった。今回の一括法でこの文章を入れましたというようなことであります。

○議長（大田英勝君） よろしいでしょうか。

—————○—————

○議長（大田英勝君） 日程第32から日程第38までの議案については、委員会付託の予定でありますので、提案理由の説明の後、総括的・大綱的な質疑にとどめます。

—————○—————

日程第32 議案第28号 平成26年度与論町一般会計予算

○議長（大田英勝君） 日程第32、議案第28号、平成26年度与論町一般会計予算を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第28号、平成26年度与論町一般会計当初予算について提案理由を申し上げます。

平成26年度一般会計当初予算の総額は37億8200万円となり、対前年度比

0.5%の増額となっております。

歳入の主なものといたしまして、町税が3億966万7000円と前年度より882万5000円の増額、地方交付税が19億4869万1000円と前年度より969万1000円の増額で計上しております。国庫補助金におきましては前年度より4980万3000円の減額となり、1億2824万4000円、県補助金におきましては前年度とほぼ同額の1億4713万7000円となっております。

町債の総額は5億8811万5000円となり、うち辺地債が1億8750万円、過疎債が9100万円、一般単独事業債が6020万円などとなっております。なお、予算編成の過程で生じた財源不足につきまして、財政調整基金から1億1744万7000円を繰り入れして対応することとしております。

次に、歳出の主なものといたしまして、衛生費で火葬炉設備増設工事費5500万円、耕地費で農道整備事業費2190万円、商工費でコテージ村及びマリン倉庫整備事業費で4300万円、土木費で町道改良事業費8442万4000円、消防費で常備消防の消防救急無線デジタル及び通信指令設備整備事業負担金1億662万8000円、教育費で小学校及び中学校耐震補強工事費1億円などを計上しております。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げます、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。8番。

○8番（麓 才良君） 総括的・大綱的になるかどうかわかりませんが、お伺いをいたします。

本年度は、規定されておりました奄振交付金が期待されております。施政方針のほうでも観光関連のほうで、奄振交付金の農林水産物輸送コスト支援事業、航空航路運賃低減事業ということで載せられておりますが、新年度の予算の中においてどのような反映をされているのかお伺いをいたしたいと思います。

第2点として、財政計画についてであります。先ほどの条例等の質疑の中でもありました、消費税の5%から8%に増になった場合の本町における影響をどのように判断をされて、それがどのような形で予算に反映されているのかお伺いをいたします。

もう1点、3点目ですが、本町は昨年、一昨年と大きな台風災害に見舞われております。本年度はそれらを踏まえた復興の年にもなろうかと思いますが、その復興に向けた具体的な形をどのように表して予算に反映されておられるのかお伺いをいたします。

以上、3点です。

○議長（大田英勝君） 総務企画課長。

○総務企画課長（沖野一雄君） まず第1点目の奄振関係の交付金、関係者皆様の御努力の成果が身を結んだ形で、奄振全体で大体額面は21億円あまりという金額が奄振交付金ということで予算化がされたということで、あとはもう実施段階のところの細かいところで、まだ決まりきってないところがありますけれども、奄美全体で概ね21億円、あと交付税とかでまた返ってくる分もありますけど、概ね20億円台の後半までトータルでは延びていくのではないかというふうにマスコミ等では報道がなされているところでございます。

具体的には、その中身につきましては、新聞とかでよく出ておりますけれども、概ね、例えば鹿児島から奄美群島の離島間の航空運賃は大体50%前後程度が安くなるのではないかというふうな見込みが立っております。しかしながら、一方で、今度は航路、具体的には船ですけれども、船運賃については今のところ残念ながらそんなに割引率は下がらないと、1000円から2000円程度ではないかというふうに情報を聞いております。ちょっと細かいところの島ごととか、また島ごとの状況も違ってまいりまして、そのあたりの細かい数字は私どもがちょっと今掴みきっておりませんが、概ね航空運賃については5割前後、航路運賃については1000円から2000円程度は安くなるのではないかという見込みでございます。なお、与論の場合には、沖縄との関係もございしますが、そのあたりは今の段階ではちょっとコメントを控えさせていただきたいと思っております。

2点目、町の財政の計画と申しますか、見込みと申しますか、将来的なお話、消費税とのかかわりですけども、今回その消費税が5%から8%に上がるということで、具合的な数字はちょっと私のほうで細かい数字はちょっと申し上げられませんが、当然国の税収は増えていきます。当然それにあわせて地方交付税として消費税分の上乗せ分もありますし、あとは地方消費税という形で都道府県、市町村の税だということで交付されるお金もございします。そういったのをトータルで見ますと、やはり地方の公共団体といたしましても、歳入はそういう意味では増えてまいります。しかしそれはまだ今のところ、先ほど申し上げましたとおり、当初予算の中でははっきりとこれだけですよというふうな見込みを立てて計上しているわけではなくて、抑えた形で今計上させていただいております。そういうことで、地方公共団体として、与論町としての税収は、一般財源は地方交付税であり、地方贈与税であり、あといろいろ細かいのもございしますが、トータルで税収は増えてまいります。特に一般財源のレベルで。しかし、それはどの程度増えるかと言われましても、ちょっと今数字を申し上げることはできないんですが、地方公共団体とし

ては若干の潤いが見られると。しかしながら、じゃあその一般の町民レベルではどうかと言われたときに、果たしてそれはアベノミクスがその一番底辺の市民レベル、住民レベルまでそれが波及していくかどうかについては、今からの推移を見守らなくてはなりませんし、また奄振交付金の21億円余りの交付金がどのような形で奄美全体の経済に公人化をもたらしていくのかというの、ちょっと推移を見なくてはいけないわけで、そのあたりはここでちょっと申し上げられない部分もございます。時代の流れをみながら、私どもも歳入をしっかりと見積もって、そして地元の経済を浮揚するために適切に予算を配分していくと、そういう形を国の情報を見ながら判断していきたいというふうに考えております。

そして3点目の御質問の台風被災による復興をどうしていくのかという部分でございますけれども、当然、予算の中であとで細かく当初予算の中で出てまいりますけれども、災害復旧ということで、そのしかるべき起債もしておりますし、災害復旧関係の起債につきましては、交付税の見返りもございます。また、特別交付税でも恐らく私どもも要求してまいりますけれども、特別に災害を受けたということで、特別の事情を加味していただいて県の補助を認めて、国のほうから特別交付税をいただけるという方向に進めてまいりたいと思っております。

また、できるだけ一般の方々のライフラインの整備といいますか、生活基盤の整備のハード事業につきましても、できるだけ一般的な消費的経費を抑えながら、そういう投資的経費に回せるように予算の配分も工夫しながら取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（大田英勝君） 8番。

○8番（麓 才良君） 御説明をいただきました中で、今後その抑えられている部分が、今度は消費税のアップ等による、今ありましたように、町民へどういう影響が出てくるのか。そういうところでの目配りをしながら利益に適宜に対応していくことになっていこうかと思えます。これについては、お互いにそういうところへの配慮をきちんと迅速に対応できるように努力していかなければならないというふうに考えております。

それから、奄振交付金の中で、先ほど申し上げました、農林水産物の輸送コスト軽減については、本町においてはどのような方策を検討なされているのか。今話しできる部分があればお話をいただきたいと思えます。このことが非常に本町においても大きな方向付けになろうかと思えますので、是非お願いをいたします。

以上です。

○議長（大田英勝君） 産業振興課長。

○産業振興課長（鬼塚寿文君） お答えいたします。農林水産物輸送コスト支援事業につきましては、本町分で約2000万円ほど手当をされる予定で、予算にもそのとおり組んでございますけれども、この予算が国土交通省は当初その農家に渡しきりの予算で組んでいたんですけれども、財務省のほうからちょっとクレームがつきまして、その奄振の期間、5年間で済んで、その渡しきって農家に全部やってしまったら、あとのほうはどうするんだということで、全額ではなく、その農業経営の基盤強化とか、水産業のその経営基盤を強化して、交付金がなくても経営がやっていけるような方策のほうにもお金を回しなさいというような方針になってきております。活性化計画みたいなのをつくって、そちらのほうにも少しお金を基金として積み立てたり、例えば、ハウスとかの規模拡大に少し回すとかというふうな使い方をしなさいというふうに、最近になって指示がきております。

以上です。

○議長（大田英勝君） 8番。

○8番（麓 才良君） 期待が大きいだけにこれをどのようにして事業計画を練っていくかということになると、各分野がこう間口が大きくなってくると思いますが、そういうところを踏まえながらきっちりとした形でその対応ができるように農家の方々とも十分連携をしながら、これから与論の農業の形態をどういう方向に持っていくかというのもこの大きな視野の中に入ってくるのではないかと思いますので、是非これから御検討を、いい方向に導くように御努力をいただきたいと思います。

それから、災害復旧の件については、予算の中にあちこち具体的に出ておりますが、この復興については、島全体でこういう方向に頑張っていきたいとかというように、総体的なそういう方向付けというのも必要だというふうに感じますので、是非今後事業を進めながら、そういう島に向かっての町民の方向付け、そういうものについても是非早急に御検討をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） ちょっと補足してお答え申し上げたいと思うんですが、一括交付金について、航空運賃の問題で今非常にもめている状況にあります。といいますのは、最初の目的は31億円をお願いしようというときに、一般のお客さんも割引をするという形で検討していたわけですが、実際には、今ほど課長が答弁しましたとおり21億3000万円の交付金ということで、あと4億5000万円というのが観光振興対策の特交であげるということなんですが、これをどうするかという問題が一つ、どうするかというのは、それを基準にしていろんなその交付金の使い道を検討するのか。一応予備としておいていただいたときにやるかというこ

とでのめめ方をしているところであります。したがいまして、片一方の議論としては、1億3000万円の使い方というのを基本に置いてやろうというのが今進んでいる状況であります。その内容につきましては、離島割と一緒に、奄美に住んでいる方々を対象にして、伸びを割引するということが非常に強い意見であります。ところが、こちらとしては、それでは5年経ったらまた全部食べてしまって何にも活性化につながらないんじゃないかということで、今離島割が27%割引をしていたいてるわけですが、それをそのままにしていたあと一般の観光客の割引も適用すべきではないかということで議論を今しているわけですが、県のほうとしても、その考え方が非常に強いところがあるわけでありましてけれども、なかなかどうなるのか、これがはっきりしないところであります。一応、自民党、政府としては、20日ごろまでには予算編成をしたいと、国会を通過させたいという考え方らしいんですけども、私ども地方においては、恐らく来年度に繰り越す可能性もあるので、それに対応した形で早くても7月にしか実行できないのではないかと、せっかく決まったのに4月からということで私ども今声を大にして言っているところでありましてけれども、実際はそういう形になりそうです。特に与論においては、沖縄与論間の問題については、特別なつながりといいますか、鹿児島県からではないもんですから、非常に問題が多くて、県のほうで離島政策課のほうでもどうしても与論は沖縄との結びつきが強いからこれは何とかしないといけないと、今一生懸命頑張っているところでありまして。何とか助けてくださいということで今お願いをしているわけでありまして、是非実現をしていただきたいというふうに考えております。

それから、防災面につきましては、まずは現状復帰を1日でも早く安心して住めるよう環境づくりが第一ということで、それに向かってやっているわけですが、南海岸が相当やられていますので、南海岸については総体的に県の力をお借りしてしかできないということで、県の事業導入に向かって最終段階にきております。これを早急にまた進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（大田英勝君） 暫時休憩します。

-----○-----

休憩 午後3時08分

再開 午後3時18分

-----○-----

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

7番。

○7番（野口靖夫君） 今のことはわかった。もう1点、この前南三町の議会議員大会の中で、伊集院徳二君が要請したものは、予算の執行が大体7月から9月ぐらいにずれ込みそうだと。いわゆるその特別交付金を使うときに、8月、9月ぐらい、引いては9月ぐらいになるのではないかということだから、市町村長と鹿児島県とはしっかり早くコミュニケーションをとって、そこを早期に決めて、できるだけ早く前に、前倒しして執行できるようにしていただきたいという緊急決議をしたわけなんです。それに対して、三町の町長さんが頑張りますということをおっしゃいましたね。だからそのあと、そのあと皆さんはどういう県との打ち合わせをしてこられましたか、そのあと、その県との交渉はどのようにしてまいりましたかということをお聞きしてみたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） そのあとから、全体的な会合はその件についての会合はしてないですけど、個々に私も申し上げたんですけど、直接知事にも申し上げています。奄美組長合同でその期限がどうかという陳情はしていません。ただ会合の中では、もういろんな方々からその4月、朝山市長さんからもおっしゃられたんですけども、ぜひ4月からやっていただきたいと、その段取りも広域事務組合のほうに私も何回も申し上げております。まずは予算がつけば我々受け入れ側の体制が問題になると。それから早急にやるようにということで、その申し入れはしてあります。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） 先ほどから休憩のときに議論がありましたようにね、町長、必ず町益、村益、自分の町や村のことを考えて、組長は考えられて、その自分の町や村が有利になるような方向にもっていこうとするんです、必ず。そうでしょう。そういうことをしたら、いつまでたっても誰も決められない。執行できないですよ。26年度の予算というのは、もう決定でしょう。本年度の3月ですぐ決定、衆議院は通過しているわけだから。そうなった場合に、執行しようとした受け入れるところの市町村長と鹿児島県がまだ話ができていないということで、執行できないわけなんです。だからこそ申し上げてるのは、一つ町長ね、一番町長のやるべきことは、そこを音頭をとって、もうぜひ一つ全員で早く執行できるようにしようということ盛り上げていっていただけませんか。市町村長会で、奄美群島の市町村長会の中で出さないと鹿児島県は動かないですよ。私はそう思うんです。だからこそ、これが町益であり、村益であり、御自身が治めているところの地方自治体の長なのだから、それがあなたの仕事と私思っているんですよ。そのために一般質問を今度またやりますけども、そういうところをぜひ念頭におかれて、今度の来一般質問のときには自身を持って私にちょっとその情熱を訴えていただきたいということを今申

し上げておきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） 本来は一般会計の予算に書いてあると思いますが、今の案件にちょっと迫時、先般、金子県議がいらしたときに、この与論沖縄と、沖永良部沖縄の件については、まだその確定してないんだと、そういうようなニュアンスで私お聞きしていたので、町長がおっしゃっていることとはだいぶ違うので、是非きちっとこの辺は枠に入れてしていただくようお願いしておきます。

この一般会計予算書のほうに入りたいんですが、予算がどうのこうのではなくて、町長をされて15年、もう10年一昔というわけで、15年の間には南町長らしい政策はあってもしかるべきではないと私は思うわけですよ。今年度のその一般会計の中にも私ならではという、町長が誇りを持ってこれはどこの市町村にもないよと、これは私は絶対南政吾として、これは町長としてこれはやっておきたいというような政策がありましたらお聞きしたいんですけど、いかがですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 14年余りお世話になっているわけでありますけれども、今まで振り返ってみますと、財政難といいますか、非常にそればかり気にした形でやるべきことも相当なされていない点があるわけでありますけれども、したがって、島の若者に対する夢というのが全く行政的になされていないという面が非常にあったのではないかとということで、思い切って今回のそのサッカー場、これは人工芝ということで検討して、今素晴らしい芝も開発されてまして、その欠点がほとんどなくなりつつありますので、奄美でただ一つのその全天候に対応できるということで、思い切ってそれに着手したわけでありますが、いつも夢を大きく持っても財政にはいつも裏があるもんですから、なかなかですね、ただ若者に夢を持つ一端としてもうこれだけは何としてでもものにしたいとやったのが、私は今回のサッカー場です。これをまた子供たちに大いに使っていただきたいと。

また、あわせていろんな面の災難とか救助関係の面も両面で利用できればというふうに思っております。

大変な費用で踏ん切りをつけるのに大変だいぶ迷ったんですけれども、またみなさんの御協力を得て素晴らしい施設にしていきたいというふうに思っております。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） 私も実を言うとサッカー場計画が出たときに、振興計画にもないような巨額な事業がある日突然出てきたことに対して、私ははっきり言って驚きと、与論町はこんなにお金があるのかなと思ったぐらいなんです。だから、何のための4次振興計画なのかなと思って、ちょっと頭をひねったところもあるんです。

が、町長の政治決断でされたということですので、まあそこには何とも言いようがないんですが、やはり私が述べたいのは、末永くこの政策は残せるよと、これがあることによって10年、15年、20年後、子供たちにとって有難かったなという政策というものをきちっと構築していただきたいなと。もちろんそのためには町長の周囲にいらっしゃる課長のブレーンの資質もあると思うんですよ。そういう意味では町長にきちっとそういう事業も提案できるようなのを町長にきちっと提案して、是非頑張ってくださいなと。

以上です。

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

—————○—————

日程第33 議案第29号 平成26年度与論町国民健康保険特別会計予算

○議長（大田英勝君） 次に進みます。日程第33、議案第29号、平成26年度与論町国民健康保険特別会計予算を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第29号、平成26年度与論町国民健康保険特別会計予算について提案理由を申し上げます。

予算の規模は、対前年度比9.3%減で、7億7718万3000円となっております。

歳入につきましては、前年度比増減の主なものとして、国民健康保険税868万円の減、国庫支出金1543万7000円の減、前期高齢者交付金2603万円の減、共同事業交付金3063万5000円の減となっております。

歳出につきましては、前年度比増減の主なものとして、保険給付費6428万6000円の減、後期高齢者支援金等893万4000円の増、介護納付金208万円の増、共同事業拠出金2657万2000円の減となっております。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

—————○—————

日程第34 議案第30号 平成26年度与論町後期高齢者医療特別会計予算

○議長（大田英勝君） 日程第34、議案第30号、平成26年度与論町後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第30号、平成26年度与論町後期高齢者医療特別会計予算について提案理由を申し上げます。

歳入歳出予算の規模は、対前年度1.15%増で、5314万3000円となっております。

対前年度の増減の主なものといたしまして、歳入では、後期高齢者医療保険料149万8000円の増額、一般会計繰入金89万4000円の減額となっております。

歳出につきましては、後期高齢者医療広域連合納付金51万4000円の増額、諸支出金3万9000円の増額が主な内容となっております。

御審議の上、議決していただきますようお願い申し上げます、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

—————○—————

日程第35 議案第31号 平成26年度与論町介護保険特別会計予算

○議長（大田英勝君） 次に進みます。日程第35、議案第31号、平成26年度与論町介護保険特別会計予算を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第31号、平成26年度与論町介護保険特別会計予算について提案理由を申し上げます。

平成26年度介護保険特別会計当初予算の総額は7億745万円で、平成25年度予算額と比較しますと、5020万1000円の増額、率にして7.1%増となっております。この増額の主な要因は、保険給付費の増額によるものです。

対前年度の増減の主なものといたしまして、歳入で、保険料5214万4000円、国庫支出金1308万3000円、支払基金交付金1389万円、県支出金808万1000円をそれぞれ増額し、繰入金3700万円減額計上しております。

歳出では、総務費10万9000円、保険給付費4761万円、地域支援事業費248万2000円をそれぞれ増額計上しております。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げます、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

—————○—————

日程第３６ 議案第３２号 平成２６年度と畜場特別会計予算

○議長（大田英勝君） 次に進みます。日程第３６、議案第３２号、平成２６年度与論町と畜場特別会計予算を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第３２号、平成２６年度与論町と畜場特別会計予算について提案理由を申し上げます。

予算の規模は、６６１万７０００円となっております。歳入の主なものにつきましては、使用料及び手数料２万１０００円、繰入金６５９万５０００円を計上しております。

歳出の主なものにつきましては、と畜舎の改修工事に６００万円、冷凍庫の購入に２０万円計上しております。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

—————○—————

日程第３７ 議案第３３号 平成２６年度与論町農業集落排水事業特別会計予算

○議長（大田英勝君） 日程第３７、議案第３３号、平成２６年度与論町農業集落排水事業特別会計予算を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第３３号、平成２６年度与論町農業集落排水事業特別会計予算について提案理由を申し上げます。

予算の規模は、対前年度２．２１％の増で、２億３７４３万円となっております。歳入で分担金３５万２０００円、使用料１１９５万１０００円、繰入金１１４３万７０００円、歳出で総務管理費１５６８万１０００円、公債費７８６万２０００円を計上しております。

御審議の上、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

—————○—————

日程第３８ 議案第３４号 平成２６年度与論町水道事業会計予算

○議長（大田英勝君） 日程第３８、議案第３４号、平成２６年度与論町水道事業会計予算を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第３４号、平成２６年度与論町水道事業会計予算について提案理由を申し上げます。

業務の予定量は、月平均給水件数２，１００件、年間給水量５６万７０００㎥、一日平均給水量１，５５３㎥、建設改良事業費５５９９万８０００円となっております。収益的収入で営業収益１億６５３９万円、営業外収益２０５８万円、収益的支出で営業費用１億８２９８万１０００円、営業外費用７９８万３０００円、資本的収入で工事負担金３５万円、補償金１００万円、資本的支出で建設改良費５５９９万８０００円、企業債償還金で１１７４万３０００円を計上しております。

御審議の上、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

—————○—————

日程第３９ 特別委員会設置及び委員の選任について

○議長（大田英勝君） 次に進みます。日程第３９、特別委員会設置及び委員の選任についてを議題とします。

お諮りします。議案第３２号から議案第３８号については、議長を除く９人の委員で構成する「予算審査特別委員会」を設置し、これに付託して、審査することにしたと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３２号から議案第３８号については、議長を除く９人の委員で構成する「予算審査特別委員会」を設置し、これに付託して、審査することに決

定しました。

これから、委員長及び副委員長を互選していただきます。

暫時休憩します。

-----○-----

休憩 午後 3 時 3 8 分

再開 午後 3 時 3 8 分

-----○-----

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

特別委員会の委員長及び副委員長が、次のとおり決定した旨通知を受けましたので、お知らせします。

委員長に供利泰伸君、副委員長に麓 才良君、以上のとおりでありますので、報告を終わります。

-----○-----

日程第 4 0 平成 2 5 年陳情第 1 7 号「立長コミュニティセンター（妙花館）の台風 2 4 号被災に係る改修工事費の一部負担に関する陳情」撤回の件

○議長（大田英勝君） 日程第 4 0、平成 2 5 年陳情第 1 7 号「立長コミュニティセンター（妙花館）の台風 2 4 号被災に係る改修工事費の一部負担に関する陳情」撤回の件を議題とします。

陳情者から平成 2 5 年陳情第 1 7 号「立長コミュニティセンター（妙花館）の台風 2 4 号被災に係る改修工事費の一部負担に関する陳情」の取り下げの申し出がありました。

お諮りします。ただいま議題となっています平成 2 5 年陳情第 1 7 号「立長コミュニティセンター（妙花館）の台風 2 4 号被災に係る改修工事費の一部負担に関する陳情」撤回の件を、許可することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、平成 2 5 年陳情第 1 7 号「立長コミュニティセンター（妙花館）の台風 2 4 号被災に係る改修工事費の一部負担に関する陳情」撤回の件を許可することに決定しました。

-----○-----

○議長（大田英勝君） 以上で、本日の日程は、全部終了しました。

次は、3 月 1 8 日、本会議（一般質問）であります。

定刻まで御参集願います。

本日は、これで散会します。

お疲れさまでした。

-----○-----

散会 午後 3 時 4 0 分

平成 2 6 年第 1 回与論町議会定例会

第 2 日

平成 2 6 年 3 月 1 8 日

平成26年第1回与論町議会定例会会議録
平成26年3月18日（火曜日）午前9時09分開議

1 議事日程（第2号）

開議の宣告

第1 一般質問

2 出席議員（10人）

1番 林 敏 治 君	2番 高 田 豊 繁 君
3番 町 俊 策 君	4番 林 隆 壽 君
5番 喜 山 康 三 君	6番 供 利 泰 伸 君
7番 野 口 靖 夫 君	8番 麓 才 良 君
9番 福 地 元一郎 君	10番 大 田 英 勝 君

3 欠席議員（0人） 欠員（0人）

4 地方自治法第121条による出席者（16人）

町 長 南 政 吾 君	副 町 長 川 上 政 雄 君
教 育 長 町 岡 光 弘 君	総務企画課長 沖 野 一 雄 君
会計管理者兼会計課長 佐 多 悦 郎 君	税 務 課 長 久 留 満 博 君
町民福祉課長 南 秀 哲 君	環 境 課 長 福 地 範 正 君
産業振興課長 鬼 塚 寿 文 君	商工観光課長 富士川 浩 康 君
建 設 課 長 山 下 哲 博 君	教委事務局長 池 田 直 也 君
水 道 課 長 末 原 丈 忠 君	与論こども園長 岩 山 秀 子 君
茶花こども園長 酒 勺 徳 雄 君	那間こども園長 高 田 りえ子 君

5 議会事務局職員出席者（2人）

事 務 局 長 川 畑 義 谷 君 係 長 朝 岡 芳 正 君

開議 午前9時09分

-----○-----

○議長（大田英勝君） これから、本日の会議を開きます。

-----○-----

日程第1 一般質問

○議長（大田英勝君） 日程第1、一般質問を行います。

順番に発言を許します。

3番、町 俊策君。

○3番（町 俊策君） 私は3つのことを質問します。

1 定年退職者の再任用制度について

- (1) 再任用制度は定年退職者が年金を受給できるまでの間の救済措置であるが、配置の仕方によっては現役職員の意欲をそぐことにもなりかねない。再任用者の職務規定等はどのようなになっているか。

2 役場庁舎の移転等に係る町民への説明と意思確認について

- (1) 役場庁舎が現在の場所から移転するかどうかについては、町民にとって重要な関心事であることから、懇切丁寧な説明と手順が必要である。庁舎移転に係る外部検討会を設置する場合には、移転することについての賛否を、最初に全町民に問うことから始めるべきであると考えているが、町長はどう進める方針であるか。

3 ふるさと納税や義援金等の寄附者への返礼について

- (1) ふるさと納税や義援金等の寄附者に対しては、地域女性団体が商品化・販売している「ふるさと宅急便」を返礼として贈ることにより、絆が一層深まると痛感されるが、町長はこれを実施する考えはないか。

以上、3つについて質問します。よろしくお願いします。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） おはようございます。よろしくお願いします。

まず最初に、1－(1)についてお答え申し上げます。

現行の再任用制度につきましては、平成25年3月に「国家公務員の雇用と年金の接続に係る閣議決定」が行われ、地方公務員についても必要な措置を講ずるよう国の要請があったことを受けて、関係条例や要項等の制定を行っております。

再任用職員に係る任用形態や勤務条件、任期の更新、選考方法等につきましては、地方公務員法に定める「定年退職者等の再任用」規定はもとより、「職員の再任用に関する条例」、「与論町職員の再任用に関する事務取扱要綱」、「与論町再任用職員選考委員会設置要綱」などの規定に基づき、運用を行っているところです。

なお、再任用職員の配置につきましては、当該職員の知識や経験、能力等を組織の活力として生かすべく、総合的に勘案しながら配置を判断していくこととしており、現役職員からも頼られる指導的存在となるよう適正な運用を図ってまいり所存です。

次に、２－(1)についてお答えします。

役場の現庁舎につきましては、建設から既に４７年が経過しており、老朽化と耐震性に大きな課題を抱えている現状にあります。

このため、副町長をトップに各課長等を含む１６名のメンバーで構成する「庁舎建設検討会」を昨年５月に立ち上げ、これまで３回の会合を重ねてまいりました。

また、この内部検討会の開催と並行して、庁舎の耐震診断を専門業者に委託し、先月その結果が出たところです。

診断結果によりますと、１階及び２階のコンクリートコアの強度は耐震診断基準よりかなり低い数値となり、「直ちに立ち入り禁止等の措置は必要ないが、震度６程度の地震に対しては倒壊の危険性があり、早急な改築が適切である」と結論づけられております。

外部検討会の前に、庁舎移転の賛否を全町民に問うべき、との御提案につきましては、各界各層からなる代表メンバーで構成する外部検討会を開催していく中において、町民の意見を聴取するための具体的な手法や時期等についても協議を行い、実施していく所存であります。

なお、この外部検討会の設置につきましては、既に設置要綱を制定しており、新年度の早い時期に最初の会合を開催して次のステップに移行することとしております。

もとより、多くの皆様方からの御意見や御提言を賜りながら、この歴史的な一大プロジェクトに取り組んでいく所存でありますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、３－(1)についてお答えします。

「ふるさと納税」は、新たに税を納めるものではなく、自分が貢献したいと思う都道府県や市町村に対する「寄付行為」を行うものであり、個人が一定額を超える寄付を行ったときに、住民税等（２０００円を超える部分）から一定の控除を受けることができる制度であります。

寄付先の“ふるさと”には定義はなく、出身地以外でも「お世話になったふるさと」や「これから応援したいふるさと」など、各自が想う“ふるさと”を自由に選んで寄付をする行為に対して、御提言のように更なる絆の構築及びふるさと納税の増を喚起するために、場合によっては特産品等により返礼を行うことも考えられる

ところです。

しかしながら、災害義援金につきましては、被災者への救済・復旧復興支援への強い思いが込められたものであり、慈善のために寄付されたものであることから、物品等による返礼を行うことは如何なものかと考えるところであります。

○議長（大田英勝君） 3 番。

○3 番（町 俊策君） この再任用制度の問題ですけれども、まず一般の会社でもやっぱりあります。その際は、会社自体の就業規則を届け出て、その中に再任用する、何歳までというようなことで、年齢まで記載して出すわけですが、そのことによって助成が受けられるわけです。そういうことで定年者の延長雇用を行うというような方法が取られておりますけれども、役場の場合は、最初にそういう補助があるとか、助成があるとか、そういうことはないわけですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） そういったような補助はありません。

○議長（大田英勝君） 3 番。

○3 番（町 俊策君） それと、町政運営の推進体制の中で、定年退職者等、その下ですが、正職員、臨時職員を問わず業務に対するモチベーションの向上及び町民サービスの向上に努力するという職員に対する期待が書かれているわけですが、この再任用をした場合、よほどその職制を考えていただかないとその一時期をクリアした人がさらに働くということで、何となくそのどっちにも遠慮があるというようなことでスムーズな人間関係が結ばれていくのかなと。どっちかが折れなきゃいけないというようなことが、引いては業務に反映していったって、マイナス効果が出るのではないかというような心配をしております。特に先輩後輩の絆というか、そういう関わり合いの中での与論の人情がそういうふうになっているようですので、これについては、十分な配慮をお願いしたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その件についても全く議員がおっしゃるとおりでありまして、その配属された課がまずまとまってはじめて本当の仕事ができるわけでありまして、そういう点は非常に気をつけて、先日も希望される方々に直接お会いしまして、その点を強くお願いしたわけでありまして、各課の担当の長が一番の責任を持つわけですので、それにしたがっていろんな角度から指導はお願いするわけですが、まずはその課の団結が一番必要でありますので、その点の御指導についてお願いをしてあります。その点は十分今後仕事をしていく中で注意をしてまいりたいと思います。

○議長（大田英勝君） 3 番。

○3番（町 俊策君） 特に先輩に対するその思いというのがありますので、一般的には。その辺のところをよく考えていただいて配置しないと、もう一段落した人と、これからやっていこうという意気込みに燃えた人とのギャップが消されるようなことがないようにお願いをしたいと思います。できれば従来いた課よりもほかの課に行ってという形のほうがいいんじゃないかなという気もしますし、あるいは再任用者だけの集団をつくって、ベテランセクションとして多方面に渡っていろんな問題に即応できる体制にして、そして町民が言う、きょう要望したことがすぐきょうのうちに果たされるような即決できて、行動できる、そういうセクションを考えていただければなおいいという思いがあります。なかなか町民から要望があったことを行政にいっても、なかなかそれを解決してくれないというのが私自身にも1カ所、2カ所あるわけですが、そういったことにも、小さいことでもすぐ対応するというような住民サービスに徹した体制づくりをお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その点はもう十分に気をつけてやってまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（大田英勝君） 3番。

○3番（町 俊策君） いずれにしましても、60歳定年はちょっと酷だという気はいたしておりますので、こういう体制づくりについては、私は賛成ではあります。が、定年がくるまでを心持ちにというか、我慢しながら勤めてきたとか、そのいっぱいいっぱい努力をしてきた人とか、いろいろいらっしゃるわけで、その一段落ついたというような精神状態のカウンセラーというか、そういった方面の配慮もぜひ一つお願いして、さらに役立つ先輩として勤務されるようお願いしたいと思います。なお、またこれを見てますと、一般企業にはなかなかそういうことはありませんが、役場職員だけが厚遇されているというような印象を与えないように十分な説明をお願いしたいと思います。

次に、役場庁舎の移転等に係る町民への説明と意思確認についてであります。役場がこの場所から移転するということになる、町民全体の動線といいますか、そういったものが大きく変わってきますと、現在のこの商店街の人たちにも影響は大きいと思います。かといってこの場所は新しく建てる場所として適切であるかどうかというのもまた疑問の多いところであります。

また、反対に、現在では重要書類等は別の安全な場所に保管できるという体制もあるわけで、それを取りながら庁舎が茶花の背後地の住民の人たちの防波堤になるような役割というのもまたあるんじゃないかなという気もしますが、いずれにしま

しても、人命第一というようなことでありますし、正直言っていまやこの会が結成されてる、検討会があるとか、それからそういったプロジェクトがもう既にできているということ自体が私は知らなかったわけで、知らない私が悪いのか、それともこういったことを今こういう考えでやりますよと、町民の最大関心事の一つだと思うんです。こういったことをやっぱりある程度週報が出ておりますから、こういう活動をやっておりますよと、町民が心配していることを、少しでもやっていることを知らせてあげて安心をさせる。あるいは、そういうことであるならば、私も意見が言いたいというような町民の意見を吸い上げるひとつのきっかけにさせていただきたいなという思いがあります。町民全部の意見を聞くと話がまとまらないということもあるかもしれませんが、このことに関しては、ぜひ一人一人の町民から意見を聞くように、アンケートをとるようにぜひお願いしたいと思います。いろんな意見があると思います。我田引水という言葉もあるわけですが、そういったことで肝心のこの役場が持つ機能が損なわれてもいけませんし、いろいろな考えの人がいると思いますので、面倒ですが、これだけは町民一人一人からアンケートをとるように、ぜひお願いをいたしたいと思います。難しいことじゃないと思いますが、一つ、一番最初の出だしは町民から始めていただきたいと思いますが、町長、いかがですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） もちろんおっしゃるとおりでありまして、この事業自体を考えてみますと、これはもう町民全体の大きな問題でありますし、仮に、この茶花から移転するにしても、何世代もかけてやっと茶花の都会に降りてきたという方も相当いらっしゃるわけでありまして、そう簡単にどこどこと決めることはもうできないんじゃないかと思っております。今私どもがやっているのは、行政的な立場で基本的なたたき台をつくっているだけでありまして、もうこれは町民の代表者、そして代表者間のいろんな検討の中で町民の一人一人の意見を聞いてやるべきだという意見が必ず出てくるのではないかと思います。その段階においては、そういうアンケートもとって、住民投票までいかなくても、住民のそうした意見を網羅した上でやらないと、これはもうおさまりがつかないわけであります。

また、私ども行政としても町の財産を守らなければならないという大きな責任もあるわけでありまして、それも提示しながら、町民の総意を得た上で決定をしたい。その中には場所が一番大きな問題になるわけでありまして、その建築の方法とか、考え方についてもその町民をあげた、各代表者をお願いし、町民に諮って決定をしたいという考え方をしております。

○議長（大田英勝君） 3 番。

○3番（町 俊策君） 次に、ふるさと納税の問題に移らせていただきたいと思います。

答弁の中にあります、災害義援金につきましては、私もそれに返礼というのは心だけでいいんじゃないかという気はしますが、実は、テレビで見ましたが、このふるさと納税に対しては書いてあるとおりですが、その地域地域の特産品がお礼としてもらえるということで、いろんな人が今度は増えているんだそうです。今度はどここの県のどここの市町村のところへ納税しようと。そしてその特産品が贈ってくるので、それを楽しみにしているというようなことで、今それがちょっと流行っています。それで、たまたま私は与論に長く住んでいた方で転勤された後、どうしてもお礼をしななければいけないということで、生活研究グループの人たちが朝市をやっているわけですが、そこに行ったら、与論の特産品を海の幸、山の幸、それに自分たちでつくったものと、お菓子類とか、そういったものを網羅して、まさしく島のものだけで1パックできたわけですけども、大体贈るときは、大勢の人数のためにではなく、夫婦ぐらいの単位で贈るわけですけども、かなりいろんなものをつくっています。生活研究グループというのがあって、そこでふるさと宅急便を扱っていますというようなことで、2、3軒贈ったんですが、すごく喜んでいただき返礼がありました。島にいるときに目にしなかったものが、あるということがわかったのです。今生活研究グループの方々が一生懸命頑張っていらっしゃる。これを発展させていけば、これを贈ってもらった方は非常にうれしいと思います。うれしいんで、そしてまたその内容がよければ自慢したいと思うのです。ふるさとのことを。ですから、宣伝効果もかなり上がってきていいんじゃないかなという気がします。今そういった研究グループの方々と話し合いをして、ぜひこれを金額的には幾らぐらいというようなことでお願いをしたい。

それと昨年寄付してくださった方、10万円の方ですが、また今年もしたいと、その中継ぎの人もお金をもらうだけで手紙1本でというより、何か返礼でもないかと、中継ぎしている人が何か気の毒がっているわけですね。もらうばかりで何もしないというのはどうも気にかかるという話も聞きます。中には、1万円でもいいですか、という人もいます。だからやっぱりふるさととかかわり合いを持って生活したい。ふるさとのために何かやることはないかというようなことで、日頃から思っている出身者の方も大勢いるのではないかと。そういう方々に対して、やっぱり心と心の問題だと思いますので、返礼にそういったものを送ってあげるとおそらく隣近所に「これうちの田舎のものよ」とか、「そうしたら送ってきたよ」とかいいうことで、島の特産品の宣伝効果も生まれてくる。そうすると、一石二鳥どころか、一石三鳥ぐらいのよい効果が生まれるんじゃないかと思いますので、ぜひこの

件に関しましては、よそのところもやっていらっしゃるようですので、我々の島も甘えっぱなしじゃなくて、その婦人会を主体としたそういうグループの活性化のためにもぜひこれを実施していただきたいと思いますが、町長いかがですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 先般テレビで私も見たわけでありますが、ふるさと、その地域の活性化に寄与したいとか、かかわりがあってやるという方のほかに、やっぱり地方の特産品が送ってもらえるのでやっているという方もたくさんいらっしゃるという放送がテレビであったわけでありますが、確かにおっしゃるとおりでありまして、また地域の特産品が出るわけでありますので、地域の活性化にも非常に役立つという思いを、議員が今おっしゃるとおりの思いをしているわけで、いろいろと担当課でも話をしてきたわけでありますが、金額の面とか、いろんな問題がありますので、きちっとした線を出して検討させていただきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 3 番。

○3 番（町 俊策君） 以上、3 点質問いたしました。いずれにいたしましても、皆さんが一生懸命やっただけでいることはわかりますが、ひとつそのやったことが最大限の効果を発揮されるようによろしく願いいたしたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（大田英勝君） 3 番、町 俊策君の一般質問を終わります。

次は 1 番、林 敏治君に発言を許します。

○1 番（林 敏治君） 平成 26 年第 1 回定例会の一般質問を行います。

今回の質問事項は、将来の島づくり 5 年、10 年、20 年後に夢と希望を持てるかという観点から質問をします。

1 環境保全の推進対策について

(1) 本町は、今後太陽光等の新エネルギーを積極的に導入促進して、地球環境の保全、エネルギーの自給及び観光地としてのクリーンなイメージアップを図る必要があると通感されるが、町長はどう推進していく考えであるか。

(2) 南国特有の豊かな太陽エネルギー等を活用した地域活性化を行い、自然環境と共生するまちづくりを推進する考えはないか。

(3) 与論島は世界自然遺産の対象地からは除外されていて、国立公園の指定区域に入っているようだが、今後の基本的な対策をどう考えているか。

2 地域防衛対策について

(1) 政府は、米軍普天間飛行場の移設を名護市辺野古に計画しているが、近隣にある与論島にも影響が及ぶおそれがあると痛感される。この機会に自衛隊等の基地及びレーダーの設備を誘致・整備して、緊急時の災害対応や地域防衛対策を推進す

る考えはないか。

お伺いをします。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） ただいまの御質問にお答えします。

まず１－(1)についてお答えします。

御提案の太陽光や風力等の環境にやさしい新エネルギーを導入することは、地球温暖化防止や環境保全はもとより、観光地としてのイメージアップに繋がるものと考えております。

この新エネルギーの導入に際しては、地域の自然環境や将来にわたるエネルギー需要の特性等を踏まえた上で、必要な財源の調達及び費用対効果等をしっかりと検証しながら進めていく必要があります。

今後は、本町の「地域新エネルギービジョン」及び「地域省エネルギービジョン」の方向性を基本としつつ、国や県、団体等の助成制度に係る情報等を収集しながら、取り組んでまいりたいと存じます。

次に１－(2)についてお答え申し上げます。

現在、本町においては、電力会社による電力の固定価格買取制度の普及により、何件かの個人住宅の屋根等に太陽光発電装置を設置されていますが、残念ながら公共施設には設置されていません。

御提言の、太陽エネルギー活用による「地域活性化と自然環境との共生」につきましては、地球環境の保全・エネルギーの自給・観光地としてのクリーンなイメージアップに繋がることから本町にとって、大変有効であると考えます。

今後、太陽光発電装置の設置場所、設置費用、補助制度の有無、固定価格の値下げ動向、費用対効果などについて総合的に検討しながら推進してまいります。

次に１－(3)についてお答えします。

国立公園は、優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的に国が指定するものであります。

奄美群島の中でも、特に大島本島・徳之島は、アマミノクロウサギを始めとする多くの固有種・希少種を含む多様な動植物の生息・生育地となっているため、国がユネスコ世界遺産センターへ推薦する予定になっているものと思います。

本町の場合は、議員御指摘のとおり、世界遺産の対象地域ではなく、国立公園の指定区域に入る予定となっていますので、国立公園から国立公園への移行を機に、本町の海域・陸域の自然環境のすばらしさを再認識するとともに、将来へ残さなければならない、国民共有の貴重な財産として、保全策を講じなければならないと思

います。

これまで、海岸清掃やオニヒトデの駆除・ウミガメ監視などに取り組んでまいりましたが、これからも町民の自然保護意識の啓発も含め、将来にすばらしい自然環境を残せるよう、努めてまいります。

最後に２－(1)についてお答えします。

自衛隊の基地や施設・設備等の誘致につきましては、災害時の非常時の対応や島嶼防衛の観点などから有効な施策の一つであろうかと存じます。

しかしながら、御提案の取り組みに際しましては全町民の理解はもとより、様々な課題や条件整備が求められるテーマであると考えております。

また、我が与論島を含む南西諸島の島嶼防衛対策につきましては、まずは国が取り組むべき防衛上の課題であることから、本町としましては、内外の情勢の推移を注視し把握しながら、今後の対応・対策を考えてまいりたいと存じます。

○議長（大田英勝君） １番。

○１番（林 敏治君） まず環境保全の推進対策についてなんですが、東日本大震災と原発事故から丸３年が経過し、去る３月１１日は与論町民黙祷を捧げました。また、奄美市におきましては、脱原発を訴え、自然エネルギーの本格的導入に取り組むべきと決議し、市街地でパレードを行なったようであります。

与論に住んでいる私たちには関係ないと言えるでしょうか。自分自身や子ども、家族のこととして故郷が汚染されたときのことを考えると、原発はいらないと思いますが、そこで町長はどう考えているか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 原発については、非常に何といいますか、災害が起きたときの影響の大きさというのはもう計り知れないものがある。これはもう全国民みんな一致した認識であると思います。

さて問題は、きょうもうやめなさいといったときの経済とか、いろんなパニック状態を考えたときに、果たしてそういうことが言えるかという点もあるんじゃないかと思います。町長として、私の考え方はどうかというお尋ねであります。基本的になくすべきであるということはもちろん私もそう思っております。しかしながら、今の経済状況、これだけ日本国民が今の状況までやってきたことを考えたときに、一番の産業の根源であり、生活の一番のもとになる電源をきょう、あすですぐということはいかがなものかと、できればそれにこしたことはないですけども、そういう点も考えて、はっきりこうだと言えるのは、将来はなくすべきであるということだけしか今のところ考えられないということでもあります。

○議長（大田英勝君） １番。

○1番（林 敏治君） 現在、経済産業省においては、再生エネルギーで発電した電気を電力会社から買い取り、買い取り価格は1キロワット、住宅用が約37円、非住宅が約35円と聞いております。そこで、与論町が管理している施設、電気の施設で売電を行い、財源を確保する考えはないかというのを伺います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 実際に、ため池を使った自然エネルギーとかいろいろ検討して、実際に先日それがだめになったわけでありましてけれども、いろんな検討はしているわけです。実際に、いろんなプロジェクト等の指導を受けながらやっていますが、行政として、例えば砂美地来館のクーラーとか、そういうものをできるだけ早くやりたいという考え方、公共施設に自然エネルギーを導入してやる考え方というのは非常に興味をもっていますし、調査もして、富士五湖のそばや東京出張のときに見させていただいたりしておりますが、どうしても公共的な施設に対する自然エネルギーの活用というのはやっていかなければならない大きな課題であるというふうに考えております。ただ与論の場合、ほかの地域と違って、台風というのがありますので、非常に器物の破損があった場合にどうするかとか、特殊な条件がありますので、その点の検討をまた十分にする必要があるんじゃないかと思っております。ゆくゆくは公共事業の自然エネルギーを利用した公共施設の活用というのは、どうしても必要であるというふうに考えております。

○議長（大田英勝君） 1番。

○1番（林 敏治君） 経済産業省が打ち出している固定価格買取制度は、大変高利回りであると聞いております。太陽光のソーラーパネルの機材については15年保証、それから売電価格は設置後20年間の保証であります。現在、与論においても設置件数も増えてきており、近隣の沖永良部も、また国においては岐阜県など、相当増えております。どうでしょうか、地域活性化のために各自治公民館あたりを利用し、そしてそこで売電をするという考えはありませんか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 買取価格より売電といいますか、九電が、電力会社が買い取る価格が一般町民から取る電気料よりは高くで売れているというのはよくわかるわけです。実際に、費用対効果は計算してみないとなかなか出てこないものですから、今のところ費用対効果の計算では、個人的にそれぞれで計算されているところですが、私が調べたところでは、その費用対効果というのは非常にまだもう少し時間かかるんじゃないかというふうな考え方をしております。一番基本になるのは費用対効果でありますので、費用対効果の点を引き続き検討してまいりたいというふうに思っております。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） もしその施設が利用できなければ、民間の企業、あるいは工事の方々に貸すことはできますか、できませんか。お伺いします。設置をする屋根を貸せるかということです。

○議長（大田英勝君） 暫時休憩します。

-----○-----

休憩 午前 9 時 4 9 分

再開 午前 9 時 5 0 分

-----○-----

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。
町長。

○町長（南 政吾君） その点は今まで考えたことはないんですが、実際は池を貸してくれということで、その検討をしたのですが、それが実際に事業としてだめになったわけであります。いろんな期限の問題とか、いろんな条件が建物を貸したときに、その建物の用途変更とか、耐用年数等いろいろな問題があるので、簡単に貸しますということは申し上げられない。その場合によってしか検討ができません。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） 公共施設ということで、やはり貸すことはできないとは考えておりました。しかしながら、やはりこの太陽光エネルギーについては、非常に高利回りということで、大変失礼ながら、お金がなくても借りてきて設置すれば 10 年後には取り戻せるようなシミュレーションになっております。それから以降はもうその太陽光の売電したそれが入ってくると。将来的には非常に財源も確保できるんじゃないかという観点から質問をいたしました。

次に、与論島の世界遺産からは残念ながら除外されておりますが、奄美群島地域におきましては、自然の風景地を保護するとともに、その利用促進を図り、国民の保健、休養、教化に資することを目的とした国定公園、国立公園を有するとあるが、与論町には、その国定公園区域はどこにあるかと。もちろん海岸線だと思えますが、どこにあるんですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） まずちょっと御質問からちょっと外れますけども、いきさつを少し御説明したいと思います。最初に世界自然遺産というのは、喜界から奄美群島、沖縄の北部までという考え方で、全部考えていたわけでありましたが、進めていく中で、奄美の本島と徳之島、北部、そして西表島、これは世界自然遺産に適合するけれども、ほかのところは無理であるということで、もう絞らざるを得なくなっ

てきたわけです。といいますのは、こちらに申し上げましたとおり、陸上に住む希少生物が中心になっており、海のほうは遺産からは除外しないと可能性がないということで除外することになったわけであります。しかし、世界自然遺産は国定公園からすぐにはできない。国立公園の指定をしてから、それからもう一歩進んだ世界自然遺産という形になるということで、国立公園というのは、先ほど申し上げました範囲でできるということで、国定公園から国立公園に喜界、沖永良部、与論の場合は国立公園にするということで、あとの大島本島と徳之島、沖縄は世界自然遺産までもう一段階進んでいくという形をとっているのが現状であります。これは実際問題として、調査して全部出して、国のほうといいますか、ユネスコのほうで全部は無理であるというのがはっきりしたので、そういうふうに変えてきているわけです。

以上です。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） はっきり申し上げまして、国定公園と国立公園の違いがあまりちょっとわからないような気がするんですよ。それで、今の与論の海岸にある国定公園がそのまま国立公園になるのかどうか。また、場所はどこなのかということであります。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） これは環境省から何回も町民に放送して、何回も説明してやってきました。範囲は狭くなります。守るべきところをきちっと守ろうということで、前の国定公園の場合は範囲を広げすぎて、人の人家の中まで全部自分の庭の前を整地したら国定公園で手をつけるなどか、いろんな問題が出てきて、非常に陸上の範囲を狭めてあります。海のほうも開発すべきところと、残すべきところというので海のほうも狭くなっております。国定公園よりは範囲を狭めてあります。あとでまた、地図がありますので、それでまた御説明したいと思います。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） それを踏まえて、国定公園内では、優れた風景地を保護するために自然公園保護に基づき、各種開発行為が規制されていると。また、開発行為等を行なう場合は、事前に県知事への許可申請が、手続きが必要であります。これまでにそういう手続きはあったのか、なかったか、お聞きします。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） それはもちろんありました。国定公園の範囲で全部中止されたところもかなりあります。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） 手続きが必要な行為というのは、見物の建物の新築、改築、それから木畑の伐採、広告物、看板の提出、開墾、土地の形状変更、鉱物や土石の採取、屋根、壁面の色彩の変更、環境大臣が指定する植物の採取または損傷等であるようであります。自然公園法の規則に違反して、行為や無許可での行為等については罰則がなされるというふうに聞いております。今までそういうことはないですか。

○議長（大田英勝君） 環境課長。

○環境課長（福地範正君） ただいまの御質問にお答えします。

毎年国定公園における開発行為に関しましては、与論町を経由して県に申請をするようになっております。大体年間、今年が30件ぐらいになるかと思えます。去年が17件、その前年度の23年度が22件ほどあがっております。その中で、今御質問の罰則を適用とかというお話でありますけど、許可申請を進達する段階で、町の段階で事前に気付く分に関しましては、事前指導、そして鹿児島県に書類が届いた段階で県のほうで再度書類の中身を確認して、その段階で追加される分に関しては、また事前指導があります。よって、違法なものに対しては許可が降りてないということであります。これは少なくとも許可申請を申請する、されている分に関しては、現在のところ違法な行為はないものと思っております。ただ申請されずに、また行政サイドも気付かずに無届けでする分に関しましては、担当課といたしましては、現在のところ確認できておりません。

以上です。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） 行政においては、厳しい規制、監督の義務と役割があると思われます。そこでどうお考えになられておるかお聞きします。

○議長（大田英勝君） 環境課長。

○環境課長（福地範正君） 行政の役割ということによろしいですか。（「そうです」と呼ぶ者あり）

ただいまの御質問であります。特に現在は国定公園、将来は国立公園になる地域を抱えている町といたしましては、この貴重な自然を将来に引き継ぐべく必要な啓発、指導ということを徹底していきながら、いかに環境を保全していくかということがとっても大事だと認識しております。

このような観点から行政といたしましては、国定公園から国立公園にまた移行しますので、これまで以上の取り組みが必要であると思っております。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） 国立公園になった場合は、奄美群島一帯となって水平的な広域

的事業展開の必要性があると思います。また、観光客増員も期待できるとしておりますので、また南西諸島一帯となって進めていく必要があると考えます。町長、いかがですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その点はおっしゃるとおりで、そうしなければ意味がありませんので、その点は徹底してやっていきたいというふうに考えております。各島々で世界自然遺産の間に国立公園が連なっているという形で、特に島自体の計画をきっちりやる必要があるということで、国のほうにもその考え方をお願いしてあります。一日でも早いその世界自然遺産と、それから国立公園の指定を早くいただきたい。国立公園はすぐおりるんじゃないかというふうに考えております。その後から自然遺産ということになるわけであります。まもなく国立公園のほうは認可になるというふうに考えております。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） ぜひとも一つ早めに、登録はあるかもしれませんが、一つ対策を打っていただきたいと思います。

それでは、次にいきます。

地域防衛対策について。防衛省は平成 14 年度には部隊申請への基本構想を策定する予定であると聞いております。今後それに基づいて、瀬戸内町では自衛隊の誘致拡充に努めていくとしており、武田防衛副大臣が来島、視察し、南西諸島を取り巻く現状は島嶼防衛という新たな任務を展開するために重要な地域であるとおっしゃられております。また、奄美においては、国が離島防衛の観点から配備を考えていると、それに向けて誘致実現に向けて手ごたえを感じているというふうにおっしゃっておりますが、町長はどう考えているかお伺いします。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） これは私個人の私見になるわけで、個人の考え方ということでお答え申し上げたいと思いますが、自衛隊が国を守っているということは、非常に有難く感じております。また、我々はその恩恵を受けている。この与論島の位置からしても非常に感謝をしているわけでありますが、ただ私ども与論は非常に小さな島でありまして、その自衛隊に協力するということを考えたときには、保養地か合宿地ということであれば非常にお願いをしたいけれども、演習場とか基地ということになれば、今でも演習をされるときはどうぞということをやっていますけれども、地域の方々は非常に困りまして、例えば、プロペラが二つついている大きなヘリコプターはそばに立ってられないんです。私も呼ばれて、行きましたが、もう土が揺れるわけですよ。そういう面もありますので人家の中にもできない。与論の

場合はできないということでもありますので、それをお願いするというのは非常に難しいんじゃないかと、保養地とか、合宿地とかという協力はできるだけやりたいと申し上げたこともあります。そういう点であれば島が小さくてきっとそういうのはとてもじゃないけど無理でありますけれども、保養地とかそういうことであれば町民に諮って検討もできるんだがということは申し上げてあります。私としては飛行機が来て演習をしたりということは、今が限界じゃないかというふうに考えております。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） 確かに基地をつくと住民にとっては大変御迷惑ではないかと想像はしておりますが、これからの与論の発展というか、島づくりを考えますと、もしその例えば保養地とか演習場とかができれば、これは非常に地域振興にもつながるし、また経済的効果が私は期待できると思っております。それでぜひ今後、町へ自衛隊その誘致推進協議会でも立ち上げていただいて、そこで議論をしながら将来に向かって要望していくという、そういう考えをしているんですが、町長はどう考えておりますか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 今のところは、組織的に誘致、瀬戸内もまだ組織的にはできていないと思うんですが、町長の私見ということで、その誘致をということで何回か私もその場で言ったことがあるわけですが、組織的にやるのはもうしばらく時間がかかるんじゃないかと。やったのが逆効果ということもありますので、町民に対するコンセンサスというのが必要じゃないかと思っております。ただ保養地としては、私は町民の方にお願ひすれば何とか御理解いただけるんじゃないかと思っておりますので、個人的にその可能性を探っていきたいというふうには考えております。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） 与論町から自衛隊の隊員が約 2 3 名送り出しております。そして、今年 1 名が入隊されております。そういうことも考えて与論町のこの子を持つ親のことも考えながらやはり就職活動といいますか、そういうのも大事ではないかということで、この自衛隊の基地なり、さっき言われた保養地とか練習場をぜひやっぱりつくっていただければ、将来の子どもたちにも夢を与えるんじゃないかということで、私は今回提案をしたわけであります。どうですか、町長。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その点は私どももお願いをしたり、やっているわけでありまして、また自衛隊の行事には 1 0 0 % 出席させていただいています。漁協関係の漁業

権のいろんな補助金もございますので、いろいろと御礼を言ったりして、その行事には私か副町長が必ず行くようにしております。今後ともそれは続けてまいりたいと、つながりは持っていきたいというふうに考えております。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） 最後になりましたが、やっぱり大型台風とか緊急なことが起き得るこれからの社会ですから、いろいろ考えますと、やっぱり緊急災害に対応できるように今後ともまた一つ消防団なり、自衛隊なり、いろいろな団体の力を借りまして安心して安全な住みよい島づくりをしていきたいと考えております。町長、最後をお願いします。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 特に私は自衛隊に命を助けていただいた者としても、本当にこのつながりは大切にしていきたいというふうに考えております。

ありがとうございました。

○議長（大田英勝君） 1 番。

○1 番（林 敏治君） 以上で一般質問を終わります。

○議長（大田英勝君） 1 番、林 敏治君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

—————○—————

休憩 午前 10 時 10 分

再開 午前 10 時 19 分

—————○—————

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次は 7 番、野口靖夫君に発言を許します。

○7 番（野口靖夫君） 1 年間のごぶさたです、町長。去年の 6 月の定例議会で町長と議論をいたしました。いわゆる一般質問です。その中で私が申し上げたことは、ぜひひとつ町長が実行されると、実践されるということに関しては、先頭を切って、リーダーとして頑張ってもらいたいという質問を申し上げました。それで町長は、これはもう頑張るんだと勢いよく御答弁されましたもので、私はうれしく引き下がって自分の席で常に何といたしますか、酔いしれていたわけです。そこで今回は、平成 26 年度の町長の施政方針演説、施政方針、それをお聞きしまして、なるほど今年は非常に去年、一昨年と台風災害で大変だったもので、今年こそはまずリーダーシップをとって全力で頑張りたいというその姿勢がうかがえました。だから私は非常に質問するのか、政策論争をするのか、今回はちゅうちょしたわけなんです。けれども、それを実行するためには、施政方針で述べられたことが実践されるために

は、これは強烈な町長のリーダーシップと、そして心意気と、その実施計画が必要なんです。だからそれを聞かなければ納得できないということで、あえて一般質問を、通告書を出したわけなんです。

私は、今回３点にまとめて質問させていただきますが、まず第１点は、いわゆる商工観光の振興策です。

そして第２点は、生活基盤の整備なんです。この２点。

そして、その商工観光の振興策についての１点は、まず町おこし、商店街の活性化、これをどのような方向で町長が進めていかれるのかということをもっとお聞きしたい。

そしてもう１点は、観光産業の振興策を具体的に聞きたいということなんです。

もう１点は、生活基盤の整備であります。これは先ほども申し上げましたように、去年の６月の定例議会で町長に一般質問してあります。そのときに町長は、先ほど申し上げましたように、「頑張る」ということを言っておられました。また、今回の施政方針の中にも「とにかく頑張る」ということを述べておられます。そういうことからして、私はもう頑張るもんだと思っている。であつたら、その去年の６月質問しているわけですので、町長はそれに対してどういう行動をされて、本当にどのように県と折衝されたのか。これが大事なことです。何もしないでからやりましたでは話にならないわけなんです。私はここを聞きたいんです。どういう経過でその県の執行部に対して町長としての行動を起こされたか。その行動の経過を聞きたい。そして、今後それに続いて平成２６年度はどのように実施していくのか、その心意気を聞きたいということなんです。今、町民は町長が施政方針を述べられたら、もう本当に町民はやるんだろうなと、現職の町長が施政方針として言われているわけだから大きな期待感を町民は持っておられるわけなんです。そういうことから、私が一般質問することによって、町長の実現性の可能性を町民が知っていただくということにもなると思いまして質問させていただきました。

それでは、一応通告はしてありますので、町長の御答弁を聞いてから逐次１点１点質問させていただきたいと思います。もちろん私が質問するのは、この町長の施政方針演説の中から抜粋しておりますから、これ以外のことは質問しませんので、これに基づいて質問させていただきます。

お願いします。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） それでは、ただいまの御質問３点についてお答えします。

まず最初に、１－(1)についてお答えします。

商店街の衰退の原因として、少子化による人口の減少や通信販売への公売形態の

移行、商店街の老朽化に伴う景観の悪化などがあります。

また、立地条件の良い大型店舗や駐車場を有した好アクセスの店舗への客流入及び後継者不足があり、賑わいを失いつつあります。

この問題の解決・改善のためには商店街組織の活力のある自主的な取り組みが必須であり、国の平成24年度補正予算によりスタートした「にぎわい補助金事業（ソフト）」、「まちづくり補助金事業（ハード事業）」を活用しながら、通り会等と連携し街灯等の整備を推進し、商店街の活性化体制を整えてまいります。

それから1－(2)についてお答えします。

本町の観光産業振興は、あくまでも受益者である民間の観光関連事業者等が主役であり、これを統括するヨロン観光協会が主体となって行うべきと考えます。

行政は制度環境や支援的措置の整備に努めコーディネート役に徹する明確な役割分担が必要と思われます。そして観光産業振興の発展のために自主的、自発的に取り組む意識改革や体制強化が最も重要であります。

これに基づき平成26年度はヨロン観光協会主体のイベントを予定しており、これを機に民間主体・行政のバックアップ体制をスタートさせていきます。

最後に、2－(1)についてお答えします。

本地区は、平成21年10月に沖永良部事務所建設課より事業完了の説明会がありました。平成24年4月に集団登校中の児童の列に自動車が突っ込む事故が相次ぎ多くの死傷者が出たことを受け、全国の市町村で通学路の緊急合同点検が実施された中で、本地区も危険箇所としてあげられていることから、平成25年3月には東区自治公民館・交通安全協会・観光協会・与論小学校PTA・与論中学校PTAからの陳情があり、安全対策を含め拡張整備について、当初の県の計画通り実施されるよう、全地権者からの同意書を添えて、鹿児島県道路建設課長、沖永良部事務所長に要望しているところです。

県の方針は、当初計画通りの実施については、用地補償費率が高いことから早期事業着手は困難であると聞いています。

しかしながら、本地区は葬儀場や観光施設等が整備され、以前より交通量も増加傾向にあることに伴い防災・安全対策の面からも重要な路線箇所でもあることから、防災・安全交付金の活用による通学路の安全対策、歩道空間の確保等の要望活動を継続し、交差する町道の改良等、町としてもできる交付金事業を検討してまいります。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） 順を追って質問をさせていただきます。

まず第1点であります。商店街の活性化であります。この商店街の活性ににぎ

わい補助事業というものを導入して、これはもう平成24年度だったかと思うんですが、その頃からその補助金制度ができて、ソフト事業としてこの事業は進められております。私が一番ここでお聞きしたいと思っているのは、先日、林 隆寿議員と高田豊繁議員がこの件についてる商工観光課長等に質問しておりました。やりとりしておりました。それを聞いていて、なるほどと思いました。あの2人の議論を聞いていたら、別に質問はする必要はないとは思ってはいたんですが、私は先に通告しているので、これはもう繰り返しのようになりますが、本当に果たしてこのソフト事業で、今24年度から導入してこの商店街が変わったろうかと、商店街は茶花通り商店街、銀座通り商店街、東区にもちょっとありますね。那間にもちょっとあります。その商店街が果たして賑わいを取り戻す商店街に変わっただろうかということを考えてみるときに、これは等しく与論町民が見て、変わってないといわざるを得ない。というのは、高田議員が言っておられましたが、暗いじゃないかと、特に茶花商店街が暗いと、夜ですよ。昼も暗いですけど、夜も暗い。だからこれをせめて賑わい、明るくするためには照明ぐらい考えたほうがいいんじゃないかということをおっしゃいました。その通りなんです。といって、その照明を付けたから町が賑わうということではないのですが、やっぱりその町民の所得が上がって、品物を買いたいと、買う消費力が町民の中で盛り上がってこないと金を使えない。使うとしたら大型店舗に取られてしまう。今山のほうでは頑張っておられる店が1軒あります。また東区のほうでも1軒あります。西区のほうでも2軒あります。ありますが、一生懸命頑張っても限度があるんです。だからといって、町がこうだということは打ち出しにくいと思うんですよ。もう本当に冷え切っているわけですから。お客さん自体が茶花の大きな大店舗に集中してきているわけですから、非常に厳しい点はわかります。だけれども、せっかく町長が施政方針の中で、「よしやるんだ」と、「活性化してみせるんだ」と、「にぎわいのある商店街をつくるんだ」と言っておられたから私は聞きたかったんです。これ厳しいと思います。おそらく商工観光課長もおそらく頭の中では事業はあるんだけど、本当にその事業を使って、こうすればにぎわいのある商店街にできるという試案はないと思うのです。町長もないと思うんですよ。だから行政は、あるいはまた政治家がすべきことは、島の所得をいかに上げるか。そして所得を上げるためには観光、農業、漁業をいかに活性化、振興するかということにあると思うんです。だから私はこの件に関しては、質問をここで打ち止めにしたいと思います。答弁も要りません。もう聞きましたから。

次に移ります。次は、商工観光の中で、特に今申し上げましたように、観光産業の振興というものは、これは本当に考えなければならないと思うんです。これは町

長もそう思っておられると思います。その中で、私が一番気にしているのは、この町長の施政方針演説の中に、10ページから11ページにかけて、いわゆる観光産業の振興ということで言っておられます。その中で私が聞きたいのは、一つ一つ抜粋して質問させていただきます。

まず、この（エ）の観光協会主催各種イベント（ヨロン島ファン感謝祭、月酔祭・音楽芸能祭）を活用した島内外への情報発信ということをおっしゃられます。これは非常に重要なことです。というのは、観光の振興というのは、まずお客さんが島外から何人集まったか。集客できたかによって決まるんです。というのは、町長がおっしゃっておられるように、いわゆる誘客対策がまずは1点。もう1点は、ここにもありますように、受入態勢をどう充実するか。それともう1点は、その推進体制の充実、この3点だと思うんです。この3点をしっかりすれば観光産業の振興を図れると思います。

そこでお聞きするのですが、このいわゆる先ほど申し上げました、このイベントに関しては、各種団体との協力体制が非常に必要になってきますね、各種団体というのは、観光協会であれ、またあるいはNPO法人の今指定管理しているスポーツ団体との連携とかがあると思うんです。ただ観光課だけで、観光課サイドでこのイベントを成功させようと思ったら大きな間違いが起こると思うんです。だから町長として、このいわゆる連携体制、責任の分担制などをどう考えておられるのかということをお聞きしてみたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 今観光誘致の件での責任の分担ということでありましてけれども、まずは私ども行政としては、行政の立場からは与論島という島が観光地であるということをしてできるだけ多くの人に知っていただくこと、これが一番大きな責任があるというふうに思います。そして観光協会の場合は、それを認識した国民から与論島を選択してもらうということについて、これは与論の昭和50年代のあの状況を見たときに、行政がお客さんを誘致に行ったことは1回もないわけです。あれは全部業者の方々が行っておられるわけです。ですから、一番私は観光協会の一番大きな役目は、会員の方々が積極的にお客さんを誘致する体制づくり、これが基本であるということをお願いして、いわゆるイベント、キャンペーンをはるときでもその人たちを全面に出した形のやり方をしていただきたいということをお願ひしてきているわけでありまして、なかなかそれが思ったようにできないというのが現状で非常に残念なところがあるわけでありましてけれども、ただ個々について考えてみますと、非常に私は観光に携わっている方々は頑張っておられるのはよくわかるわけです。いろんな過去の財政的な問題から非常に何といいましよう、押さ

えつけられた形でやるにもやれないような状況があるんじゃないかと思っているわけですが、それを行政的に何とか援助をしてやることを検討していただきたいということで、観光協会にも常々、例えば、例として宿泊施設の御主人とか女将さんが行かれるんだったらある程度旅費の補てんもできるように検討していただきたいということで前からお願いしているわけですが、少しは実現しているんですけど、なかなかおいでいただく方々がそろわないというのが現状でありまして、観光に対する啓蒙がもっと必要じゃないかという点を今考えているわけです。そういうおのおのの責任の分担といいますとそれまでになるわけですがけれども、今後それを実現していくような方法で今年はイベントのやり方も変えた形でやるということで、観光協会のほうで検討していただいているところです。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） 今町長がおっしゃったとおりではありますが、私は観光協会の理事として、私は理事をしている関係で、果たしてこの場でこういう議論をしているんだろうかということも疑問視しながら、自問自答しながら質問しているんです。今度は観光課長にお聞きします。観光課長、今町長が言われたように、今年は観光協会に対する補助金が増額になっているんです。増額して、要するに頑張っていきたいということでこのあいだも課長も町長も言っておられましたが、非常にいわゆる原点の年だと考えて、その補助金も増額して、そして頑張っていただくということで今取り組んでいるわけなんです。

そこで私がお聞きしたいのは、本当にこの誘客活動、いわゆる観光協会が奮発しなければ、この観光産業の振興というのはあり得ないわけなんです。だけれども、観光協会にはまた限度があるんです。というのは、行政というのは皆様方。皆様方と、その民である、いわゆる民間ね、いわゆる経営者と観光協会が三位一体となって動かなければ、いくら補助事業、補助金を増額して補助したとしても、その効果は薄くなるんです。だから補助した以上は中身を整えてしっかりした打ち合わせをして、それを有効活用していかなければ、この誘客活動というものは成り立っていないと私は思うんです。だから、そういうことからぜひ一つ、町長が今おっしゃられたことはそのとおりではありますが、担当者の課長として、観光協会とはもう朝昼晩目と鼻の先でずっと一緒だと思います。だからいつもお話し合いをされていると思いますが、ぜひ一つ計画性のある、ただ口だけのあれじゃなくて計画性のある、今月は何々しよう、いついつは何々しようというしっかりした持論を持って、行き当たりばったりで、ついこのあいだの、例えば、ここにある月酔祭、これも補助金で、補正予算で対応したでしょう。ああいう行き当たりばったり方式はなくてね、当初からこの事業に力を入れるんだ。この中身はどうすればいいんだ。今度

またファン感謝祭がありますね。そのファン感謝祭も去年は行き当たりばったりだったのです。計画はあったけども、1カ月ぐらい前だったと思います。それからやるんだということになってみんなでばたばたしましたね。ああいうことでは誘客はできないです。まず最初にいついつするんだということはもう今の時点でわかっているわけだから、この今の時点からアピールしないと集まらないです。せっかくのあれだけのお金を使ってやっているわけだから、今からこのファン感謝祭というものをどうもっていけばより有効的にその感謝祭の意味を成し得るかということを考えていかないと。適当にいつか考えるということで、そういう甘い考えではいけないと思うんです。どうですか、そこら辺は課長として考えがありますか。

○議長（大田英勝君） 商工観光課長。

○商工観光課長（富士川浩康君） ただいま野口議員さんからありましたとおり、去年のそのファン感謝祭及びそういうイベントは当初予算には組んでなかったです。おっしゃるとおり行き当たりばったりという感じがあったのですが、今年はその去年の反省を踏まえて、あらかじめその前から、例えば施設の借り入れから、そういう点を去年の反省を踏まえて前からそういう準備をしていくつもりであります。

それから、そのイベントの去年も指摘もありました。いろいろと反省する面がありました。そのイベントの収支とかの報告、去年の場合は遅ればせながら東京ファン感謝祭も協会のインターネットで公表しております。そういうネット関係公表も皆さんにわかるように、今年是十分気をつけて頑張っていきたいと思っております。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） 誘客活動についての質問をもう1点させていただきます。

町長、これは町長に聞きます。この課の中で、執行部の課の中で非常に職員が大変だと思うことは、このお客さんを誘客するにあたって金がかかるんですよ。県庁とか行って、あれをしましょうとか言って予算を獲得するのと、一般の民間のエージェントとかキャリアを対象にして誘客するわけですから、あるいは学校とか、非常に金がかかります。職員を見ていて、職員一生懸命頑張っているんだけど、自分の金を出してその対策にあたっているんです。それを見たときに、私は本当に観光課に来られる職員というのはすごいなと、自分の身を削って、自分は観光業ではないのに、私は観光課の職員だからということで、頑張っておられる姿を見るときに、本当に感慨深いものがあります。久留課長もよく頑張っておられました。そこで私は何を言いたいかといいますと、この職員の皆さんが動けるように、そのいわゆる観光協会にその動ける誘客活動のいわゆる活動資金といいますか、そういうものをそれなりにぼんと置いて、それを観光課の職員が目配りする。今も制度はある

んですよ。あるんだけどそのまま観光協会にやったがために、観光課の職員は動けない。こういう事態は起こっている。これが現実なんです。我々は、これは当初平田町長のときだったんですが、それはやっぱり観光課の職員が動きやすいようにするためにはそれを考えなければならないということで、今の副町長の川上課長と相談して、これは本当にそうだということで、その一応プールするのは観光協会、だけれどこれらはその誘客活動の活動資金だからそれ以外のイベントに使ったらいけないということで、観光協会と観光課の職員がうまく連携して、しっかり使っていたのです。そういうことを思うときに、私は今の体制が崩れてきているから、しっかりと今の体制でもいいんだけど、そういうものを観光協会と観光課が相談して、今50万円だったらこれをちょっとでも増額して、動かすことをしないと、観光産業の振興はあり得ないと私は断言しても間違いはないと思うんです。その件に関しては、町長どう思われますか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 今の議員の言葉は大変私ども執行部にとっても非常にありがたい、御理解した言葉というふうに感謝申し上げたいと思います。ただ、やっぱり公務員になりますと、なかなかそういう点がもうコーヒー代だけでも上げないといけないという思いが非常に強いものですから、私ども観光課の職員としては、大変無理を強いているところがあります。相手が相手なものですから、行政であれば相手のほうもきちっとおごってもらふということはだめだということははっきり認識しているのでいいんですけど、一般の民間になりますと、当然のことということで、それをしないというわけにはいかないので、自腹を切るという面が職員の中に大変機会が多いわけでありまして、今後いろいろ課内で検討して、その点についてはまた考慮させていただきたいと思います。非常にありがとうございました。

○議長（大田英勝君） 7番。

○7番（野口靖夫君） 町長ね、今申し上げたことはぜひ一つ実行していただきたいと思います。もうやる気はありますから、これ以上質問しません。

今やっている、誘客活動の中でやっているいわゆる修学旅行の誘致、あるいはまたいろんなスポーツ関係の誘致、沖縄、北部やんばるとの連携誘致とかいろいろあります。沖縄からもいわゆる小学生の修学旅行、そういうことも町長や各課の課長、歴代の課長が頑張られてある程度増えてきております。そういう誘客活動が大切なのです。だからそのためにぜひ職員が活動のできるような、動きやすいようなことを考えていただきたいということで今申し上げました。どうか一つよろしくお願いします。

その次に移ります。次は課長に戻ります。今度サッカー場ができます。これは教

育委員会だけが使うような感じになりますけれども、そうではありません。いわゆる受入態勢の実務が一番重要ですので、今つくっているのは教育委員会がリードしてやっておられますが、最終的には恐らく商工観光課中心になると思いますから申し上げますんですが、旧笠利町、奄美市の中の旧笠利町、そこに立派な自然芝でできた屋外のグラウンドがあります。素晴らしい施設をつくってありますが、私はそれを見たときに、向こうの町長とも親しく付き合い、今の朝山市長が町長のときに、いろいろと説明を受けたり、話もしたことがあります。そのときに聞きましたら、せっかくできたのに、活用されなくて非常に困っているんだということを言っておられました。せっかく素晴らしいサッカー場にもできる総合グラウンドですので、それが人工芝なんです。そうしたら、その人工芝の間から変な草がいっぱい生えてきて、それを整備するのに大変だということを言っておられました。だからそういうふうなことはあり得る、可能性もあるということなんです。ですから、私は今からいわゆる購入する前から、整備をする前から、その計画、この施設をいかにして活用し、その経済効果を上げるか。いわゆるそうでないと町民はこれだけの金を投資しているわけだから、町民の貴重なお金の中からですね。だから我々は、我々政治家はあらゆる、先ほど申し上げますように、役場職員も一丸となってこの施設の受入態勢、いわゆる有効活用というものを今から考えていかなければ、本当に絵に描いた餅といたしますか、そういう本当にこの維持管理をするのに大変なまた金を支出しなければならなくなるのです。だからそういう意味からも、我々は今から肝に銘じて、しっかりした理念、考え方をもっていこうと思っておりますが、教育委員会の池田事務局長、その構想を一つお聞かせいただけませんか。

○議長（大田英勝君） 教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（池田直也君） ありがとうございます。今サッカー場の敷地整備をしているわけですが、実際に運用されるのが平成29年度からです。今準備している内容がなでしこジャパンというのが注目されておりますが、今度大島地区大会のサッカー大会は男子の部しか行っておりません。しかし、この準備に向けて女子の大会をまずはじめに与論に誘致したいと考えています。

また、実際に工事に入る段階では、一般の指名入札じゃなくて、その設計の段階でプロポーザル方式をとって、あくまでも女性の方が利用しやすい施設、あとまたその合宿をした場合に、こういった料理を提供できるのかとか、あらゆる展開を図られるような施設を今検討しているところです。

また、一番投資効果のことがありますので、商工会並びにまた観光協会、そして体協とも連携をしながら、そのプロが、またプロに近い方が演出したサッカー場というイメージでその全体の施設のメインとなるところの設計などもそういう方向で

もっていこうというふうに準備をしているところです。

あと人工芝も同様です。実際になでしこジャパンが使っている人工芝を登用した、基盤をつくっておきたいというふうに準備を進めているところです。ありがとうございました。

○議長（大田英勝君） 7 番。

○7 番（野口靖夫君） 今度は推進体制の充実について観光課長にお聞きしたいと思います。

この 11 ページに観光関係のいわゆる機関と、いわゆる各種団体等とかそういう方々の団体等との連携を密にしながら事業を進めてまいりたいということを書いています。いわゆる文化交流やスポーツ活動等積極的な地域間交流の促進とあります。これはまさしくその通りです。そうしていかなければ観光の振興はありえないと思います。これは重視しなければできません。だからその辺において、私がこのあいだも教育長に申し上げました。前田中教育長は、スポーツの力で島興しをするんだと。2、3 日前に予算審査のときに申し上げました。教育長はそういうことで、沖縄とのスポーツ交流や、あるいは修学旅行による交流、これらの交流人口の増加によって与論島の所得の向上に努めていきたい。行動したいということをおっしゃられて、実際そのようにしておられました。だから現教育長がその意志を引き継がれることもこれは大事だと思うのです。観光課長は、予算審査のとき言っておられましたね。大金久海岸の施設が完了する。完了したら指定管理制度を設けて、全部指定管理させて、そして立派に運用していくんだということをおっしゃいました。そういうことも大事なんです。そこで、現時点でどのような方を指定管理者として指定しようと考えているのか。現在考えておられる指定管理の状況を説明していただけますか。

○議長（大田英勝君） 商工観光課長。

○商工観光課長（富士川浩康君） ただいまの質問にお答えします。

指定管理ということで、一応公募ということではここでは述べることはできないと思っております。気持ちの中には個人的にはありますけれども、ここで述べることはちょっと差し控えたいと思います。

以上です。

○議長（大田英勝君） 7 番。

○7 番（野口靖夫君） これ町長ね、町長が言っておられますように、原点に戻った、PR 活動、原点というのはおそらく与論島が昭和 46、7 年だと思いますが、そこが原点だと思うのです。先ほど町長の御答弁にもありましたように、別に行政が動いたわけでもない、民間が動いてこれだけの観光立島をつくったんだというような

感じのニュアンスで答弁しておられました。だからぜひ一つPR方法というものは原点に立ち戻って、そして頑張っていたきたいということを、私からの町長に対する要望です。

次に進みます。

次は、もう1点は、生活基盤の整備、いわゆる町長はこういうことを言っておられます。同じこれです。この中で、県道茶花小学校前交差点の事業化推進と東区十字路や茶花中央通り空港線等の未改良区間について早期着工、整備が図られるように強く要請してまいります。この要請してまいりますというのは、おそらく県だと思いのです。だからこういうことを言っておられます。私は本当にありがたいですよ。だからこれは県に対してぜひやっていただきたいということをお願いするわけなんです。というのはどういうことかと言いますと、まだこれから一番重要な問題なんです。私は町長の気持ちはわかるんです。町長は、去年6月の定例議会でこういうことを私が質問しました。この東区十字路の問題であります、陳情というのは議員がするべき問題ではないと思うのです。一括して執行部が町長部局がやるべきものだ。鹿児島県の方に行くたびに担当部局に行って陳情を展開、展開してというのは、我々議員がです。私たち議員研修で鹿児島に行きますから、その節に県の土木部あたり行って陳情を展開しているんです。それで県議会議員の先生方をお願いして一緒に動向してもらっているんです。そしてそれでももちろん建設課長あたりは一生懸命努力しているんです。努力しているということも私は申し上げました。それでどうか一つ町長が先頭に立って、その陳情活動を展開していただきたいという質問をしたんです。そこで町長の御答弁はこう答弁されているんです。これは会議録に基づいて言ってますから嘘ではありません、会議録、これは6月定例会の会議録です。その中で、町長は、知事のところで事業をお願いしたのはただ1件だけ、県営住宅だけ行きました。あとのことは担当課を通じてこの県営住宅の場合は、鹿児島県は一切つくらないという宣言をして公表してありましたので、それをやるには、もう談判しかないということで県知事のところに行きましたけれども、あとのことはもう担当を通じてしかやっていません。全ての事業は全部そうしてやっておりますと。こういう明快な御答弁をされております。これは町長が言われた。だから私が言ってるのは、執行部の担当職員の方々、課長はそれなりに自分の能力以上のことを頑張っているんですよ。私が質問したいのは、町長、これは町長という肩書き、町長という執権、それが県にどれだけ通じるかということが一番大事な問題なんです。というのは、この問題は、地元の同意を得て、県が与論町と綿密な打ち合わせをして、そして事業を計画して、それを執行してきた事業なんです。ところが、県の財政が非常に厳しいということで、一端中止になったんです。

それで奄美群島の特に伊仙町、和泊町あたりでそういう箇所がありました。その非常に県の財政が厳しいからもうこれを中止させていただきたいということで、いわゆるその地元の方々も想像していたんです。それで納得して我慢していたんです。ところが、その奄美群島の中のその両町、伊仙町や和泊町のあたりの問題はもうほとんど解決しているんですよ。ということはどういうことかと言いますと、伊仙町の久保町長とか、和泊の伊地知町長から話を聞いたんですよ、私。町長が先頭を切ってやっているんです。役場職員が行っても歯が立たないと。ということで私が行って陳情してきた。だから私が申し上げたいことは、職員が頑張っていないじゃなくて、職員は頑張っている。だからぜひ町長は与論島の首長なんですから、これだけ何といいますか、その施政方針の中でもやるんだということを言っておられますから、町長、できるできないは別なんです。私が言っているのは。町長が1回行かれてだめなものはだめですから、だから県が計画したものを県が勝手に止めてしまった。それに対してものを言うのは町長の仕事ですよ。そうでしょう。だからそこを本当にぜひ町長御理解いただいて、行動していただきたいということなんですが、どうでしょうか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 前回お答えした話については、少し説明不足の点もあったと思うのですが、あのことは、私知事室に行って言ったことがないということで、現場での説明とか、もう知事には何回も、それから事業の申請で年に1回先頭を切ってそのことをみんな申し上げて、知事には何回も申し上げているわけです。ただ、その知事室に入ったというのが、その県営住宅の件でしか入っていないということでありまして、知事をお願いすることは何回かお願いをしているわけですが、特に一番中心になる大島支庁と室長の部長と大島支庁長、そして沖永良部の所長と担当課長には再三このことは申し上げているわけですが、今までは活性化の拡張ということだったのですけれども、そうじゃないと、生活環境として何かあったときの避難路とか、通学路の安全面の問題になっているんだと。先日も沖永良部所長と久保課長には申し上げたんですが、生徒の通学路の安全面の問題、そして斎場もできて非常に混雑して危険であると、何回も申し上げているわけではありますが、なかなかいい返事が得られないというのが現状であります。大島の土木部長にも必ずこれから申し上げてやっているわけでありまして、今後も続けていきたいと思ひますし、知事にも強く要望をしてまいります。その点は、確かに知事は1回、現地まで御案内してごらんいただいたものですから非常に直訴というのがしづらい点がありますので、部長を通してということしか行っていないわけではありますが、今後はまたその点を検討させていただきたいというふうに思ひます。

○議長（大田英勝君） 7 番。

○7 番（野口靖夫君） これは政治的な問題でありまして、沖永良部事務所とか、県の土木部の関係とか、ということを超えているんです。というのは、政治的な判断なんです。いわゆる与論を代表する南町長と鹿児島県を代表する伊藤知事の政治的な判断なんです。それをやっていくのが政治家なんです。だから私はそこを強烈に申し上げているんです。というのは、先ほども申し上げましたが、沖永良部の和泊町の問題も伊仙町の役場前の問題も、その地元の町長が頻繁に力強く動いた結果なんです。和泊町の職員も動いた、伊仙町の職員も動いたけれども、これを飛び越えたのは町長の力なんです。だからぜひ町長、町長にも元気があるわけだから、町長に政治的なところをリードしていただきたいということを申し上げているんです。沖永良部は沖永良部の事情、奄美は奄美は事情、首長というのは、地元の町益、いわゆる損益、地元の益を考えて行動するのが私は首長だと思うのです。だからその意味において、こうしつこく申し上げるのはそこにあるんです。どうか建設課長もこのことを聞かれて、ぜひあなたがこういう行動、陳情行動を展開するときは、町長もお供してやっていただきたいということなんです。そうすることによって、この事業は前に進みます。これはそうでしょう、考えてみてください。鹿児島県はですよ、飛行機が欠航になりそうということで中国に飛行機を飛ばすために何千万円というお金を計上して、あの協議会の中で大騒動までして計上せざるを得なかったでしょう。もう金がない、金がないと言いながら、鹿児島近郊の中のあの人工島、あれも埋立てし直して、伊藤知事が立候補したときは、しません。と言っておきながらやったんですよ。今もう完全に人工島が完成したじゃないですか。だから一つ一つ言ったことは県はやっているんですよ。やっている。だからそれに対して、地元の首長と担当者の皆さんが先頭を切っていかないと、沖永良部もそうだったから、沖永良部は沖永良部、徳之島は徳之島です。だからそのためにもお互いの奪い合いですよ、予算の奪い合い。だからそういうことを念頭に置かれて、ぜひ一つ実践していただきたいということを強く申し上げておきたいと思います。

町長は今御答弁の中で頑張るんだということを言っておられますから、頑張る人にそれ以上文句を言ったら逆にもうしない、やめたということになるかもしれませんので、これぐらいに止めておきます。当初に申し上げましたが、与論町民は町長の施政方針を必ずや町長はやるんだと、頑張るんだということを期待してみんな見ておりますから、また町民は議員に対しても、この議員はよく頑張りそうだと見ているわけだから、それに対して報いるためにも我々もそれなりの仕事をしていくべきだと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。終わります。

○議長（大田英勝君） 7番、野口靖夫君の一般質問を終わります。

次は、8番、麓 才良君に発言を許します。

○8番（麓 才良君） 平成26年の第1回定例会における一般質問であります。安心・安全な災害に強いまちづくりについて、1点に絞ってお伺いをします。

東日本大震災や、また本町における2年にわたる大型台風の災害等で安心・安全な災害に強いまちづくりは大きな関心事であり、また町政の最重要課題の柱であります。町長の今年の施政方針の中でも、安心・安全のまちづくり構築等を重点に対前年度比0.5%増の37億8200万円の予算規模となりましたというふうにうたわれております。

安心・安全な災害に強いまちづくりは、多くの分野に関わることであります。このことをまちづくりの中心に据えると、すべての分野が関連してくることになります。島ぐるみで安心・安全な災害に強いまちづくりを進めることは、すなわち、町民が一丸となれる要素があり、また定住人口や交流人口の増にもつながり、強いことは、観光への波及効果も大きいと考えるものであります。このことはお互いが共有するところであろうと思います。

さて、この安心・安全な災害に強いまちづくりに弾みをつけるためには、まとめ役となる人の存在であろうと思います。そこで、専任の担当職員を配置して仕掛けをすることが有効な手段であると考え、今回の質問をしているところであります。

このことについて、町長の本気度を示すことにもなろうかと思いますが、お考えをお伺いします。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） ただいまの御質問にお答えします。

近年の相次ぐ大型台風等の自然災害による脅威は、私たちに安心・安全に暮らせるまちづくりの重要性について改めて痛感させる機会となり、今後優先的に取り組むべき町の課題が浮き彫りになったものと考えております。

すなわち、台風被災からの復旧・復興支援を進めていくことが当面する最重要課題であることから、現在全力を挙げて取り組んでいるところであります。

今後の防災対策の進め方につきましては、昨年3月に策定した「与論町地域防災計画」を基にしながら、より具体的な行動指針の策定や人的拡充も必要と考えているところです。

御提案の安心・安全な災害に強いまちづくりの建設に向けて、着実に取り組んでまいり所存であります。

○議長（大田英勝君） 8番。

○8番（麓 才良君） ただいま町長の御答弁にもありましたように、本町の地域防災

計画に基づきながら、より具体的な行動指針の策定、人的拡充も必要と考えておられるということを申し述べておられますが、私がお伺いをしているのは、そういうことを具体的に進めていくためにどうしても人的な配置が必要であろうと、そういうことで専任の担当職員を配置されてこれを進める第一歩を踏み出すことが必要かと思ってお伺いしているところでありますが、この点についてはいかがですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 今、与論町の地域防災計画、いわゆる各集落の地域防災をまとめている最中で、担当が動いて、まとめているわけではありますが、それが進んでいって、実際に計画を実行に移す、練習とかいろんなことを具体的にやる段階になって必要であれば専任を置く必要があるのではないかと。その段階において検討したいというふうに考えております。

○議長（大田英勝君） 8番。

○8番（麓 才良君） 私の考えは、そういうまとめをするときから専任の担当職員が必要であり、そのことが各集落を回って集落の実情を把握をしながらまとめる司令塔になり得る場所、ポストが必要であります。それがなければ、じゃあいつまでにこの各集落を回って、これをどのような形でまとめるといような具体的な方向性が見えてこないのです。そういうことをきちんとしていくためにも、この人の配置というのは、大きな力になっていくのじゃないかと思います。

また、このことは24年前にも与論町は大きな経験をしているわけです。今23回大会を迎えました与論マラソンがスタートしたときに、与論マラソンの実行委員会の事務局を観光課に置くと、そしてその担当職員を専任で置くということで、当時、臨時の職員の配置をいたしました。臨時の職員であっても専任というそのポストを与えられ、その彼のしっかりした認識の上に立ってこの与論マラソンのスタート時点をまとめあげてきたのであります。このことにより与論マラソンが23回も長いこと続いていることの礎の一つであろうかというふうに思うところであります。そうすると、この安心・安全な災害に強いまちづくりというのは、各分野にリンクし、関連していくだけに、相当な大きな仕事だと思わなければいけないと思います。そういうことに関連すると、やっぱりまとめ役となる方を専任で置くということは大きな第一歩ではなかろうかと思います。そういう考えについてもう一度町長の御見解をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 今私どもがやっていることを申し上げますと、その地域防災のまとめを今やる担当は、薄手でやっているわけではありますが、そればかりやられないので、ほかの兼務という形になっているわけであります。その地域防災が

実際に軌道に乗って、それだけ担当の仕事が出てくればもう自然的にそれを最優先するのは当然で、やっていきたいと思っているわけですが、今その地域防災の担当を決めて、それ以外はさせないということはなかなか今のところは難しいところがあるんじゃないかというふうに考えております。今、主にその地域のまとめを一生懸命させているわけで、40%だったのが9分の7までできていますので、それを最優先でやるようにということで指示をして、させております。そのあとはまた議員が指摘したように、そういうのが必要になるかと思いますので、その段階で考えさせていただきたいというふうに思います。

○議長（大田英勝君） 8番。

○8番（麓 才良君） 今お伺いしていると、その必要であろうということは認識されておられますが、その時期が計画がまとまってから、それを見てというお話ですが、私はその前に計画をまとめるスタートの時点から専任の担当職員を置いてもしかるべき成果があるのではないかと考えるわけです。今ありましたように、現在の職員の皆様方はいろんな仕事を抱えて、それで大変頑張っておられる状況であります。この大きな分野に絡む仕事というのは、専任でとり行ってもそれぞれの分野にまたがってくるわけでありますので、各分野の調整役という形が自ずと出てまいります。そうすると、そこにどういう効果が期待されるかということ、いろんな今集約されにくい分野もそのまとめ役によって集約されてくる可能性が多く考えられるわけであります。そうすると、本町のこれから行政を進めていく上においても、機構改革というのも考えていかなければなりません。災害に強いまちづくりを進めていく上では、どうしてもこの機構改革、行政の中の機構改革、また島全体の民間・公的機関等との連携の関係まで含めた形での島ぐるみでの機構改革というのが取り組まなければいけないという大きな柱になってくるだろうと思います。そうすると、この専任の担当職員を置くということは、それだけの大きな将来に対する第一歩を示すことでもあるかと思えます。ですから、今からそういう形において頑張ってください、またその計画ができたときに各分野のいろんな絡みが出てきますので、そういうときにまたそういう分野の絡みでまた一つのプロジェクトチームあたりができてきて、進んでいくことになろうかと思えます。ぜひ今のうちからその職員を配置してやっていくというお考えで進めていただきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） よくわかりました。この災害については明日くるかわからないわけで、1日でも早く取り組まなければならないということは、非常に認識をしているわけでありますが、担当課とも相談をして、4月には人事があるわけでありますので、それまでに担当課職内で前向きに検討をしていきたいというふうに思いま

す。今議員がおっしゃったことを考慮に入れまして、検討させていただきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 8 番。

○8 番（麓 才良君） 前向きというのは、明日になれば1 歩進んでいるということで解釈してよろしいですね。ぜひ新年度がスタートするわけでありますので、タイミングとしては絶好のいい機会だと思います。また、この担当の専任職員については、必ずしも正職員でなくてもそれなりの識見を持った方であれば臨時の方々でも十分対応できるのではないかと。ただそのときに、その職務に対するしっかりとした形を明確に示すことが重要であろうかと思ひます。そういうことで、ぜひこの新年度、第一歩スタートしていただきたいというふうに思ひます。そうすると、一つのこれはこの前ちょっと聞いた話でおもしろいなと思ひたんですが、例へば、今行なわれているいろんなイベント、行事を防災という観点から一味つけたらどうなるだろうと。例へば、与論マラソンあたりに防災の観点を一つつけてみたらどうなるだろう。それから、各集落の給水場あたりにきちんとした形でボランティアを配置なされております。これもいざ何かあったときの防災の体制にしっかりとその根底に結び付くものであろうかと思ひます。まずそこにボランティアで応援にいろんな方々がお見えになるときに、例へば、その地区の高齢者の方々、うちからなかなか出歩いていただけない方々について、例へば中学生、高校生あたりをどこどこという担当を決めてその方々をきちんとその給水所近くの公園にお誘いをして、またお帰りを一緒にしていただくというような、そういう形の防災の観点から組み立てていけば、大きな訓練をという計画をする前に、今ある行事、イベントにそういう観点も組み入れることができるのではないかと。これは集落の敬老会とかそういうあたりでも同様のことはできると思ひます。いろんな行事の中で、視点を変えて見れば、防災に役立つ形できちんとした組織だった活動をしているなというのがあちこちにありますが、これを防災という観点から見直して、きちんとした形で整理をして、それをお互いが意識・共有していくと防災の安心・安全な防災のまちづくりへの大きな仕掛けになろうかと思ひます。だからそのためには専任の担当職員を置いて、いろんなところからの情報の収集、まとめというのが必要になってくるだろうと考えるわけであります。また、これは福祉関連との大きな絡みも出てくると思ひますので、ぜひそういう面でもまた心がけていただきたいと思ひます。

住宅関係についても、防災の観点から見ても、空き家住宅に対する問題が県や和泊町あたりでもいろいろ対策等進められていると聞いておりますが、本町においても、この空き家対策というのが一つの大きな課題になってくると思ひます。また、民間のほうでは住宅だったところが被災にあつて、それを自分たちではなかなか補

修をして、新しく貸すということもままならないというようなところもあるかと聞いておりますが、そういうところへも何か対応するすべがないのか。そういうものもろもろ検討していけば、この担当職員の仕事というのは非常に大きな形になってくるだろうと思いますので、ぜひ担当職員を置いて、第一歩を踏み出すということを大きく期待をし、再度町長のもう一度はっきりした前向きな、はい、頑張りましょうということをお願いしたいんですが。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 何回も申し上げるようで申し訳ないのですが、やっぱりこの専従職員を増やすということについては、その本人と担当しているもの、あと担当課と相談しないといけない。今後の仕事をうまくやっていくためには、検討させていただきたい。しかし前向きにやりますので、ぜひその点で御了解をいただきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 8 番。

○8 番（麓 才良君） 町長、担当課と相談するのも、しなくちゃならないのはわかりますが、こういう方向でやるということで、町長が指示をしていただければ、担当課はじゃあそれを探ってみましょうということになるんじゃないですか。町長が担当から聞いて、町長がどうのこうのということに、町長がこういうことでいきましょーと、じゃあ頑張ってもらえないかという、そういう流れじゃないですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 実際、今職員が専従職員と同じようなことをやっている。それをやっていなければ確におっしゃるとおりやりますけど、実際にやっていますので、それを専従職員としてそれ以外はさせないということが果たしてできるかという問題もありますし、時間的に余裕があればということの考え方もありますので、その点は検討させていただきたいと思います、最重点的にこのことについてはさせたいということは変わりありませんので、一つその点で御理解をいただきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 8 番。

○8 番（麓 才良君） じゃあ申し上げておきます。先ほども申し上げましたように、専任の担当職員を配置して、いかにも今町長の御答弁を聞くと、その専任の担当職員がごく限られたこの小さな分野しか仕事をしないように私は受けられます。先ほど話の中にありましたように、いろんな分野に関連してくるわけですので、この専任の職員がただ限られた、この小さな仕事をするわけではなくて、大きな絡みをつくっていくわけですので、専任でいてもこちらに閉じこもって仕事をするというイメージじゃなくて、飛び跳ねて大きく動いていくという、また大きなうねりをつく

りあげていく原動力になっていくということですので、ぜひそういう観点から発想を、考え方をお願いいたしたいと思いますが、いかがですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その点はおっしゃるとおりだと思っております。そのようにしたいと思います。

○議長（大田英勝君） 8 番。

○8 番（麓 才良君） それでは、みんなでこの安心・安全な防災に強いまちづくりというのは、一人でできることではなくて、お互いがみんないろんな分野で、いろんな立場でこの認識を共有していかなければなりません、ぜひその仕掛け役となる専任の担当職員が配置をされて、大きな弾みがつくことを期待をして質問を終わります。

以上です。

○議長（大田英勝君） 8 番、麓 才良君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

-----○-----

休憩 午前 11 時 28 分

再開 午後 1 時 29 分

-----○-----

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

午前に引き続き一般質問です。

5 番、喜山康三君に発言を許します。

○5 番（喜山康三君） こんにちは。元気ですか。第 1 回定例議会の一般質問に入りたいと思います。

1 行財政改革について

- (1) 職員アイデア提案制度は新規事業の開拓など、行財政改革の推進に生かされているか。この制度の積極的な活用を図り、直面する懸案や課題の解決に役立てる考えはないか。
- (2) 現在ある様々な組織・団体への負担金や補助金等のあり方について検証し、必要な改革を断行するべきであると痛感されるが、これを見直す考えはないか。
- (3) 平成 26 年度から再任用制度が実施されるが、行財政改革に影響はないか。

2 子育て支援について

- (1) 児童生徒への就学援助及び奨学金の運用状況はどうなっているか。ま

た、将来に向けての方策をどう考えているか。

- (2) 行政による支援に加えて、子供の病気や入院・通院などに対する経営者や職場の理解と強力など、社会こぞっての子育て支援環境の構築についてはどう取り組んでいるか。

3 一般ごみ等の有料化に係る経費削減について

- (1) 一般ごみの有料化を進めるに当たり、町民の負担を軽減するためにどのような努力を払ってきたか。
- (2) ごみの分別等住民が強力できる経費削減のための施策を確立して、その実効性を高める必要があると痛感されるが、一般ごみだけでなく総合的な視点でごみ問題を捉え、経費削減のための改革を行う考えはないか。

以上、質問します。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） ただいまの質問にお答えします。

まず1－(1)についてお答えします。

職員アイデア提案制度につきましては、職員に対して町の施策等に係る意見や研究成果の提出を奨励することにより、執務意欲の喚起及び行政水準の向上等を図る目的で、昭和61年度から導入実施をしているところです。

最近の実績では、平成23年12月に採択された「緑プロジェクト（美しい陸地の形成）」があり、この提案を受けて、現在一般会計歳出予算の総務費の中で「(目) 美ら島づくり費」として、沿道美化事業を実施している事例があります。

この制度の活用につきましては、御提案のように今後とも積極的に啓発を図り、大いに奨励を進めてまいりたいと存じます。

次に、1－(2)についてお答えします。

負担金や補助金等の予算化につきましては、各所管課等及び財政担当課で毎年度の実績や事業効果等を個別に検証し、判断を行った上で必要額の計上を行っているところです。

これらの事業につきましては、現在それぞれ必要最小限の内容と額で計上されており、大きな削減につきましては、大変厳しい状況にあるものと認識しております。しかしながら、自主財源等が乏しい財政状況の今後の推移によっては、更に厳しい見直しを行わざるを得ない事態も懸念されるところであり、御指摘のことにつきましては、しっかりと留意しながら一層の適正化に努めてまいります。

次に1－(3)についてお答えします。

再任用制度につきましては、国の要請を受けて、関係条例や要綱等を制定し、適正な運用を行うこととしております。

行財政改革を進めていく上での御懸念につきましては、本町の再任用職員の給与条件は他市町村と比較して低く抑えていること、また、毎年度の新規採用職員の人数バランスにも配慮しながらの制度運用を行っていくこととしており、大きな影響が及ばないよう調整を図ってまいり所存であります。

次に、２－(1)についてお答えします。

就学援助は、準要保護児童生徒に扶助費として学用品費・給食費・医療費があります。修学旅行については全額扶助費で対応しております。保護者の負担を軽減するために、奄美中総体・県中総体等への出場補助として実費の７割を補助してまいります。また、小学校におけるスポーツ少年団にも同様な補助を実施しております。

さらには、児童生徒全員に学校給食主食（米）とミルク費の扶助やハレルヤ幼稚園運営費についても補助を行っております。

町育英奨学金につきましては、昨年度より多額の予算計上をしておりますが、台風被害や経済状況から新規の申し込みが増加傾向にあります。できるだけ恩恵が平等に受けられるよう補正予算で増額を検討したいと考えております。

次に、２－(2)についてお答えします。

本町における子育て支援については、次世代育成支援対策行動後期計画に基づき地域における子育て支援サービス、保育サービス、子育てに係る費用への支援を行っているところであります。

御指摘の子どもの病気や入院・通院等に対する経営者や職場の理解など、社会全体での子育て支援環境の構築への取り組みについてであります。育児と仕事の両立を阻む問題の一つに子供の病気があるのが現状です。特に子供の病気や入院は、育児の偏りがちな女性の就労に大きな壁となっており、こうした問題を背景として病児・病後児保育事業が実施されておりますが、病児・病後児施設が経営赤字や低稼働率の問題から事業の実施率の低調要因となっております。

新年度からハレルヤこども園で病児・病後児保育事業のうち体調不良児対応型事業を実施し、保護者への支援を行います。社会全体での子育て環境の整備につきましては十分とは言えず、特に病児・病後児の看護休暇の取得に対し地域においては、事業所を含めた社会全体で支える認識に欠けておりますので、次世代育成支援対策行動後期計画に代わり策定する子ども・子育て支援計画に職業生活と家庭生活との両立の推進等を盛り込み、仕事と生活の両立しやすい職場環境整備のため、地域の事業所等への御理解を図ってまいります。

次に、３－(1)についてお答えします。

一般ごみ有料化につきましては、本町においては、一般家庭排出焼却ごみの排出

抑制、最終処分場・焼却施設の延命化、廃棄物処理費用の財源確保等の観点から「与論町一般廃棄物処理有料化検討委員会」を設置し、一般家庭排出焼却ごみの有料化を検討しているところであります。

御質問の「町民の負担を軽減するためどのような努力を払ってきたか」ですが、これまで一般家庭排出焼却ごみはもちろん、リサイクル分別をお願いしているペットボトル、空き瓶類、空き缶類、家屋の災害廃棄物は無料で引き受けてまいりました。

担当部署においても、施設の老朽化に伴い修繕費に係る経費が多額になっているため、日常点検及び定期点検等を行い、故障箇所の早期発見に努め、修繕費を必要最小限に抑える努力をしているところであります。

今後、一層の町民負担の軽減を図るためにも、町民の理解を得ながら、一般家庭排出焼却ごみの排出抑制・施設修繕費の抑制に努めてまいります。

最後に、３－(2)についてお答えします。

現在焼却されているごみを町民の協力を得て分別しリサイクル品目を増やすことで、焼却ごみの減少・焼却施設の負担軽減・最終処分場の延命化につながり、ひいては町民排出焼却ごみの減少によりごみ袋購入時の町民負担軽減につながると思われます。

現在、清掃センターにおいては焼却施設の負担軽減とリサイクル推進・リサイクル意識の啓発を兼ねて段ボールのリサイクルを事業者対象に実施していますが、離島であるため輸送コストが必要となり、結果的に有料による委託処理となっています。このことは、分別リサイクルされていない他の品目についても同様なことが想定されます。ただし、生ごみ等については分別することで、堆肥化することが可能でありますので、早急な対応が必要であると思います。

今後、町民の協力を得て、分別できる品目については、リサイクルする際の課題等を検討しながら、町民及び町財政の負担軽減を図るためにも、一般ごみの分別や減量化によるリフューズ（拒否）・リデュース（減らす）・リユース（再利用）・リサイクル（再生利用）を推進し循環型社会の構築に努めてまいります。

○議長（大田英勝君） ５番。

○５番（喜山康三君） 長い間の答弁ありがとうございます。行財政改革と一口でいいますが、これは私町長の経営手腕を問うている意味でありますけれど、要するに、省庁が行財政改革とは、すなわち経費削減とか、究極的にはそういう意味で捉えているわけですが、前回の議会でも、以前の議会でも言いましたけれど、やっぱり行財政改革のネタというか、もともになるものというのは、私は現場に転がっているんだと。課長とか町長、副町長の皆さんがどれだけ現場に足を運んでいるかなと

いうことについて、少し疑問に思うところがありまして、職員アイデア提案制度といいましても、アイデアには答弁にある一つの事業だけではなくて、経費削減や労力の省力化の方法、様々な形での提案があってしかるべきだと思いますが、今までどのような形のアイデア提案があって、何件あったのか。それについてお聞きしたいんだけど。

○議長（大田英勝君） 総務企画課長。

○総務企画課長（沖野一雄君） お答え申し上げます。

職員アイデア提案制度は、先ほど町長が申し上げたとおりです。どれだけの実績がこれまであったのかという御質問ですが、残念ながら私が記録しているところでは皆様に御紹介できる事例は、先ほど町長が申し上げました緑プロジェクト（美しい陸地の形成）のみです。

以上です。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） 新規事業のアイデアとか、イベントのこととかアイデアという一つの言葉でくくってますけれど、私は行政財政改革については職員アイデア提案制度をどう捉えて、行政のほうでは取り組んでいくのかということを知りたいわけなんですよね。だから町長になられてから職員からどのようなアイデアが提案として届いたことがあるか。それだけでも聞かせていただければと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） お答えする前に、先ほど議員は行政改革は経費のみの考え方であると言われたのですが、私としては、決してそうじゃなくて効率を言っているわけで、経費ばかりを削減するからといって効率が上がらなければ、削減したことにはならないので、効率が上がれば経費も増えていっても構わないんじゃないかという面も考えて、行政改革の捉え方をしておりますので、その点は申し上げておきたいと思います。

今議員が御質問されたことについては、経費面での削減についての提言は受けたことがありません。会合は何回かやっているとは聞いておりますけれども。その中で実際に成功はしなかったんですけれども、例えば、タラソセラピーの問題で、九電の温水化の利用ということでは、産業省までついで行ったことがあります。それについては九電の九州本社からわざわざお出でいただいていたのに断りを受けまして、成功しなかったんですけれども、アイデアとしてはいろいろいただいております。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） 町長、効率が上がれば経費は上がってもよいという考え方は、

確かにそれは理屈としてはわかりますけれど、私の見方ではこれを言われたら、それこそ放漫経営じゃないですか。効率が上がれば経費が幾ら上がってもよいとすれば、物事には経費というものが、一つのものがあって、その経費の中で最大限の効果を発揮しようということで予算をつけるわけだから、そして、なお、かつ、その経費をもっと削減できないかと、そういう意味でいっているのであって、効率を上げれば経費が上がってもいいという、そんな無茶苦茶な答弁をされると、私も質問のしょうがなくなります、これは。

それから、アイデアといっても思いつきでぼんぼん出てきたものがアイデアじゃないはずですよ。アイデアというものは、一定の形でどういう具合にしてこれを具現化するためにはどういう問題があって、どういうハードルがあるかということも一定の形で全部クリアしてきて、もってくるのがアイデアであって、何をしましうか、何をしましうかというのは、これはアイデアでもなんでもないです。職員アイデア提案制度というのは、例えば、町道のつくり方についても、下に昔から大きな岩があるのに、その岩を削岩機で割って、そこに砂利を引いてまた舗装していますよね。ローラーで点圧して。全くやらなくてもいい仕事じゃないですか、無駄な経費じゃないですかと言われるのですよ。例えば、それと同じように、公共工事の場合でも、これは本当に必要な仕事か、この経費はもっとこの分はあと1メートル、2メートル舗装を長くできないかとか出てきますよね。前の長野県知事が県道つくるときの長野スタンダードというものをつくられたように、町道をつくるにしても、体育館をつくるにしても、いろんなものをやるときにその地域の事情、あるいはその様々なよい点、デメリット・メリットがありますから、その辺を鑑みながらどういう形で経費削減して町民への奉仕をしようかということを考えるべきであって、そういう意味で、私は職員がアイデアをもっと出すべきじゃないかと。だから、逆にこれについて町長の施政がですよ、やはり町長にあると思うわけ、それを出しやすい雰囲気をつくってあげているのか。出しやすい環境をつくってあげているのか。そして、一定の形で、あらこれはすごいと、そういう職員には賞与をあげるとか、奨励賞をあげるとか、やっぱり頑張った職員にはそれだけのものを作ってあげるというのがあれば、職員だって私は出てくるんじゃないか。これをすれば次の事業予算に迷惑がかかるからやるなとか、人のテリトリーを犯すからだめだとか、他の課のことになるからだめだとかという、縄張り意識を捨てて、直接町長に提案してですよ、職員の立場も守りながら、そういう環境をつくって、ぜひこれをやっていただけないか。いかがですか、町長。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 今議員がおっしゃったその例えばの話ですけれども、決算書を

ごらんになればわかりますが、道路の岩盤とか、いろんな面については、規則内でいろんな検討をやりまして、その同じ費用で延長したりそういうことは各課で、その担当課で検討して自由にやっているわけです。ただ総体的に、発想を直接町長にということは、個々では何回かこういったことはありますけれど、全体的に言ったことはありません。やっぱり発想を、その考え方をもらって実際に行政に生かすというのは非常に必要だと思いますので、今後またやっていきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） ぜひ個々の問題になるといろんなしがらみとか、絡みとかが出てくるとは思いますけれど、一つのアイデアだな、これはいいことだ、これは素晴らしいことだからこれは何とかしたいなというのだけでもいいから、職員からでも、議員からでも提案があったら、これについてじゃあこれを具現化するために条例はどう変えようか、じゃあ予算のつけ方はどうしようか、入札の仕方はどうしようとか、いろんな大きな意味での一つの小さなアイデアがいろんな意味での制度変更とか、条例改正とかに関わる問題もあると思うんですよ。だからそこを町長が自ら率先して旗振り役をすれば、もっといい意味での行財政改革もできるんじゃないか。そういう意味でお尋ねしているわけです。

2 番に移りたいと思いますけれど、組織団体といいますけれど、委託したりとか、様々やっているわけですが、例えば3 番にも絡みがありますが、職員のこのリストを見たら、一般職員が105 名、臨時職員が126 名、もちろんこれには介護保険事務局の職員も入っていない、広域の職員、県への派遣職員も入っていないわけですね、この人数には。副町長、間違いないですね。

それとスポーツクラブとか、外郭団体みたいなのに今度委託とかしたときの、その指定管理者の側で人が雇用されてたときは、その人の扱いはどうなるか。その辺の、その公共サービスのお金全体の予算の中で、一定の歯止めをかけた形でやらないと、際限なく何が必要だ、何をやりたいといって、それではいけないと思うんですよ。この辺についての財政モラルといったらちょっと違うかもしれませんが、それについては町長はどういう考えですか。お聞かせいただければ。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 全体的には私どもが合併しなくても単独でやっていけるという行政改革の、それに添った形で今人員等はやっているわけでありまして。ただ町職員の年齢層を見ても、非常に何といいますか、逆三角形型で近い将来大変な、業務執行に当たって弊害が起きる可能性があるんじゃないかと思われるぐらいに変形した形になっておりますので、その是正を行いながら人員配置を考えていますので、この4、5 年はある程度計画から外れる可能性があるのはやむを得ないんじゃない

ないかと思っておりますけれども、根本的には、前の合併するか、しないかを判断するための、単独でやっていくための行財政改革に添った形でやっていくということとであります。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） 町長ですよ、再任用制によって、その人数は正規職員の定数の中に算出されるとお聞きしているわけで、今おっしゃったことを聞くと、逆に新しい職員の採用が抑えられる形にもなり兼ねないと。もちろん再任用制度が悪い、善し悪しのことは言っていないので、そこは誤解のないように。今町長が述べられた、今の年齢層は逆三角形で変形していると。それを4、5年をかけて是正する計画であると。計画は外れるというんですけれど、こういうことを町長が答弁したら一体計画とは何なのかと言いたくなるわけですよ。計画に添って人事配置も事業も全てやっていこうと計画を立てているのに、計画は外れる可能性があるという答弁をされると、何のために計画を立てるのか。

それから、サッカー場の件なんですけれど、この前も言いましたけれど、結局第5次振興計画にもないような巨額な事業が突然に補正予算の中に出てきたりとか、こういう投資の仕方、あり方自体が行財政改革からは外れているんじゃないですか。町長。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 社会の変化がなければ、条件の変化がなければおっしゃるとおりで、計画を立てたとおりそういう条件であればそうですけれども、例えば、今度の退職者の再雇用の件でも、突然出てきた問題であって、条件が変わればある程度の変化はやむを得ないんじゃないかと、基本的な計画を全うするというのはこれは当然のことではありますが、それに添った形での多少の変化を申し上げているわけで、その計画を全部ひっくり返して変えるということを申し上げているわけじゃないわけです。その点は御理解いただきたいと思います。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） どうも食い違った感じがしますので、一応再任用のこととか、行財政については、特に人の声を、それと事業の選択、その辺についてもきちっと行財政改革の視点を置いた形でぜひ進めていただきたい。また、職員のほうに個々に聞くと、個別に聞くと、結構いろんなこうしたほうがいいんじゃないかみたいな話があるんですよ。これが何でその実施団体とか、そのいろんなものに入るときにほとんど組み入れられていないというか、職員もそれぞれ思いがあるけれど、いろんな形があって、それは難しい状態で、事情があると思うんですよ。だからその辺をオープンにして、本当にそういうアイデアが、アイデアとか提言みたいなもの

が出しやすいような一つの雰囲気町長がぜひつくって、事業所を例えば清掃センターでも、リサイクルセンターでも、町長が私服で土曜、日曜でも回ってみてください。また、朝早く行ってみてください。時間に関係なく。やっぱりそうすることが職員にとってどれだけ励みになるかということなんですよ。それは教育長も同じです。ぜひそれが事故とか、いろんなもののトラブル防止の意味でもかなり私は大事だと思うんですよ。ぜひトップとして行っていただきたいと、お願いしておきます。

次に、子育て支援について伺いたいんですが、この前のテレビで安倍政権は20万人の移民受入政策を発表しているということで、はっきり言って本当にびっくりするような政策を出してくるんだなと、私は思ったんですが、町長、この移民政策については、町長はどうお考えですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 大変勉強不足で申し訳ないですが、その安倍総理の移民政策というのはちょっと私は理解していない。

○議長（大田英勝君） 5番。

○5番（喜山康三君） 長い間政権を担った自由民主党がですよ、10年、20年、30年後の次世代を担う子どもたちに対する政策をなおざりにした結果が今日の結果を私は招いているんじゃないかと、その穴埋めに移民の20万人受け入れをやるということ自体が本末転倒というんですか、本当に驚きで聞いていたんですが、国の政策がどうあれ、与論町だけでも与論町ならではの子育て支援、それをつくってもいいんじゃないかと、私はそう思うわけですよ。国がするから、県がそういうからそうせざるを得ない、そうしましうじゃなくて、そこに南町長らしさを私は出せるんじゃないかと、そう思ってこれを質問するわけですが、教育長、今の子どもたちを取り囲む就学援助とか、いろいろあると思いますが、今の状況は小学校で何十%、中学校で何十%が支援を受けていますか。

○議長（大田英勝君） 5番。

○5番（喜山康三君） 時間がかかるようですので、一昨年話では、鹿児島県のほうで30%近くぐらいになっているところも結構あるみたいで、鹿児島市内ですよ。相当子どもたちを学校に通わせるだけでも親御さんの負担が大きな状況になっていると、与論も恐らく似たような状況じゃないかと思ってお聞きしているわけですが、町長、今後子育て支援については町長もいろいろ条例をつくっていただいているわけですが、今後これをどういう形にしていきたいのか。今のままでいいのか。また、どの部分でどういうことをやっていきたいとかという町長ならではの考えがあればお聞かせください。

がお考えであればお聞かせください。

○議長（大田英勝君） 教育長。

○教育長（町岡光弘君） 今、何が必要かと、この就学援助のほうじゃなくてもよろしいでしょうか。（「はい、いいですよ」と呼ぶ者あり）はい、一つの学力向上施策の方向で、土曜日の子どもたちへの特色ある活動、このことについての予算化をしておりますが、夢づくり育成事業というほうで考えております。

1点は、ここに島の地域の人材、教職員を問わず、子どもたちが各校区において学べる環境を置いて、伸びる子には伸びるように、もう少しという子どもにはそういう子どもに手厚く学びの場を提供するところに施策の一つを。

もう一つは、方針の中で、今見直している中で、国語と英語を中心に学力の向上を図りたいと考えている施策を出しております。この理由にはまた諸々ありますが、表現力とか、創造力、新しい時代に応じた発信する力などを育てるためのものでありますが、そういったものへの検定試験や施策に対する教職員の取り組みに必要なものを出せるようなことを考えております。

以上です。

○議長（大田英勝君） 5番。

○5番（喜山康三君） ありがとうございます。今度は乳幼児というんですか、保育園、こども園のことでちょっとお聞きしたいのですが、これは3月6日の私は東京新聞を取っているので、その中の記事なんです。保育事故に対してのヒヤリ事故を共有するというところで出ているんですが、保育園、こども園の園長先生、いわゆるヒヤリとした事故とか、そういうのが今まで起きてないはずはないと思うんですが、こういう事柄に対して、その日記につけたりとか、そういう事例とかについてはそちらの業務日誌とかそういうものに記録されているのはありますか。記録はしていますか。

○議長（大田英勝君） こども園長。

○茶花こども園長（酒勺徳雄君） ヒヤリとしたとか、そういう危険な状態があったときの記録といいますのは、業務日誌というのがございまして、各月々の担当が記録しております。

○議長（大田英勝君） 5番。

○5番（喜山康三君） 当然、記録されているだろうと思いますけれど、これを記録しただけに終わるのではなくて、保育園の園長さんをはじめ職員みんなで事故になりそうなことだとか、交通事故もですね。こうしたら交通事故が起こりそうだったとか、そういう体験みたいなものというんですか、それと同じように、こういうものを体系化して、冊子にして置くことによって、子どもたちの事故を防ぐために

有効に活用できるんじゃないか。これはある意味でさっきの行財政改革にも通じますよね。事故を起こして欲しくないわけです。事故を起こすと与論町が訴えられたり、補償したり、様々なリスクを負うわけですので、そのリスクヘッジをする意味でも、子どもたちの健康や事故がないよう事故防止についても、ぜひ最新の注意を払っていただきますようお願いします。

それから、町長にお聞きしたいのは、子育て支援についてなんですが、具体的には今何も考えてないというか、ないように受けたんですが、今子供たちを持つ親がするのを時々聞いたり、いろいろ見たりすると、子供たちの医療・治療で沖縄に結構子供を連れていく保護者がいるんですよね。これも耳鼻咽喉科とか、なかなか与論にないというんですか。それとずっと定期的に通わなくちゃいけないとか。そういう治療もあって、交通費も大変だと、子どもが1人、2人、3人いたら大変だと。だからそのお母さん方のそういう病気治療とかにおける沖縄へ旅行する旅費とか経費の件。この前離島出産支援条例をつくってもらったときに、赤ちゃんのときもありますけれど、その後も子供を連れていくお母さんがいらっしゃるわけです。それも3カ月、4カ月間実家に帰りたいと。子供は実家のほうでもなかなか預けられないと、向こうの現地の自分のふるさとの保育園のほうにその間預けたいと。町長、広域保育って御存じですか。初めて聞かれますか。（「預る託児所」と呼ぶ者）広域保育の用語は御存じですか。御存じないですよ。本籍はこっちに住所はあるんだけど、さしあたって自分の子供を向こうに連れて行って、ほかのところで保育させることを広域保育ということらしいんですよ。それも小学校にも広域小学校というのがあると思うんですよ。お父さんが、お母さんも例えば東京にいながら子供たちだけこの茶花の小学校に行かせようと。そのときに、広域保育をするときに、向こうの自治体と与論とで契約みたいなものがないとできないわけですので、向こうの保育料がありますよね、算定基準があって。その差額分を与論町が払うと、向こうが安いのかわかりませんが。そういう意味で、広域保育のほうもぜひ必要じゃないかと。まず広域保育のことと、治療において沖縄へ渡航、特に沖縄ですよ、沖縄へ渡航するときの船運賃とかについて、もっと対策を講じていただけないか。まだあと1点ありますけれど、とりあえずこの2点について、町長いかがでしょうか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） まず、船運賃について申し上げたいと思いますが、例えば出産とかというはしっかり理解できる場合は、行政でやるということが考えられるわけですが、そのほかの件については、病院からの証明書とかいろいろやればできないことはないとは思いますが、今のところは非常に相当な検討が必要じゃ

ないかと考えます。それはまた検討してみたいと思います。

それから広域保育は、先ほどおっしゃったことは逆で、足りない分を住所があるところから取るんじゃないですか。確か私はそのように現解したんですけど。

○議長（大田英勝君） 5番。

○5番（喜山康三君） 与論の保護者で例えば大阪に行って出産するため半年ぐらい実家に行くと、そのときに子供がもう1人いると。その子供を大阪の保育所に預けたいと。そのときに与論の保育所の金額でそのままさせてあげられないかと。もちろん向こうの保育所が空いているか・空いてないかは別として、その辺は年間に何十件もあるわけじゃないと思うんですよ。御検討いただけないか。一応もうそれでいいです。

それでもう一つ、町長、子育てでもう一つお願いしたいのは、病児保育・病後児保育の件にもなると思いますが、先生方も一番おわかりですが、病気になったときぐらいは、お父さんか、お母さんのどちらかは子供の側にいてほしいんじゃないのか。普通に健康でずっと育つ子もいるけれど、たまに病気したときぐらいはできる限り子供たちと一緒にいてあげることとっても大事な保育じゃないかと、私は思うわけですよ。ある意味では、病児・病後児のときにはそういう施設ができてありがたいですけど、そのときは、職場でそのための休日を与えることができる方法はないとか。

それと町長、もう1件。ちょっと子どもに薬を飲ませたり、1、2時間だけちょっと職場を抜けて、子供の面倒を見てからまた来たいというようなこともたまにあるみたいです。だから、私の提案なんですけど、この事業名をどういう事業名にしようかと思ってちょっと私も悩んだんですが、子育て中抜け応援制度、ちょっと職場の中から中抜けしてですよ、1時間か2時間さぼったという形で、中抜けして、子どもにちょっと薬を飲ませたり、いろんな形で病院に行ったりとか、そういう子育て中抜け応援制度みたいなのをつくって、そのときには、雇用保険とかそういう保険に入っている会社に対しては、子どもを持つ親を雇用する場合には、その会社に一定の支援をしましょうと。そのお母さんにじゃないけれど、会社とかに一定の形で支援して、保護者は、お母さんなりは、それで1、2時間は中抜けできる。堂々と中抜けできるという制度をつくったら。私はネットで調べたけれど、こういう制度はないんですよ、日本全国に。ぜひ町長、この辺はいかがでしょうか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 現状では年休というのがありまして、年休を利用して、どうしても必要なときには休んでもらっているという状況です。中抜けのほうも時間を何時から何時までということでは休んで上司の了解を得てやっております。ある程度の

対応はできているんですけど、それが例えば、長期間といいますか、そういうふうになればどうなるかというのは、それははっきり休みという形になっているんじゃないかと思いますけれども、ただそういう時間的な短時間の問題については、年休を利用した形で十分に対応できているんじゃないかと、役場の場合そのように考えます。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） 短時間役場を休める制度があるんですか。総務課長。

○議長（大田英勝君） 総務企画課長。

○総務企画課長（沖野一雄君） お答え申し上げます。

今町長が年休、要するに有給休暇があります。その中でやっておりますというお答えを申し上げましたけれど、子育て世代につきましては、実際には例えば授乳が必要な時間であるとか、あるいは子育てのためにちょっと家に帰らなくちゃいけないとかという、それは男女を問わずそういう今は権利がしっかりと制度化されておまして、一時的に子育てに必要な時間というのは、また制度の中で有給休暇とは別に、年休とは別に取れるようになっております。

以上です。（「それは制度にはなっていますか」と呼ぶ者あり）ちょっと細かいところは、ちょっと今私は資料を持ってなくてお答えできないんですけど、一応制度化はされておりますので、これは日本全国大きな会社であるとか、あるいは地方自治体まではほとんどできております。

以上です。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） いや私がすみません、勉強不足だったと思いますが、役場職員だけでなく、与論の事業者にそれがじゃあその制度が徹底して付与されているかどうか。

また、それがどのぐらい利用されているのか。それについて、町民生活課長、どうですかね、これについて町内の事業所とか、役場の中でどこの課で年間何時間、何回利用されているかという資料は当然ないでしょうから、ぜひ調べていただきたいんですけど、いかがですか、町長。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 私もその点は把握してないんですけども、与論の場合の会社というのはほとんどが日給月給で、役場ほど恩恵は受けていないんじゃないかと考えます。ほとんどの会社が日給月給で、普通の月給でやっているところは少ないんじゃないかと考えます。まだちょっと調べたことがなくてよくわかりませんけれど。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） 町長にお願いしたいのは、与論の事業者の実態とか、都合とか、いろいろ経営状況とか様々なものがあることは私も十分承知しています。ただその中で、子育てのためにこういうことを制度化するなり、あるいは行政側として事業者に負担をかけちゃいかんから、例えば月に、例えば2回1時間2回休んだことに対して、例えばじゃあ行政のほうからその業者が応援してくれたという形でやるとか、そういうことをすれば働く人も経営者とか、周りにそんなに気を使わないで、ある程度気楽に子育てもできるんじゃないかと。そういう精神的環境をつくるのが一番大事じゃないかなと思いながら、ぜひ教育保育のことを、また沖縄での医療の治療のことにに関して、それから今の中抜けのこととか子育てを取り巻くお母さん方の様々な悩みや難儀がありますので、その辺を一つ一つ汲み取って、ぜひ町長の、与論町ならではの子育て施策を作り上げてもいいんじゃないかと思っておりますので、町長、ぜひお願いしたいんですけど、一言。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） おっしゃるとおり、それができれば非常にいいと思います。ただ私ども行政から強制はできませんので、そういう点の啓発はできるんじゃないかと思っております。その点は、検討させていただきたいと思っております。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） あまり時間がないので次に移りたいと思いますが、以前、ごみ袋の件で町長に質問したことがあります、この町指定のごみ袋は何のためですかということで質問したんですけれど、町長はそれについてどうお答えたか、覚えておられるかわかりませんが、またもう1回お聞きしますけれど、町のごみ袋を指定した理由等についてお聞かせください。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） ごみ袋を指定したという理由なんですけれども、これは一括してやったほうが安くできるんじゃないかということが一つと、また収集の際の分別等について色分けするということで、統一することによって効率化できるという点でこうしたということだと思います。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） 一括というのはどういう意味かわかりませんが、一括することによって安くするというのはメーカーさんの論理なのか、販売店さんの論理なのか。それから、分別されているとおっしゃいますけれど、この袋を使ったことによって分別されたということはどういうことでわかるんですか。以前より分別されたということですね、その袋を、町のごみ袋を導入したことで。だから何を根拠に

分別がなされているかということですよ、前よりも。何かデータとはありますか。

○議長（大田英勝君） 環境課長。

○環境課長（福地範正君） ごみ袋の色の違いによる分別であります。ごみ袋にしましては、町内で流通してから大分年数が経っております。その当時は、清掃センターにおいて焼却できないごみが混ざっているということもありまして、燃えるごみと燃えないごみを分ける必要性があった関係で、透明袋と燃えないごみを入れるちょっと強度の強い赤い袋に分けたものと思っております。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） 町長、町内でごみ袋が何種類流通しているか御存じですか。町内で町指定のごみ袋が何種類流通しているか御存じですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 燃えるごみと燃えないごみの2つ。

○議長（大田英勝君） 5 番。

○5 番（喜山康三君） ごみ袋は赤いのが2種類、白いのが2種類ですけれど、当初は透明なビニール袋が出ていたわけですが、その後に塩化カリが入ったこういうのも出回っているんです。私はこれについても以前質問しましたが、一体何のためのごみ袋指定なんだと。町民に余計な負担をかけているだけじゃないですかということで、私は反対したんですけど、ごみ袋を指定して、リサイクルセンターが料金を上げたために、箱に燃えないものとかを入れて清掃センターに放り込む者が増えている傾向にあるんじゃないかということがあるわけですよ。おわかりですか。要するに、清掃センターに、お客さんが持ち込むごみの中に、そういうものを入れ込んできて、以前よりもそれが増えているんじゃないかと、実態は。それで簡単に申し上げますけれど、ごみ袋の指定は町民に金銭的な負担を負わせることはあっても、清掃センターとかごみ行政にどれだけ貢献したかということは非常に疑問に思っていると。時間もあまりないので、（「残り2分です」と呼ぶ者あり）清掃センターの中でごみを燃やすときの分別のあり方についても問題があります。濡れたものを持ってきたときの重油の燃料代がとんでもない数字になることは想像がつくと思うんですね。だから、生ごみとか、あるいは燃料、燃費のことも考えた収集方法というのを考え直さなくちゃいけないんじゃないかと。御存じだと思いますけれど、ペットボトルを収集して、これを燃料として使っている清掃場がいっぱいあるんですね、御存じのとおり。このペットボトルや段ボールを、重油やボイラーの燃料の代わりに、熱源として使っているわけですよ。清掃センターとか、ごみ処理なんかを考えると、エネルギー効率とか、燃料に使えるものは燃料に使う。濡れたものの収集はできるだけ控えるか、あるいは雨に濡れないような方法とか、

根底から考え直さないと、いくら金があってもなくなっていくと思うんですよ。御承知だと思いますけれど、ダイオキシンが指定されてから燃費が1桁違ってきましたよね。当時何千万円かだったのがもうとんでもない金額になってきた。何百万円のものが何千万円にもなっていますよね。ダイオキシンの2次焼却をするために。だからその辺も考慮に入れて、温度管理だとか、カロリー、エネルギー問題のことを考えて、ペットボトルをリサイクルすることは町の財政にとって必ずしもいいことなのか。あれは60%近くは中国に輸出されているらしいですね。だから町が一生懸命お金をかけて集めたものが、そっくりそのまま中国に輸出されちゃって、何にもならないと。その辺もあると思うので、ごみの収集、あるいは焼却のあり方、炉のつくり方、配置の仕方は、もうちょっと深く検討する必要があると思いますけれど、町長いかがですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 全くおっしゃるとおりで、生ごみについては、先般宮崎の小林に行ってきたんですが、何とか堆肥化できんかということを今検討を始めたところですよ。

それから、燃料の問題については、私どもの場合は、業者の段ボールは一括して分別していますが、一般の方々の段ボールはまとめて一緒に処理していますので、今のところはそれが燃料となって、別に油を使わなくてもできる状況にあるわけですよ。ペットボトルについては、今後検討させていただきたいと思っています。

○議長（大田英勝君） 時間です。はい、5番。

○5番（喜山康三君） はい、終わります。どうもありがとうございます。

○議長（大田英勝君） 5番、喜山康三君の一般質問を終わります。

次は、9番、福地元一郎君に発言を許します。

○9番（福地元一郎君） 平成26年第1回定例会に当たり、先に通告した件について質問します。

1 安心・安全なまちづくりについて

(1) 役場庁舎の耐震診断報告書によると、庁舎のコンクリートコア強度が2階は 6.9N/mm^2 （ニュートンパー平方ミリメートル）と極めて低く、直ちに立入禁止措置は必要ないものの、震度6程度の地震では倒壊の危険性があるなど、早急な改築が適切であるとの診断が下されたが、町長は新庁舎の建築をどのように進めていく考えであるか。

(2) 台風時に長時間停電すると、ひかり電話が使用できず緊急連絡手段が絶たれてしまうとの町民の訴えがある。また、加入電話を有さず、かつ、携帯電話も所持していないひかり電話加入世帯のリスト化と停電時の当該世

帯に対する救援体制を構築するようにとの陳情がある。そこで、①加入電話を有さず、かつ、携帯電話も所持していないひかり電話加入世帯のリスト化は行われているか。②当該世帯に対する救援体制は構築されているのか。

- (3) 台風や地震等で防災行政無線システムがダウンした場合に備えて、別の緊急時の通報システムを構築する必要があると痛感されるが、対策をどう考えているか。

2 観光振興対策について

- (1) 施政方針の中で、観光産業を振興するための誘客対策として、高速インターネットを活用するとともに、ホームページ等の内容を一層充実してPR活動の推進を図るとあるが、具体的にはどのような対策を講じていく考えであるか。
- (2) 平成23年9月議会で、ホームページをリニューアルして観光情報がトップにくるようにしたらどうかと提案したところ、町長からは「即そうしたいと思います」との答弁があったが、2年半が経過しても更新されていないのは、どのような理由からか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） ただいまの御質問にお答えします。

まず1－(1)についてお答えします。

建設から47年が経過している庁舎は、現在老朽化が進み耐震性等に大きな課題を抱えている現状にあります。

このため、昨年5月に、副町長をトップとした各課長等で構成する「庁舎建設検討会」を立ち上げ、これまで3回の会合を重ねてまいりました。

また、この検討会の開催と並行して、専門業者に耐震診断を委託し、先月その診断結果が届いたところであります。

それによりますと、1階及び2階部分のコンクリートコアの強度は耐震診断基準よりかなり低い数値となり、御指摘のように「直ちに立入禁止等の措置は必要ないが、震度6程度の地震に対しては倒壊の危険性があり、早急な改築が適切である」との結果が出ております。

庁舎改築に係る今後の進め方につきましては、新年度の早い時期に、町民代表メンバー等で構成する外部検討会を開催し、その中で全町民の意見の集約方法や建設場所、規模、時期など、必要な事柄について協議を重ねながら実施をしていく所存であります。

この新庁舎の建設に際しましては、歴史的な一大プロジェクトであり、今後の取

り組みを加速しながらしっかりと進めてまいる所存でありますので、御理解を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

次に、１－(2)についてお答えします。

まず、加入電話も携帯電話も所持していない町民のリスト化について申し上げます。

リスト化の方法としては、まず電話及び通信事業会社に依頼して加入者リストを提出してもらうことが考えられますが、各事業会社の規程や個人情報保護により、名簿の入手は困難であります。

ほかには、全町民（世帯）に対するアンケート調査の方法もありますが、回答率及び回収率の問題やリストの更新も随時必要となることなどから、やはり課題がございます。

なお、独居高齢者など、いわゆる「災害弱者」に対する救援体制につきましては、既にリスト化を行い、要援護者に係る縁故者や民生委員、消防団員等が連携して非常時の情報伝達や救援活動等を行う体制を整えており、真に救援が必要な方々のほとんどはこのリストに載っているものと考えております。

次に、１－(3)についてお答えします。

防災行政無線システムがダウンした場合の情報の収集・伝達手段としては、携帯電話による「緊急速報：エリアメール」の活用が現時点では最も有効であろうかと考えております。

すなわち、気象庁が配信する緊急地震速報や津波警報はもとより、地方自治体（役場）が配信する「災害・避難情報」などを携帯電話を通して町民等に情報提供を行うことが可能となるシステムであります。

このシステム導入につきましては、受益者及び自治体ともに費用がほとんど発生しないことから、早急に導入する方向で準備を進めてまいる所存です。

次に、２－(1)についてお答えします。

具体的な例といたしましては、町のホームページにヨロンマラソンに関する情報を掲載したり、ブログやSNSのフェイスブックを活用した観光情報に関するPR活動を行っております。

今後とも、誘客対策につながるこれらの活動に積極的に取り組んでまいる所存です。

最後に、２－(2)についてお答えします。

当時の御提案に対する対応及び事務処理の経緯等に係る説明を申し上げる機会を持たなかったことに対しまして、まずは深くお詫びを申し上げます。

御提案につきましては、その後関係課などで検討を重ねましたが、観光情報より

もまずは町民への情報をトップに載せることが望ましいということで、結果として実施に至りませんでした。

現在、本町の観光情報につきましては、与論町公式ホームページのトップに、ヨロン島観光協会のホームページ等をリンクさせることで、情報発信の充実を図っているところであります。

○議長（大田英勝君） 9 番。

○9 番（福地元一郎君） 役場庁舎の移転問題は、先ほど町議員から質問がありまして、またこのあとに高田議員の一般質問も予定されております。議会としてもそれだけ重要視し、関心を持っていることだと認識していただきたいと思います。

建築基準法は、国民の生命・健康・財産の保護のため、建築物の敷地、設備、構造、用途についてその最低基準を定めた法律ですが、昭和25年に施行された当初から、長い間コンクリートの圧縮強度は18N/mm²で、それをクリアするために21N/mm²で打設するのが一般的でした。しかし、現在では建築基準法も改正され、震度7の地震に耐えられるよう24あるいは27N/mm²以上の圧縮強度のコンクリート打設が一般的だということです。

先週、四国・中国地方で震度5強の地震が発生しましたが、それよりも少し強い震度6の地震が今ここで発生したら、私たちも庁舎の下敷きになるかもしれないということです。

そこで、庁舎で働いている職員のためにも、新庁舎の完成年度の目標を示していただきたいと思います。町長。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その年度については、できるだけ早急にという考え方をしていますが、先ほど申し上げました対策委員会でそれまできちっと決めた形でやりたいと思っております。

○議長（大田英勝君） 9 番。

○9 番（福地元一郎君） それから、耐震診断報告書で気になることがありました。報告書には3階の鉄骨造部分が現地調査の結果、部材体力に大きな影響を及ぼす発生（かびの発生のことです。）もなく、柱梁柱（梁のことです。）や取口部分（取り付け部分です。）の溶接等も大きな問題はありませんでした。そのことを踏まえた上で、耐震診断を行った結果、倒壊または崩壊する危険性は低いと判断しますという報告でありました。

そこで、先ほど資料をお配りしましたが、この配った写真を見ていただきたいんですよ。報告書ではさびもなく問題ないという取口部分、その写真の一番上の議場の南側の写真ですけれども、梁とここの柱、梁の部分、そこはもうさびでぼろぼ

ろで切れております。この写真2も外側から見た写真もそうですし、写真3の写真もそうですけれども、骨材はさびてぼろぼろなんですよね。そして、補修工事も鉄骨を溶接して補修するのではなくて、ぬきと言われる角材を釘で打ちつけて、両面から石膏ボードを取り付けただけの簡単な修理なんです。これではまた去年のような台風が来れば、また被害に遭うことは目に見えております。本当にこう見てわかるとおり、見た目はきれいなんですけれども、ここにいる職員は危険と向かい合わせて仕事をしているということを認識しなければなりません。私が一日も早い新庁舎の建築を望む理由はここにあります。

このことを踏まえて提案したいと思います。新庁舎ができるまでは庁舎内で仕事をしている職員を対象に、地震が少しぐらぐらときたらすぐ外に逃げ出すような、そんな避難訓練をしていただきたい。

それともう一つは、台風時にも、去年もそうでしたが、職員は台風の時もずっと庁舎内で仕事をしているんです。それこそ本当に危険な行為だと思うんですが、新庁舎ができるまでは、少なくとも台風時にはこの場所を離れるようなことを町長は勧めていくべきだと思うんですよ。いかがですか、町長。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 実は、今おっしゃったとおりのことを職員には言っているわけですが、まずはもう逃げる方法から考えよう。それとあともう一つ、コンテナみたいなものを普段は使って、ぱっと中に入れる空間だけは置いて、各課または2つの課に1つとか、その検討もやる必要があるんじゃないかと。これは対策会議の中で早急に検討していきたいと思っております。それができるまでの対応策も含めて検討していこうと考えております。揺れ出してから逃げる場所の確認とかをやったところが、ずっと窓があってなかなか真ん中は逃げる場所がないものですから、いろんなことを想定した考え方が必要じゃないかということで今副町長、総務企画課長とはそのことを検討しています。

以上です。

○議長（大田英勝君） 9番。

○9番（福地元一郎君） 安心・安全なまちづくりは、役場職員から、役場庁舎からぜひ進めていただきたいと思います。

次に移ります。

停電すると光電話が使えないという訴えは、数年前から議会報告会でもあります。それを踏まえて、私も昨年の議会で停電時に緊急連絡手段が絶たれてしまう世帯のリスト化をお願いした経緯があります。町長がおっしゃるように、確かに個人情報保護という点では完璧なリスト化はできないと思います。現在、町内の248

6世帯の中で固定電話に加入していない世帯、あるいは家族と同居している世帯を除いた上で、それに複数回線使用している世帯や企業の回線等を加えますと、推測ですが、与論には、約2400回線の電話回線があると思われます。光電話加入世帯は約750世帯ですから、単純に計算してみると全体のおよそ3割程度が光電話加入世帯ということになります。幸いのことに、光電話の加入世帯のリストは役場にあります。そのリストと町長の答弁にもありました独居高齢者などの災害弱者のリストとを突き合わせていけば、全町民に対するアンケート調査をしなくても、机上である程度の絞込みは可能だと思います。要は、問題はいつ、誰がそれをやるかということだと思います。年々ベテラン職員の数が減って、逆に残された職員の仕事量が増えていく上に、さらにそういった負担が増えるところに問題があるのです。やりたくても通常業務に追われてできないというのが現状ではないでしょうか。そこを考えてあげるのが町長だと思いますが、町長いかがですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） よくわかりました。一応担当課と総務課と相談をして、早急にできるかできないを検討してやりたいと思っております。ただ人力的な問題はないんじゃないかと、やろうと思えば、できればできると思いますので、その相談をしてやっていきたいと思っております。

○議長（大田英勝君） 9番。

○9番（福地元一郎君） そのことについて私から提案があります。台風のあとには必ず被害調査で全職員が全世帯を回って聞き取り調査をしております。それは毎年台風のあとにやることです。そのときに調査項目に停電時に緊急連絡手段が絶たれてしまうかどうかという一つの項目を加えたら、それはもう済んでしまうんじゃないかと思うんですよ、その把握は。ですから、専属で職員を配置するよりも、台風時に全職員にお願いして、それを加えてやってもらえばできると思うんですけど、その点はよろしく願います。

○議長（大田英勝君） 9番。

○9番（福地元一郎君） 次に移ります。

防災行政無線システムがダウンしたときの別の通信システムのことですけれども、防災行政無線システムがダウンした場合の別の通報システムの構築の件では、議会では一昨年の相次ぐ台風で電線が断線して、長時間の停電を引き起こし、防災行政無線の台風情報や避難勧告などが一部十分に伝わらない障害が発生したことから、これらの不具合を補完し、全国瞬時警報システム（Jアラート）等々にリンクさせて、各種防災情報を迅速かつ的確に住民に伝達するため、携帯電話やケーブルテレビ等に自動配信するシステムの構築を県や国にお願いした経緯があります。国

は2016年までに全ての市町村においてJアラートによる自動機能が可能な住民への情報伝達手段を確保する、また防災行政無線に限らず、できる限り複数の手段でJアラートによる自動起動が可能とするよう努めるとしています。ということですが、国の言うように、2016年まで待っていては遅すぎます。台風は今年も来年もやってくるわけですから、一日も早い防災行政無線を補完するシステムの構築が望まれるところです。そういった意味で、答弁にありますNTTドコモの提供するエリアメール、あるいはまた、KDDIやソフトバンクの提供する緊急通報メールは大変有効であります。これらのメールは、メールアドレスの登録を必要としないことから、大いに活用して携帯電話向けの情報配信を急いでいただきたいと思いますと思いますが、町長、いかがですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） はい、了解しました。

○議長（大田英勝君） 9番。

○9番（福地元一郎君） これもまた今年の台風が来るシーズン前までには、できることとならぜひシステムの構築をお願いします。

次に行きます。

次は、ホームページのリニューアルの件ですが、答弁では、関係課等で検討を重ねた結果、観光情報よりもまずは町民への情報をトップに載せることが望ましいということで更新をしなかったと答弁されました。そこで先ほどお配りした資料の裏のほうをごらんください。

左端が与論町のホームページのトップです。そして真ん中が観光のページ、これはホームページの次の下のページにあたります。右端が町政のページになっておりますが、これを見てどれがどれだかよくわからないと思いますが、御存じでしょうか。この与論町のホームページは、トップのページも、その観光のページも、町政のページも実は内容、中身は一緒なんです。ですから、ここで町長が答弁されたように、関係課等で検討を重ねた結果、これまでと同じように暮らしのページをトップにしましたというのでは、同じ内容、同じコピーを置いてるだけなのに、検討して今までと同じにしたというのでは、2年半も放置された私としては納得がいかない。町長、どう思いますか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その件については、私も内容がよくわからなくて検討したことは確かですけれども、担当課長から説明をさせたいと思います。

○議長（大田英勝君） 総務企画課長。

○総務企画課長（沖野一雄君） お答えを申し上げます。御質問は、要するに、観光情

報のほうを町政情報よりも優先して、まずトップページに持ってくるべきではないかというところが趣旨だと思います。それにつきましては、先ほど町長がお答えしましたように、福地議員さんの御提案に対して何ら具体的な策を講じることなく今日まで来たということでお詫びを申し上げたところです。私もまた町長の秘書的な立場の課、執行部といたしましても非常に申し訳ないと思うことです。御案内のように、議員さんが提出されたこの資料を見ましても、確かにその感否めないわけです。ですから、早急に、しかしながら観光のところもまたどういった画面にして、どのようなPRをしていくかというのは観光課のアイデアを出していただいて、しっかりと早急に観光課と協議をしながら直ちに是正をする方向で対処してまいりたいと思いますけれども、果たして観光のページをトップに持ってくるのが理想なのかという部分については、少し議論の時間が必要かもしれません。また、町長の意見を伺いながら、早急に対応してまいりたいと思います。

以上です。

○議長（大田英勝君） 9 番。

○9 番（福地元一郎君） このホームページのリニューアルについては、町民からも与論町の広報体制の改善に関する陳情が今議会にありました。総務厚生文教委員会では採択しましたが、大変建設的な意見でありましたので、議事録に残す意味でもこの陳情のホームページに関係するところを読み上げます。

ホームページ（Web サイト）における改善策の検討依頼

Web サイトを利用した情報提供は、他の媒体よりはるかに豊富な内容を掲載できるので極めて有用であるが、週報や防災行政無線などとの整合や連携、相互補完などが今一つ乏しい状況にある。

①少なくとも防災行政無線で放送された内容は、与論町ホームページでもすぐに確認できるようにする必要がある。

②また、以前はWeb ヨロン島バックナンバーも含めた週報を閲覧することができたが、きまぐれで始めただけだったのか、現在は姿を消してしまった。復活すべきであるし、本来はWeb ヨロン島ではなく、与論町ホームページがその役割と思われる。そういう意味で、現在は与論町ホームページ、ヨロン島観光ガイド、Web ヨロン島が行政管轄の主要Web サイトと言えるが、それぞれの役割分担が不明確な部面もあり、無駄な重複や無駄な人件費増を発生させていないか検証していただく必要がある。

③与論町ホームページにおいては、前述した週報や防災行政無線との整合はもちろんのこと、船舶・航空の運航状況、特に船舶動向は業者に電話をかけないと把握できないことや、年間・月間を通したイベントスケジュールの展開など、日々町民

に影響のある情報提供の充実を図っていただきたい。

④また、ヨロン島観光ガイドでは、2014年の百合ヶ浜出現予測を観光ニュースとして掲載したことがあるが、観光案内としては喜ばれるものであっても、一過性のニュースの一つとして掲載しただけなので、結果あとからメインページを訪れた人にとっては、せつかくの情報を見出すことができず、その情報がどこかにあるとわかっていたとしても、探し出すのは容易ではない。閲覧者の立場に立っていない情報提供方法の悪しき例の一つであり、もっと知恵を働かせて工夫された改善を望むものである。

以上です。

これらのことを踏まえて、私から提言します。現在のホームページは制作されてから5年が経過しました。当時としては最高のものだったと思いますが、今では重たいし、技術も古い。情報も2009年当時のまま更新されていないものもあります。例えば、廃業した食堂や民宿などもそのまま掲載されており、初めてアクセスする人に誤解を与えます。今年は新しく作りかえる時期にきているので、思い切ってリニューアルしてはどうでしょうか。現在はお金をかけなくてもいいものができます。町長のやる気と決意があればできることですが、町長、どうしますか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 大変恐縮ですが、ホームページについては、何といたしますか、内容がよく理解できないところがありまして、担当課には精通した方がいらっしゃいますので、相談をして、そのようにやっていきたいと思います。確かに、答弁書の中で町民への情報をトップに載せることが望ましいというのは、県のホームページの担当課のほうにもいろいろ指導いただいて、そういうことだと言われたので、じゃあそれでやるよりしょうがないだろうといった覚えがございまして、いろいろ相談したんですが、島は島なりの検討をしてみたいと思いますので、ぜひ議員のほうも指導をお願いしたいと思います。私のほうはなかなかこの内容はよく把握できませんので、御指導をお願いしたいと思います。

○議長（大田英勝君） 9番。

○9番（福地元一郎君） 答弁にありましたように、上から言われたから言われたとおりにするというんじゃなくて、与論町は与論町らしい個性のあるホームページづくりをやるべきだと思うんですね。

また、先ほど言いましたけれども、今はもうお金をかけなくても、これは実際にこのホームページをつくるのに500万円ぐらいの、あとここに載っていますヨロン島観光ガイドは、2000万円ぐらいの予算をかけて制作したわけですけど、池田事務局長もいらっしゃいますが、与論町の以前のホームページは彼がつく

っていたわけですから、それぐらいはもう簡単にできるので、ぜひそれを早目にやっていたきたいと思います。

それから、ホームページはただ制作をして、ネットにアップするだけではもうだめなんですよ。常に新しい情報に更新していく必要があります。その更新はたくさん仕事を持っている職員が片手間でできるものではありません。専属の職員がどうしても必要になります。専属の職員か臨時職員を配置することになりますが、それが難しいのであれば外部に委託することも検討していただきたい、そう思います。現在、子育て中の若い衆の中にはパソコンに詳しくて、子育ての合間に何かこうＳＯＨＯ（ソーホー）でできる仕事はないか、パソコンの仕事がないかという相談も受けるんですけども、まさにこういった更新情報というのは、島のいろいろなニュースとか、行事の内容とか、そういうものはたくさんの人が集めてきたほうがより集まるし、できると思うんですよ。そういった時間を限らず・区切らずに、１日とか１時間とか２時間とか、そういった雇用の仕方であれば、これは一つのアイデアだと思うんですけども、検討していただきたいと思います。ぜひ、今年リニューアルをということでは言いましたけれども、あと２年半も待ちぼうけにならないように期待していますので、最後に一言町長の決意を聞いてから終わりたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） よく了解いたしました。

○９番（福地元一郎君） はい、これで私の一般質問を終わります。

○議長（大田英勝君） ９番、福地元一郎君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

—————○—————

休憩 午後３時０８分

再開 午後３時２０分

—————○—————

○議長（大田英勝君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次は、２番、高田豊繁君に発言を許します。

○２番（高田豊繁君） 本日最後の質問になります。それでは、一般質問の通告書に基づきまして、順次質問を行いたいと思います。

まず、１ 廃船処理対策についてです。この問題に関しましては、先般もその前から申し上げている問題ですが、

（１） 廃船の処理対策については、地域全体の問題であることから、町内の関係者による対策協議会を設置して、速やかに対策を講じる考えはないか。

- (2) こういった場合に、進まない場合に、行政代執行法というのがあるわけですが、これに準じて地方もまた、町に合った行政代執行条例というのが必要になってくるわけですが、与論町の場合、この行政代執行条例を制定するなど、合理的な措置も検討すべきであると考えますが、これに取り組む考えはないか。

2 重要公共施設の整備計画について

- (1) 新清掃センターの整備計画については、どう考えているか。
(2) 役場庁舎の建て替え計画については、どのような進捗状況にあるか。
(3) 古里浄水場の機器設備については、改修等の必要はないか。

3 障害児の療育環境の向上対策について

- (1) 障害児の早期療育や有効な支援体制等の環境を構築するため、地域や関係機関を網羅した「自立支援協議会」を早期に設立する考えはないか。

以上、6点につきまして、町長の答弁をお願いします。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） ただいまの御質問にお答えします。

まず最初に、1－(1)についてお答えします。

島内各所に放置されている廃船は、景観を損なうばかりでなく施設の正常な機能についても影響を及ぼしています。特に大型船は、架台の老朽化も進んでおり転倒する危険性があり大変危険であります。また、そのほかにも放置船や所有者不明の小型船・レジャー船などがあり、作業時の移動や撤去に大きな労力を要している現状があります。特にFRP船については、廃船処理の方法が重機等により減容化した上で島外に送り処理しており、相当の費用がかかることから放置され景観の問題や周囲の環境にも問題がある実情にあります。

廃船の所有者に対し、指導等は適宜行っておりますが、なかなか処理まで至らないことから、御質問にありますとおり地域全体の問題と考え、町内関係者及び関係各課による対策協議会の設置を検討してまいります。

次に、1－(2)についてお答えします。

河川や港湾区域の不法係留や放置船対策として適正化条例を定め、重点的に撤去を必要とする区域を指定し計画的に不法係留船や放置船の撤去を行っている自治体の例を参考に、放置廃船についても条例化できないか検討してまいります。

次に、2－(1)についてお答えします。

現在の清掃センターは、昭和58年に完成してから30年以上が経過し、大変老朽化が進んでおり維持管理に経費がかさんでいるのが現状であり、早急な建て替えが必要となっているのが現状です。

町には平成24年度に与論町廃棄物処理施設建設推進委員会を立ち上げ、現状を説明し、提言を受け与論町ごみ焼却施設基本計画を作成しています。

計画としては、平成27年度に工事発注し平成28年度中に完成を予定しています。施設の能力としては、現在の施設が1日当たり10トンであるのに対し、将来の人口推計及び町民の1日当たりの焼却ごみ排出量等から、1日当たり8トンの処理能力となっています。

今後、用地の選定に係る作業が残っておりますが、施設の必要性についての丁寧な説明により町民の理解を求めながら施設整備を進めてまいります。

次に、2-(2)についてお答えします。

新庁舎の建設計画に係る作業の進め方につきましては、これまでもお答え申し上げましたように、昨年から庁舎内のメンバーで構成する検討会での協議や耐震診断の結果を踏まえて、今後は外部検討会の協議を行っていく段階に移行する予定にしております。

その協議を重ねていく中において、町民の意見を集約していく方法や具体的な建設場所、庁舎の規模や財源の調達手法、建設時期等々について詰めてまいりたいと考えております。

この最も重要かつ歴史的なプロジェクトの推進につきましては、今後ともしっかりと取り組んでいく所存でありますので、御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

次に、2-(3)について申し上げます。

古里浄水場の電気透析設備は2001年4月の運転開始から本年度で13年目を迎えようとしております。運転開始後町民から湯沸かし等の石灰が改善されないとの苦情が相次いだため、イオン交換膜の対数225対×4槽、硬度1リットル当たり284mgから2001年6月に260対×4槽に増強し、さらに2003年7月に272対×4槽、硬度1リットル当たり170mgの限界ギリギリの状態です。現在まで運転しております。能力限界の運転が10年以上継続されているため、電気透析装置の心臓部であるイオン交換膜及びガasketの損傷が著しく、その対応の検討を始めております。

最後に、3-(1)についてお答えします。

自立支援協議会は、地域において障害者及び障害児の支援に携わる関係者が連携して支援等に関して協議する場であり、地域を挙げての支援体制における重要な組織と認識しております。

本町におきましても、地域における障害児等への支援体制に関する課題について情報を共有し関係機関相互の連携の緊密化を図る必要から、障害福祉サービス事業

所、保健・医療関係者、教育関係、障害者関係団体、関係機関等により構成される自立支援協議会立ち上げのための要綱を作成し、26年度早期に協議会を組織し支援体制を構築してまいりたいと思います。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） 廃船の問題のほうから質問したいと思いますが、この廃船の問題に関しましては、大変地域からも指摘されていることですが、いかんせん個人の財産であることと、どうしても処理に要する経費が高額になる。離島の場合、どうしても船運賃とかが大変割高になるという問題がございまして、なかなか進んでいない状況にございます。そして、これまで産廃処分場もなかった町自体のハンディ的なところもございまして、これができなかったわけですが、この問題は我が町だけではなくて、沖永良部を見ても、それから県のこういった港湾のほうに行きましても、こういう問題は少なからずございます。しかしながら、去年大型台風が連続して来たのですけれど、潮位が異常にあがります。どうしてもヤードの所や船揚げ場などまであがってきますと、廃船が強固に固定されていない環境もございまして、これが港湾の施設とか他人の船に倒れ掛ったりして、被害を第三者に及ぼしている点もあるんですよ。そういうことで、これは景観的な面も、そういった公害的な、これは大変大きな問題なんですよ。この問題については、先ほどから提案しているわけですが、一つ早急な対策があるんじゃないかと思います。対策協議会の設置を検討してまいりますと御答弁いただいておりますが、これは一応やる方向で考えていらっしゃるわけですね。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 廃船の問題については議員さんも言われたとおり、個人の財産になるものですから、非常に危険だあるいは邪魔だということで、すぐ片付けられないのが非常に困ったところであります。そういうことで漁協長さんに、漁協組合の方々の財産だから漁協で何とかできんかということで再三何回もお願いをして、実際に漁業長自体も交渉された経緯があるわけですが、なかなかそれが遅々として進んでいないのが現状であります。したがって、違った方法を考える必要があるんじゃないかと思っているところでありまして、対策協議会でどういう提案ができるのか。また、いろんな外郭団体でもこれに対する支援とかいろいろあると聞いておりますので、その点も調べて対応策を早急にやっていきたいと考えております。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） 廃船の解体については、御答弁の中に重機等により減容化した上で島外に送り処理しているとありますけれども、この減容化というのは、この解

体をしたあとコンパクトにしてということなんじゃないかな、環境課長。

○議長（大田英勝君） 環境課長。

○環境課長（福地範正君） 今の御質問にお答えします。

現在FRP船のリサイクルにつきましては、その形態というか、形を変えないでリサイクル工場まで輸送して、専門的な技術でリサイクルするということになっておりますけれど、実際には船は容積が大きい関係で、大変輸送費がかかります。そういうことでできれば解体して容積を小さくしてリサイクルできないか。あるいは、処分できないかという検討の事です。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） はい、わかりました。内地の場合でしたら、例えばユニックとかトレーラーを使いまして30フィットぐらいのボートとかについてはそのまま持っていきまして、ヤマハさんとか、そういった解体屋さんに預けるような形で、そのあと産廃処理場に運ぶというのが大体の流れのようなんです。大きなものも確認したんですが、産廃処理場の受け入れは30センチ角ぐらいにカットして、これをちゃんと産廃処理場まで持ってきていただけるんだったら、十分に向こうとしては受け入れるということでございました。そして、1キロ当たり27円か30円ぐらいということでございましたが、例えば、町内でこれを処理しようということで、委託した場合は、これは当然中間処理業者、与論では（株）ムトウさんだけしかできないんですけど、逆に責任を持って自分の船について、自分の船を業者さんのウンボとかを借りて、切って処分したり、また自分で細かくさらに処分するというのは、別に資格は要らないということのようですが、そういったいろんな対策があります。そういうことで、問題は漁協さんのほうからも勧告をしたということもありますけれども、一度言っても聞かない、二度言っても聞かない、三度言っても聞かない、それは何回言っても同じだと思うんですね。そうするとじゃあああいうのはどうなっているの、何で僕だけしなくちゃいけないのと、こういうような論理になっちゃって、これはなかなか進まないと考えられるわけですね。それで行政代執行法というのがあるんですが、この第2条を御紹介したいんですが、第2条に、行政庁から命じられた行為について、義務者がこれを履行しない場合、他の手段によってその履行を確保することが困難であり、かつその不履行を放置することが著しく公益に反すると認められるときは、当該行政庁は、自らその行為をなし、または第三者をしてこれをなさしめ、その費用を義務者から徴収することができるとなっています。そして、同6条で、代執行に要した費用は国税、地方税に次ぐ順位の先取特権が与えられているのです。ですから、当然代執行に要した費用は、その持ち主から徴収するということです。法的にそういった裏付けがあるわけですので、

普通の使用料、それから負担金よりは強い徴収特権があることを示しております。

そういうことで、一度言っても、二度言っても、三度言ってもということになると、どうしてもただ勧告しただけではなかなかこれは実行・実践できないところがあるんじゃないかと思ひまして、ぜひこの対策協議会の中で、そこら辺も突き詰めて、とにかく結果を出すということが一番大事だと思いますので、先送りしないで、これと並行して検討をぜひお願いしたいと考えます。

それで、和泊町におきましては、和泊町も空き家とか、そういった問題が以前から問題になっておりまして、それと放置車両、道路とか公園そういった公共施設に置いてある放置物に関しましては、行政が代執行条例を制定いたしまして、これを行っているということです。一つ町長の考えをお願いしたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その件については、対策協議会の中で検討してまいりたいと思います。どうしてもそのようにしないと問題解決できないんじゃないかと、今までのいきさつからしまして、そう思っているわけでありまして。しかしできるだけ同じ町民でありますので、言葉で協力を求めた上でからでないといけないので、今までそのお願いをしてきたわけでありまして、その時期とか、いろんなことについては、検討委員会を設けて、その中で検討し、できるだけ早くやる必要があるんじゃないかと思っております。

○議長（大田英勝君） 2 番。

○2 番（高田豊繁君） 行政代執行で考えられるのは、この廃船だけの問題じゃなくて、和泊でされている空き家、廃屋とか、放置車両、一時期そういうのが問題になりましたけれど、そういったのも含めて、条例をいっぱい作るわけにはいかないですので、それらを網羅して、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

それから、次の重要公共施設の整備計画についてであります。那間小の体育館の問題、清掃センターの問題、それから庁舎建築の問題とか、大型事業が多々ありまして、これは先ほども福地議員のほうからもございましたように、体力的にも危機的状況にあるわけです。加えて、町長が頑張ってつくられた、鬼塚課長と一緒に頑張られた淡水化プラントにつきましても、13年経過しているわけですが、設備につきましては、耐用年数というのが必ずあります。機械も施設も耐用年数が必ずあるわけですので、人間の体もちろんそうですけれども。

それで清掃センターのことについてお伺いしますが、この施設は先ほどもございましたように、これをつくったのは58年ぐらいだったですかね。山町長のときに多分つくられたと思うんですが、もう築30年以上経過しておりますが、御承知のように、先般の台風でもかなり大規模な被災を受けまして、施設全体の危機的な問

題もございますが、現場職員の日頃からのたゆまぬ努力によりまして、被災後の対応とか、施設の延命を図りたいという、情熱を持って現在効果的な運用がなされていることにつきましては、心から感謝したいと考えております。

今度は真新しい清掃センターのことなんですが、これまでのいろんなそういった経験から得た技術とか工夫とか、そこら辺を今後は一社のメーカーさんとだけ話をされるんじゃなくて、数社のクライアント等の検討も行うべきじゃないかと思えます。今年は26年度予算に2500万円の実施設計費が組まれております。それから1500万円の環境アセスメント費用が組まれております。基本設計は24年度にされたということなんですが、実績というのは、実際にやる場所を決めてやるという前提のもとに出されるのが実績だと思います。例えば、接地圧やそこら辺も考えて基礎というのはできあがってくるわけですが、そうすると、実施設計費が上がっているということは、それは全体の実施設計でしょうから、場所がどこかに決まっていることを前提に実施設計費は当然組まれるわけですがけれども、町長の真意をお伺いしたいと思います。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） まだ場所の選定はされておられません。普通の場所だという考え方で今のところやっているわけでありますが、実は最終処分場が完成してからしか次の段階でいろいろと建設推進上の問題もありまして、順番でやりたいという考え方で、まだどこにするかという検討は始めておられません。今回、今年度中に最終処分場が完成しますので、即どこにつくるべきか、場所の選定を検討委員会で行う必要があると思っております。始めたいと思っております。ただ、今の清掃センターを休ませて、その場所につくりかえるということはできませんので、別の場所につくるということになるわけです。つくる間、1年半から2年近くかかるということですので、相当な期間かかりますので、その間ごみの収集をストップするわけにはいきませんので、ほかの場所につくらざるを得ないという事情があります。ただいろいろな場所を検討したとしても問題がありまして、今まで購入できるかどうか何カ所か調べてきたわけでありまして、問題が出ましてできないという、ほとんどそういう事情がありまして、今のところは場所も未定で、これから検討することになります。

以上です。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） 最終処分場が兼母に今できているわけです。それからリサイクルセンターもできている。また、リサイクルセンターとしては、台風の実例を見ても、それ相当の敷地がないと被災物の処理ができないなど、現地のスタッフの方々

の御苦勞も十分認識しているところです。また、清掃センターについてもそこに持っていくとなりますと、いろんな地元から御意見とか、距離的に遠い所の問題とかいろいろありますけれども、現在の堆肥センターと屋内ゲートボール場、それから福祉センターとの間の土地につきましては、登記が難しいというような情報を聞いた気がしますけれども、そこら辺の信憑性はどうなんですか。それも一つの理由と聞いたんですが。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その点については、基本的に今あるところをと考えた方のもとで大分前から、5、6年前から検討してきているわけです。それでいろいろと調査し、地主さんにも全部あたってきたわけですが、今議員がおっしゃいましたように、登記ができないと、相当いろんな角度から調査をやったわけですが、回答としては、登記ができないので無理だということで、今のところは予定地はまだ決定していません。

○議長（大田英勝君） 2 番。

○2 番（高田豊繁君） そしたら、清掃センターに隣接している土地につきましては、登記ができないのがネックになっているということですよね。そしたら、逆にお聞きますと、登記ができたらじゃあそこにつくりますかということになると思うんですけども、その点はどうですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） その点はもちろん、あの土地が登記可能かどうかを確認してから、あと環境問題がございますので、その地域の方々の御了解が得られるかどうかという問題は別問題であります。ですから、そのあとで決定することになるわけですが、最初の段階ではなかなか前に進められないのが現状であります。

○議長（大田英勝君） 2 番。

○2 番（高田豊繁君） そうすると、実施設計費用は、今発注の予算化をしても、場所が決まらないと、設計は執行できないですよ。当然、決まった上でないと基礎から全てが立ち上がってこないわけですから、一応計画としてはあがっているわけですので、施設の老朽化も相当進んでいるわけですから、この問題は町民生活への密着度が一番高い施設だと思いますので、さらに大型台風が来るかもしれませんので、この問題は優先的に進めていく必要があると思いますので、十分体制を整えていただいて、早急に進めていただきたいと思います。

次に、役場庁舎の改築等についてですが、この問題につきましては、先ほど細部に渡りまして耐震強度の問題とか、耐久性の問題とか、それから壁の部分の崩落とか、そこら辺も全部先ほどされましたので、この問題についても、副町長をトップ

にして検討会議が立ち上がっているということです。進捗状況というか、できれば議会のほうにも情報の共有化を図っていただきたいと思います。

すみません、先ほどの環境のことで前後しますが、先ほど喜山さんからペットボトルを炉の燃焼の燃料代わりに活用する手はないかという話がありましたけれど、私もその問題に関しましては、塩ビとかは無理だとしても、非常にそういうふうに考えている学者の方々もいらっしゃるんですよ。特に離島の場合は、もちろんリサイクル、リユースのこともありますけれども、今現在ペツチャンコにした状態で出していますよね。輸送コストもかなりかかりますし、町の財政面にも非常に大きな負担になっているんじゃないかなと思って見ているわけですが、ポリのペットボトルについて、利用の合法性はどうなんだろうかね、環境課長、お願いできますか。

○議長（大田英勝君） 環境課長。

○環境課長（福地範正君） はい、お答えします。

御指摘のペットボトルに関してであります。各種計画等に則り、現在はリサイクル対象品目に入っていて、リサイクルされておりますが、議員から御指摘のような形で助燃材に使えないかという話であります。焼却すること自体は違法とはなっておりません。

以上です。

○議長（大田英勝君） 2 番。

○2 番（高田豊繁君） わかりました。私が勉強不足で、確認をとっていなかった関係で課長に質問したわけですが、となれば、これまでの概念を払拭していただいて、炉の問題とか、燃焼効率の問題とか、運賃の問題とかいろいろ改善する要素があると思うんですけど、ぜひ検討会議の中で、そしてメーカーさんの意見とかも、専門家を検討会にも入れながら、ぜひ検討していただいて、これはこうだったということが後ほど報告できる体制で、ぜひ検討した結果についてはお願いしたいと思います。

それから、焼却灰のことについてなんですけど、確かに立派な大きなものつくってあるわけなんですけど、その量をなるべく少なくするというような方法として考えられることはどういったのがございますでしょうか。

○議長（大田英勝君） 環境課長。

○環境課長（福地範正君） ただいまの御質問は、最終処分場もできたんだけど、できれば焼却灰の少ない、排出の少ない焼却システムはないかというような御質問と理解しておりますが、焼却方式にはいろんなシステムがありまして、与論町の清掃センターの場合は、現在はストーカー方式であります。燃やして焼却灰が出るという

システムです。焼却灰が出ない方式におきましては、出た焼却灰を溶融する灰溶融炉というのを別枠でつける方法と、直接ごみ全体を焼却するのではなく、溶融炉する方法、そしてガス化燃焼路といいまして、それもほとんど焼却灰とか被灰が出ないのであります。ただ与論町の場合は、先ほども町長の答弁にもありましたように、施設規模が10トン未満と大変小さいのであります。そういう中で、ランニングコスト、技術の維持補修のしやすさ、そういう方面から考えれば焼却灰は出るんだけど、ストーカー方式がいいのではないかということで、基本計画の中ではストーカー方式を基本的な方針とするという具合になっております。

以上です。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） 大変難しいようでございまして、溶融したあとは、結果的に溶融したそのものはどうなるんですか。

○議長（大田英勝君） 環境課長。

○環境課長（福地範正君） 焼却灰等普通の灰ですけど、それと被灰というのが出てきます。それはすすです。特にすすは重金属をたくさん含んでおります。焼却灰が少ない方法といたしましては、普通の灰だけを溶融する方法もあります。被灰は被灰として処分場で処分する。また、さっきも説明しましたが、すぐ直接溶融、ごみ全体を焼却するのではなく、高温の中で溶融する方法もありますけど、いずれにしても被灰は出ます。そして、焼却灰とか、溶融したあとの灰はスラブという、メーカーによっていろいろ粒状のサイズは違うみたいですけど、砂粒状の石みたいなのが出てきます。それを地域によってはリサイクルというか、いろんな形で利用されているようですが、それもまた安定した引受先がないとずっとたまっていくという結果になっているようです。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） そうすると、今おっしゃったスラブの状態で、細かい碎石みたいな状態なんですけど、それを例えば、舗装の土盤材とかと混合して使う、結局安定はしているわけですね。化学反応を起こさず、安定はしているわけですね。そうすると、安定物だということでしたら、そういうふうに対処している例はないのですか。

○議長（大田英勝君） 環境課長。

○環境課長（福地範正君） そういう例もあります。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） そちら辺も含めまして、御検討をお願いしたいと考えますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

次に、古里浄水場の改修についてですが、こちらのほうの附帯の経年変化とかはまだ大丈夫だと思うんですけど、この設備に関しましては、相当なハードワークをしているんじゃないかと思うんです。そして、御答弁の中にもあったんですが、硬度1リットル当たり170mg という限界ギリギリの状態です。現在フル稼働している状態で、これが10年以上継続されているということでありまして、イオン交換膜及びガasketの損傷が著しいということです。今の実情に関しまして2、3お伺いしたいと思いますが、湯沸等の石灰の残留がかなりあるんじゃないか、かなりでもないんでしょうけど、そういうふうな御意見を寄せられる方もいらっしゃるわけですが、これは硬度という表し方、捉え方で理解してよろしいわけですね。

○議長（大田英勝君） 水道課長。

○水道課長（末原文忠君） はい、そうです。カルシウム、マグネシウムが硬度の基準としてあるわけです。今大体170ぐらいで供給しています。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） それから、水質についてはわかりましたが、電気透析のメインであるイオン交換膜というのは、逆洗をかけたり、洗浄したりしてメンテナンスされていると思うんですけども、これは一定の期間で交換は実際されていますかね。

○議長（大田英勝君） 水道課長。

○水道課長（末原文忠君） はい、寿命がございまして、一応年に2回何枚かは交換しながら、掃除のほうも年に2回やっております。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） はい、わかりました。そうしたら、大規模的な改修は、概ね今の段階での予想いたしましてですよ、内部機器の大規模改修が必要じゃないだろうかと考えているのは、担当課としては何年ごろを考えていらっしゃいますか。先ほど対応の検討を始めているということでありましたので、町長。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 先ほど答弁したとおり、13年経ちまして、最初の施設から非常に無理といたしますが、非常に硬度を下げるために機械の能力からするとずっと最高の状態で、無理をさせた状況が続いてきたわけでありまして、今やっているのが、硬度が170ということでそろそろ変えるということではなくて、今ある機械を助ける装置を備え付ける必要があるということで検討しております。その機械が1基で5500万円、これは補助はつきません。これを設置しますと、硬度170mgを120にまで落とせるということです。これを2基つけるとはっきりはしないわけですが、100ぐらいまで落とせる。100近くまで落とせるんじゃないかと思っております。硬度100以下に落としますと、国の補助金が3分の1つきま

す。硬度を100以下まで下げる装置ですと、国の補助金が3分の1つくわけです。その制度は去年からできた制度で、今年知名町がそれを使ってお願いしたいということでやっておられるようですが、会合の中で補助の継続をお願いしていきたいと思っているわけであります。結局、その制度は100以下であると補助がつく、100以上であるとならない。（「100以下であればつくということですね」と呼ぶ者あり）ですから、恐らく2基まではつかないんじゃないか。仮にやっても、補助金をつけるということになれば、いろんな制度がありまして、非常に金額が高くなるんです。例えば、5基やると相当低くできるわけですが、金額が3500万円、補助金がつくと手続きとかいろんなものにすごい金額がかかりまして、そんなに差がつかないんです。計算してみると1基で1年やってみて、それであれば、もう1基補助金もらわずにつくったほうが安くできる。しっかりした計算じゃないですけど、業者のほうからの報告を受けて、その上で計算すると、そうなるものですから、今日、明日で取り替えるという、機械を取り付けるということではできませんので、あと1、2年はかかると思っているわけですが、それまでによく検討していきたいと考えております。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） 給水人口も減る中で、水道会計も本当に苦しい・厳しいと思います。ですから、そういった工事あるいは内部の機器のリニューアルに関しましても、一般財源からの繰り入れは必要になるかと思うんですよ。それでそういうことも含めた中でいろんな他の公共事業等々との関連が出てくるわけですけど、工事を来年度から始めるということは厳しい、唐突にはできないと思いますので、町長、これはぜひ、行政サイドで、水道会計とは別に調査費を組んで、比較検討ができるようぜひ町費で単独で、水道会計とは別にやっていただくことが必要じゃないかと思うんですけれども、どうですか、町長。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 一般会計から繰り入れてやるということは考えておりません。というのは、企業会計では償却というのがあって、償却された、いわゆる老朽化することによって、寿命がきたときには、それと同じ機械が買えるようにという形で認められて償却という方法があるわけですよ、企業会計はそれを使った形になるかと思います。今までに8000万円ぐらいはその金が貯まっていって償却のために別にとっておいてありますので、8000万円ぐらいは今のところあるということです。2基になると、一般会計からお願いしなければならないんじゃないかということも出てくるわけですが、1基で大丈夫じゃないかと思っているわけです。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） 1基、追加する施設のこともですけど、内部機器の改修はかなり多額の予算がかかって、その後については水道会計の原価償却では、試算では厳しいところがあるんじゃないですか。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） 前に水道課のほうから説明があったと思うんですが、今年から税法が変わりまして、今まで補助金はゼロだったんですけど、資産としては認め、ゼロにしていという恩典があったんですけど、これからは補助金も資産として認めるということで、結局利益の対象になって、それでいきますと。今の水道料金からすると、恐らく今までは200万円近く、180万円から200万円の純益を出していたわけですが、それは償却してからの純益です。ちゃんと次に対する費用の蓄積はしておきながらの赤字ということですが、それがあわけですけども、来期からは水道料がそのままだと赤字になる見込みです。ですから、今から水道料金の検討を始めなさいということで指示してございます。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） それでは、最後になりますけど、今後の施設関係の建設に係る予算配分・建設計画について一連の確認をとりたいんですが、まず教育委員会のほうからお伺いしますが、小学校とか、中学校は別としまして、小学校の施設で建物の耐力とか非常に危ないというのがあると思うんですが、小学校のほうの一番近いほうの、例えば27年度にこれはしなくちゃいかんというのはどこどこか、その予定を聞けますかね。

○議長（大田英勝君） 教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（池田直也君） 前年度は基本設計でした。今年実施設計をしております。それで平成26年度の5月からは工事ができるように準備を進めているわけです。まず、茶花小学校の2階の校舎、そして特別教室のある3階の正面の入り口の校舎、そして1階の校舎、そして那間小学校の1階の校舎、そして与論中学校の正面入り口の右のほうの特別教室を行います。さらに、屋体、体育館ですが、これも同じく夏休みも挟んで与論小学校と那間小学校、両方進めていく準備をしております。1億円を計上しておりますのでよろしくお願いします。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） 伺いたいポイントは、何年度に清掃センターとかそういった小学校校舎、そこら辺の全体的な予算というのは限界があるわけですので、各課でこの話は共有する必要があると思うんですよね。そうしないと、短期間では何もできないし、また清掃センターみたいに突然の事態も出てくるわけですので、公共事業は何年度はこれをするんだ、何年度はこれをするんだという明確な全体像を一応つ

くっていただいて、そして、私どもにも教えていただくと同時に、各課で水道施設も含めまして、そういうふうにしていただけるのが一番いいんじゃないかと思うんですけど、町長。

○議長（大田英勝君） 残り5分です。町長。

○町長（南 政吾君） 学校関係の耐震のことだけは、最優先で1時間でも早くできるようにということで、費用があるんじゃないということ、非常に教育委員会を急がせてきたわけでありましたが、お蔭様である程度の目安はついているところではありますが、1日も早く完成することを願っているわけです。その他の事業については、ある程度のゆとりが、庁舎は非常に逼迫していますけれど、ありますので、今議員がおっしゃったような形で、事業を進めていきたいと思っております。学校だけは1日でも早く、1時間でも早くやるようにということで、今進めております。

○議長（大田英勝君） 2番。

○2番（高田豊繁君） 最後となりますが、3番目の障害児療育環境の向上対策についてということで、推進協議会を立ち上げるということで承りました。そういうことで、何か話を聞きますと、与論町はこの立ち上げが非常に県内でも遅れているということだったので、これを急いでいただきたいと思います。現在も大変頑張っているらっしゃるということですが、先般、定年される方もいらっしゃるという話も、近々定年とかという話も聞きましたが、一般の保育等と違いましてかなり難しいところもあると思うんですが、精通したスタッフの配置とか実務研修の充実等予算面でも町長の方針を強く出していただいて、子供たちのためにぜひより効果の高い療育が望まれますので、最後に町長の御意見をちょっと。

○議長（大田英勝君） 町長。

○町長（南 政吾君） はい、わかりました。

○2番（高田豊繁君） はい、ありがとうございました。

○議長（大田英勝君） 2番、高田豊繁君の一般質問を終わります。

○議長（大田英勝君） これで、一般質問を終わります。

-----○-----

○議長（大田英勝君） 以上で、本日の日程は、全部終了しました。

次は3月20日本会議であります、日程の都合により、特に午後3時に繰り下げて開くことにします。

定刻まで御参集願います。

本日は、これで散会します。

-----○-----

散会 午後4時18分

平成 2 6 年第 1 回与論町議会定例会

第 3 日

平成 2 6 年 3 月 2 0 日

平成 26 年第 1 回与論町議会定例会会議録
平成 26 年 3 月 20 日（木曜日）午後 3 時 00 分開議

1 議事日程（第 3 号）

開議の宣告

- | | | |
|-----|-----------------|--|
| 第 1 | 議案第 35 号 | 与論町漁港管理条例の一部を改正する条例 |
| 第 2 | 議案第 36 号 | 与論町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例 |
| 第 3 | 議案第 37 号 | 報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例 |
| 第 4 | 議案第 28 号 | 平成 26 年度与論町一般会計予算 |
| 第 5 | 議案第 29 号 | 平成 26 年度与論町国民健康保険特別会計予算 |
| 第 6 | 議案第 30 号 | 平成 26 年度与論町後期高齢者医療特別会計予算 |
| 第 7 | 議案第 31 号 | 平成 26 年度与論町介護保険特別会計予算 |
| 第 8 | 議案第 32 号 | 平成 26 年度与論町と畜場特別会計予算 |
| 第 9 | 議案第 33 号 | 平成 26 年度与論町農業集落排水事業特別会計予算 |
| 第10 | 議案第 34 号 | 平成 26 年度与論町水道事業会計予算 |
| 第11 | 陳情第 22 号 | 多目的屋内運動場におけるバリアフリー対応施設の整備について（総務厚生文教常任委員長報告） |
| 第12 | 陳情第 3 号 | 停電時に通信手段がない世帯に対する防災対策に関する陳情 |
| 第13 | 陳情第 4 号 | 与論町の広報体制の改善に関する陳情 |
| 第14 | 陳情第 20 号 | ハキビナ海岸東岸部における越波被害防止対策工事の実施についての陳情（環境経済建設常任委員長報告） |
| 第15 | 陳情第 21 号 | ハキビナ長崎線海岸における越波被害防止対策工事の実施についての陳情 |
| 第16 | 陳情第 1 号 | 北智野里地区（仮称）農道の舗装整備について |
| 第17 | 陳情第 6 号 | T P P（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情 |
| 第18 | 発議第 1 号 | T P P（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書の提出について（供利泰伸議員ほか 3 人提出） |
| 第19 | 議員派遣の件 | |
| 第20 | 閉会中の継続審査・調査について | 総務厚生文教常任委員会、環境経済建設常任委員会、広報常任委員会、議会運営委員会 |

2 出席議員（10 人）

1 番 林 敏 治 君
3 番 町 俊 策 君
5 番 喜 山 康 三 君
7 番 野 口 靖 夫 君
9 番 福 地 元一郎 君

2 番 高 田 豊 繁 君
4 番 林 隆 壽 君
6 番 供 利 泰 伸 君
8 番 麓 才 良 君
10 番 大 田 英 勝 君

3 欠席議員（0人）

欠員（0人）

4 地方自治法第121条による出席者（16人）

町 長 南 政 吾 君	副 町 長 川 上 政 雄 君
教 育 長 町 岡 光 弘 君	総務企画課長 沖 野 一 雄 君
会計管理者兼会計課長 佐 多 悦 郎 君	税 務 課 長 久 留 満 博 君
町民福祉課長 南 秀 哲 君	環 境 課 長 福 地 範 正 君
産業振興課長 鬼 塚 寿 文 君	商工観光係長 大 馬 福 徳 君
建 設 課 長 山 下 哲 博 君	教委事務局長 池 田 直 也 君
水 道 課 長 末 原 丈 忠 君	与論こども園長 岩 山 秀 子 君
茶花こども園長 酒 勺 徳 雄 君	那間こども園長 高 田 りえ子 君

5 議会事務局職員出席者（2人）

事 務 局 長 川 畑 義 谷 君 係 長 朝 岡 芳 正 君

開議 午後３時００分

—————○—————

○議長（大田英勝君） これから、本日の会議を開きます。

—————○—————

日程第１ 議案第３５号 与論町漁港管理条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第１、議案第３５号、与論町漁港管理条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） よろしく申し上げます。議案第３５号、与論町漁港管理条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

平成２６年４月１日より消費税が５％から８％に変更されることから本条例の一部を改正するものであります。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第３５号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３５号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第３５号、与論町漁港管理条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３５号、与論町漁港管理条例の一部を改正する条例は原案の

とおり可決されました。

-----○-----

日程第２ 議案第３６号 与論町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第２、議案第３６号、与論町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第３６号、与論町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例について、提案理由を御説明申し上げます。

平成２６年４月１日より消費税が５％から８％に変更されることから本条例の一部を改正するものです。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げます、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第３６号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３６号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第３６号、与論町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３６号、与論町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

-----○-----

日程第３ 議案第３７号 報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大田英勝君） 日程第３、議案第３７号、報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（南 政吾君） 議案第３７号、報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由を御説明申し上げます。

与論町百合ヶ浜キャンプ場・コテージ村の施設を一体的に管理・運営するための運営委員会委員の報酬及び費用弁償等、また、併せて、ゆんぬ体験館の運営委員会委員の報酬及び費用弁償等について上記条例において追加するものです。

御審議され、議決していただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（大田英勝君） 提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第３７号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。

御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３７号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第３７号、報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３７号、報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第４ 議案第２８号 平成２６年度与論町一般会計予算

日程第５ 議案第２９号 平成２６年度与論町国民健康保険特別会計予算

日程第６ 議案第３０号 平成２６年度与論町後期高齢者医療特別会計予算

日程第７ 議案第３１号 平成２６年度与論町介護保険特別会計予算

日程第８ 議案第３２号 平成２６年度与論町と畜場特別会計予算

日程第９ 議案第３３号 平成２６年度与論町農業集落排水事業特別会計予算

日程第１０ 議案第３４号 平成２６年度与論町水道事業会計予算

○議長（大田英勝君） 日程第４、議案第２８号、平成２６年度与論町一般会計予算から、日程第１０、議案第３４号、平成２６年度与論町水道事業会計予算までの７件を一括議題とします。

予算審査特別委員会の審査の結果は、お手元に配りました委員会審査報告書のとおりであります。

お諮りします。

予算審査特別委員長の報告は、会議規則第４１条第３項の規定によって省略することにしたと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、委員長報告は、省略することに決定しました。

これから、議案第２８号について討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第２８号、平成２６年度与論町一般会計予算を採決します。

この採決は、起立によって行います。

本案に対する委員会の報告は、原案可決です。議案第２８号、平成２６年度与論町一般会計予算は、委員会の報告のとおり、認定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（大田英勝君） 起立多数です。

したがって、議案第２８号、平成２６年度与論町一般会計予算は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第２９号について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第２９号、平成２６年度与論町国民健康保険特別会計予算を採決します。

本案に対する委員会の報告は、原案可決です。

お諮りします。議案第２９号は、委員会の報告のとおり、決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第２９号、平成２６年度与論町国民健康保険特別会計予算は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第３０号について討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第３０号、平成２６年度与論町後期高齢者医療特別会計予算を採決します。

本案に対する委員会の報告は、原案可決です。

お諮りします。議案第３０号は、委員会の報告のとおり、決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３０号、平成２６年度与論町後期高齢者医療特別会計予算は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第３１号について討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第３１号、平成２６年度与論町介護保険特別会計予算を採決します。

本案に対する委員会の報告は、原案可決です。

お諮りします。議案第３１号は、委員会の報告のとおり、決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３１号、平成２６年度与論町介護保険特別会計予算は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第３２号について討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第３２号、平成２６年度与論町と畜場特別会計予算を採決します。
本案に対する委員会の報告は、原案可決です。

お諮りします。議案第３２号は、委員会の報告のとおり、決定することに御異議
ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３２号、平成２６年度与論町と畜場特別会計予算は、原案の
とおり可決されました。

次に、議案第３３号について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第３３号、平成２６年度与論町農業集落排水事業特別会計予算を
採決します。

本案に対する委員会の報告は、原案可決です。

お諮りします。議案第３３号は、委員会の報告のとおり、決定することに御異議
ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３３号、平成２６年度与論町農業集落排水事業特別会計予算
は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第３４号について討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、議案第３４号、平成２６年度与論町水道事業会計予算を採決します。

本案に対する委員会の報告は、原案可決です。

お諮りします。議案第３４号は、委員会の報告のとおり、決定することに御異議
ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第３４号、平成２６年度与論町水道事業会計予算は、原案のと
おり可決されました。

—————○—————

日程第１１ 陳情第２２号 多目的屋内運動場におけるバリアフリー対応施設の整備
について

日程第 1 2 陳情第 3 号 停電時に通信手段がない世帯に対する防災対策に関する
陳情

日程第 1 3 陳情第 4 号 与論町の広報体制の改善に関する陳情

○議長（大田英勝君） 日程第 1 1、陳情第 2 2 号、多目的屋内運動場におけるバリアフリー対応施設の整備についてから、日程第 1 3、陳情第 4 号、与論町の広報体制の改善に関する陳情までの 3 件を一括議題とします。

総務厚生文教常任委員長の報告を求めます。

○8 番（麓 才良君） ただいま議題となり、当委員会に付託されました「陳情第 2 2 号、多目的屋内運動場におけるバリアフリー対応施設の整備について」「陳情第 3 号、停電時に通信手段がない世帯に対する防災対策に関する陳情」「陳情第 4 号、与論町の広報体制の改善に関する陳情」について、審査の経過と結果を御報告申し上げます。

当委員会は 3 月 1 4 日（金）午前 9 時から林隆壽委員を除く 4 人の委員出席のもと、第 1 委員会室で審査いたしました。

最初に、陳情第 2 2 号については、教育委員会事務局の吉田勉局長補佐の参与を求め現地調査を行った上で審査しました。多目的屋内運動場のトイレについては、施設の西側と東側の屋外に設置することができるほか、車椅子の利用者用トイレは更衣室等を改修することにより対応できる見通しであります。なお、この件については、これまで議会でも当局に要請してきた経緯があることから、全会一致で採択すべきものと決定いたしました。

次に、陳情第 3 号については、安心・安全な災害に強いまちづくりを進める観点からも、全庁的な対応を検討すべきであるとの意見が交わされました。

このため、本件については、該当する世帯を把握するとともに、災害時の救援体制を構築することが必要であると認められます。なお、当委員会においては陳情内容のうち、「加入電話再契約の働き掛け」については、個人の意向によるものであることから、この件を除いては全会一致で採択すべきものと決定いたしました。

次に、陳情第 4 号については、担当課である総務企画課の野口芳徳係長の参与を求め審査しました。広報体制のあり方については、町民のニーズや情報の伝達手段が多様化した現状においては種々適切な見直し・改善の必要があります。そのためには、広報の在り方等に関する検討委員会を設けて、その改善策を検討することが重要であるとの意見で一致しました。なお、この件については、これまで議会でも当局に要請してきていることから、全会一致で採択すべきものと決定いたしました。

以上で当委員会に委託されました陳情の審査の経過と結果についての報告を終わ

ります。

○議長（大田英勝君） 総務厚生文教常任委員長の報告を終わります。

総務厚生文教常任委員長に対する質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 質疑なしと認めます。

これから陳情第２２号、多目的屋内運動場におけるバリアフリー対応施設の整備について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、陳情第２２号、多目的屋内運動場におけるバリアフリー対応施設の整備についてを採決します。

この陳情に対する委員長の報告は採択です。

お諮りします。この陳情は、委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、陳情第２２号、多目的屋内運動場におけるバリアフリー対応施設の整備については、採択することに決定しました。

次に、陳情第３号、停電時に通信手段がない世帯に対する防災対策に関する陳情について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、陳情第３号、停電時に通信手段がない世帯に対する防災対策に関する陳情を採決します。

この陳情に対する委員長の報告は部分採択です。

お諮りします。この陳情は、委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、陳情第３号、停電時に通信手段がない世帯に対する防災対策に関する陳情は、部分採択することに決定しました。

次に、陳情第４号、与論町の広報体制の改善に関する陳情について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、陳情第4号、与論町の広報体制の改善に関する陳情を採決します。

この陳情に対する委員長の報告は採択です。

お諮りします。この陳情は、委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、陳情第4号、与論町の広報体制の改善に関する陳情は、採択することに決定しました。

—————○—————

日程第14 陳情第20号 ハキビナ海岸東岸部における越波被害防止対策工事の実施についての陳情

日程第15 陳情第21号 ハキビナ長崎線海岸における越波被害防止対策工事の実施についての陳情

日程第16 陳情第1号 北智野里地区（仮称）農道の舗装整備について

日程第17 陳情第6号 TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情

○議長（大田英勝君） 日程第14、陳情第20号、ハキビナ海岸東岸部における越波被害防止対策工事の実施についての陳情から、日程第17、陳情第6号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情までの4件を一括議題とします。

環境経済建設常任委員長の報告を求めます。

○6番（供利泰伸君） ただいま議題となり、当委員会に付託されました「陳情第20号、ハキビナ海岸東岸部における越波被害防止対策工事の実施についての陳情」「陳情第21号、ハキビナ長崎線海岸における越波被害防止対策工事の実施についての陳情」「陳情第1号、北智野里地区（仮称）農道の舗装整備について」「陳情第6号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情」について、審査の経過と結果を御報告申し上げます。

当委員会は3月14日（金）に全委員出席のもと開催し、執行部から産業振興課長及び建設課長の参与を求め、現地調査を行いながら審査いたしました。

最初に、陳情第20号について申し上げます。この陳情は、昨年大規模台風が襲来したことにより、施設・建物が破壊されて畜舎・畜牛が流出するとともに、背後地の被害や海水の浸入による被害等が甚大であったことに係るものであります。特に、ここの地区については、災害対策上整備する必要があると認められることから、全会一致で採択すべきものと決定しました。なお、現在、南海岸防災計画を策定中であると同っていますので、町当局におかれましては、県との意見交換等を十

分行いながら万全の体制で事業を進めていただきますよう要望いたします。

次に、陳情第21号について申し上げます。この陳情も昨年の大規模な台風被害を受けたことに係るものであります。特に、ハキビナ長崎線海岸では、南風の台風が発生した時には高波・高潮等による越波被害を直接受けており、早急にその防止対策工事を実施する必要があると認められることから、全会一致で採択すべきものと決定しました。なお、この地域も含めて南海岸防災計画を策定中でありますので、町当局におかれましては、県との意見交換等を十分に行いながら事業を進めていただきますよう要望いたします。

次に、陳情第1号について申し上げます。この陳情は、近年那間地区畑総事業が進捗したことにより新設整備された農道が、住宅や畑地への往来に際して大変利用されていることに係るものであります。この農道は現在砂利道であるため、急勾配区間や排水の不良区間があることに加え、大雨による路面洗掘や畑地への砂利流入被害があるなど、路面の維持や交通事情に大変支障を来しています。このため、早期に改善対策が必要であると認められることから、全会一致で採択すべきものと決定いたしました。

次に、陳情第6号について申し上げます。この陳情は、T P P（環太平洋連携協定）交渉に関するものでありますが、陳情の趣旨が賛同できる内容であると認められることから、採決の結果、全会一致で採択すべきものと決定いたしました。

以上で当委員会に委託されました陳情の審査の経過と結果についての報告を終わります。

○議長（大田英勝君） 環境経済建設常任委員長の報告を終わります。

環境経済建設常任委員長に対する質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 質疑なしと認めます。

これから陳情第20号、ハキビナ海岸東岸部における越波被害防止対策工事の実施についての陳情について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、陳情第20号、ハキビナ海岸東岸部における越波被害防止対策工事の実施についての陳情を採決します。

この陳情に対する委員長の報告は採択です。

お諮りします。この陳情は、委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、陳情第20号、ハキビナ海岸東岸部における越波被害防止対策工事の実施についての陳情は、採択することに決定しました。

次に、陳情第21号、ハキビナ長崎線海岸における越波被害防止対策工事の実施についての陳情について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、陳情第21号、ハキビナ長崎線海岸における越波被害防止対策工事の実施についての陳情を採決します。

この陳情に対する委員長の報告は採択です。

お諮りします。この陳情は、委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、陳情第21号、ハキビナ長崎線海岸における越波被害防止対策工事の実施についての陳情は、採択することに決定しました。

次に、陳情第1号、北智野里地区（仮称）農道の舗装整備について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、陳情第1号、北智野里地区（仮称）農道の舗装整備についてを採決します。

この陳情に対する委員長の報告は採択です。

お諮りします。この陳情は、委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、陳情第1号、北智野里地区（仮称）農道の舗装整備については、採択することに決定しました。

次に、陳情第6号、T P P（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、陳情第6号、T P P（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情を採決しま

す。

この陳情に対する委員長の報告は採択です。

お諮りします。この陳情は、委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、陳情第6号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する陳情は、採択することに決定しました。

—————○—————

日程第18 発議第1号 TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書の提出について

○議長（大田英勝君） 日程第18、発議第1号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書の提出についてを議題とします。

本案について、趣旨説明を求めます。6番。

○6番（供利泰伸君） 発議第1号、TPP（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書について。提出者、与論町議会議員供利泰伸、賛成者、同じく与論町議会議員麓才良、賛成者、同じく与論町議会議員喜山康三、同じく賛成者、与論町議会議員野口靖夫。

上記の議案を、別紙のとおり与論町議会会議規則第14条の規定により提出します。

それでは、提案理由を申し上げます。

TPP交渉は、昨年12月にシンガポールで開催されたが、各国の隔たりが埋まらず、年内妥結を断念し、引き続き協議を続けていくことになった。政府は、国会及び自民党による決議を守るとの交渉姿勢を堅持しているが、今後も国益をかけた極めて厳しい交渉が続くと思われる。しかし、いかなる状況においても現在の姿勢を断固として貫かなければならない。

他方、交渉が大詰めを迎えた今もなお、交渉内容についての十分な情報は開示されないままである。TPPは、国民生活に直結する問題であることから国民に対する情報開示は必要不可欠である。

このため、国会及び関係行政庁に意見書を提出しようとするものです。

○議長（大田英勝君） 趣旨説明を終わります。

これから質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 質疑なしと認めます。

お諮りします。発議第１号は、会議規則第３９条第２項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、発議第１号については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 討論なしと認めます。

これから、発議第１号、ＴＰＰ（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書の提出についてを採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、発議第１号、ＴＰＰ（環太平洋連携協定）交渉に関する意見書の提出については、原案のとおり可決されました。

—————○—————

日程第１９ 議員派遣の件

○議長（大田英勝君） 日程第１９、議員派遣の件を議題とします。

お諮りします。議員派遣の件については、お手元に配りましたとおり、派遣することにしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、議員派遣の件は、お手元に配りましたとおり派遣することに決定しました。

—————○—————

日程第２０ 閉会中の継続審査・調査について

○議長（大田英勝君） 日程第２０、閉会中の継続審査・調査についてを議題とします。

総務厚生文教・環境経済建設・広報・議会運営委員会の各委員長から、お手元に配りました申出書のとおり、閉会中の継続審査・調査の申し出があります。

お諮りします。各委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査・調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大田英勝君） 異議なしと認めます。

したがって、各委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査・調査とすることに決定しました。

—————○—————

○議長（大田英勝君） これで、本日の日程は、全部終了しました。

会議を閉じます。

平成26年第1回与論町議会定例会を閉会します。

御苦労さまでした。

—————○—————

閉会 午後3時39分

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

与論町議会議長 大田 英 勝

与論町議会議員 林 隆 壽

与論町議会議員 供 利 泰 伸